

所アルヲ以テ上告致シマシタ所御繁忙中御採用下サレマシテ誠ニ有リ難ク感謝致シマス次ニ其ノ要旨ヲ列記致シマシテ悃願致シマス次第アリマス就キマシテハ既ニ大罪ヲ犯シタル私トシテ兎ヤ角申上ケマス事ハ被害者ノ故人ニ對シ誠ニ禮ヲ失シ改悛ノ情毫モ無之哉ニ思召スカラ懸念致シマスケレトモ既ニ公判廷ニ於テモ供述仕リマシタ通り昨昭和十二年七月十五日今度ノ日支事變ニ動員ヲ令セラレマシタ私ハ如何ナル重刑ト雖喜ンテ服罪致シマスケレトモ出來得ヘクハ刑務所ニ於テノ服罪ヲ今少シ短縮シテ頂キマシテ之ヲ有事ノ日ニ輦轂ノ下ニ奉公セシメラレ度ク悃願スル次第アリマス次ニハ如何ニ反省致シマスモ如何ニ熱慮致シマスモ第一審以來裁判官各位ノ御判斷ト被告人私自體ノ犯罪ニ對スル動機トハ或ル意味ニ於テ相當ニ間隔ノ有ルテハナイカト思惟致シマスヲ以テ若シ裁判官各位ノ御判斷ト私自體ノ犯意トニ間隙ノ存スル儘ニ服罪致シマス事ハ折角ニ附與シテ下サイマシタ私達臣民ノ權利ヲ拋棄致シマス事ハ返ス返スモ残念ト存シマシテ上告仕リマシタ次第御座イマス私ハ豫審廷以來供述致シ居リマシテ天地神明ニ誓ヒテ毫モ「嘘」ヲ申上ケマセヌ何等作意シテ曲ケテ申開キヲ致ス者テハ御座イマセヌ何卒右様ノ次第ナレハ御審査願ハレマスナレハ私ノ此ノ上モナキ幸甚之ニ過キマセヌ是非トモ御審理ヲ悃願致シマス犯罪ノ動機ニ就キマシテ被害者故人ハ確ニ世ヲ果無ク思ヒマシテ私ニ生活難ノ苦シキ有様使用人ノ薄情妻女ノ無謀等且又實兄ノ冷遇等ヲ再三再四愚痴ヲ申シマシテ暗ニ私ニ自殺ノ意ヲ仄カシ毒藥ノ有無サヘモ問合セタル有様テアリマス調書御被見ノ通り生命保險金受領

ニ對スル分配方法マテ私ニ聞キマシタ事モアリマスヲ以テ自殺ノ意圖ノ有リマシタ事ハ明確テアリマス次ニ生命保險加入ノ動機ニ就キマシテモ決シテ私自體カ勸誘致シマシタ譯テハアリマセヌ却テ被害者故人カ私ヲ勸メタ位テアリマシテ保險加入ハ私ノ方カ仕向ケラレタル有様テアリマス是ハ調書ニモ御座イマス通り被害者ハ最初他ニ借財カ御座イマシテ而モ夫レカ餘リニ高利ナルヲ以テ私ニ借用ヲ申込ミ其ノ金ヲ以テ高利ヲ返済致シ利子差金ヲ以テ利得ヲ企圖シタ様子テアリマス依テ私方ノ利子モ被害者本人申出マシタ額ヨリモ私カ少額ニ致シマシテ決メマシタ所夫レテハ被害者本人カ心カ濟マスト申シマシテ百圓ニ對シ一ヶ月五圓ト云フ額ニ上ケテ一先決メマシタ次第アリマシテ私自體ヨリ何程ト申出タノテハアリマセヌ却テ其ノ當座ノ有様模様ハ被害者本人カ感謝致シ居リマシタ次第アリマシタ然ルニ段々利子ハ拂ヒマセヌノミカ却テ私ニ好感ヲ持タナクナリマシタ而シテ保證人ノ擔保ヲ私カ要求致シマスト一日一日ト口實ヲ儲ケテ言ヒ逃レヲ致シマシテ結局生命保險ニ加入シテ夫レニ依リマシテ借用金ノ保證ト致シマシタ然シ之レトモ年々保險料金ノ支拂モアレハ私ハ最初ハ斷リマシタカ被害者自體トシテ生命保險加入ニヨリ借用金ヲ擔保トスル外方法ナシト存シマシテ生命保險ニ加入致シマシタ次第御座イマスレハ決シテ私カ勸誘セシモノニ非スシテ被害者本人ノ發意ニ依ルモノテアリマス調書ニモ御座イマス通り生命保險加入後被害者本人ハ非常ニ悦ビ私ニ吳々モ御禮ヲ申述ヘマシタ然ルニ第一回保險料金ノ支拂ハ調書ニ明テアリマス第二回以後ノ支拂ハ私カ却テ被害者本人ニ一

杯喰ハサレタ形テアリマシテ調書ニ御座イマス通り私カ如何ニ被害者ヲ有利ニナリマス様ニ相談ヲ致シマシテモ應シテ吳レマセヌ剩ヘ私カ如何ニ相談致シマシテモ如何ニ催促致シマシテモ應シマセンノミナラス其ノ都度厭世的ニ話ヲ進メマシテ嘗テ私カ見セマシタ青酸加里ハ今尙ホ私ノ手許ニ有ルヤ私(被害者本人)カ死ネハ生命保険金ハ貰ヘルヤ生命保険金受領後ハ何程位ヲ長男信夫ニ呉レルヤ等ノ話ヲ致スノテアリマス依テ私ハ被害者本人ハ自殺ノ意思カ充分アルモノト確信致シマシタノテアリマス加之犯罪當時被害者本人ハ病弱ナリシヲ以テ此ノ際一層死期ヲ早メ一ハ被害者本人ハ自殺ノ意思モアル事ナレハ一ハ喘息ト申スモノノ肺結核ヲ患ヒ而モ病狀ハ餘程進ンテ居ルヲ以テ遅クモ八月迄ハ生命覺束ナシト確信致シマシタ故大罪ヲ犯ス様ニ相成リマシタ次第テアリマス要スルニ犯罪ノ動機ハ前述ノ如ク被害者本人カ厭世的自殺ノ口吻ヲ洩シテ毒藥ノ有無ヲ私ニ質シ暗ニ投藥ヲ希望セシカ如ク談話シ私ニ十分自殺ノ意思アリト信セシメタルニ依リ勿論私自身ノ犯行ハ大罪ナレトモ動機上ヨリ御考察御判断下サイマシテ私ノ犯行ハ或ル意味ニ於テ被害者本人ニモ亦責任アルニ非スヤト思考致スノテアリマス寧ロ私ハ靜ニ想ヲ廻シマス時ハ或ル意味ニ於テ被害者本人ヲ非常ニ恨ミタクナル事カアリマス夫レハ私ノ謬見モ甚シキモノテアリマス私ノ犯行ノ大半ハ其ノ動機カ被害者本人カ義務ノ履行ヲセサル爲ニ又自殺意思ノ表示ヲセシ爲ニ私ニ此ノ犯行ヲ爲サシメタルト思ヒマスト夫レテハ相成ラヌ夫レテハ神佛ニ對シテ罰カ當ル夫レテハ被害者本人故人ニ申譯カナイト思ヒナカラモ深夜物靜カニ沈

思致シマスト前記ノ如ク被害者本人ヲ恨ミタクナリマス右様ノ次第ナレハ私ヲ只單ニ殺人罪トシテ御判決相成ルハ餘リニ法ヲ重ク御引用ニ相成ルニハ非スヤト存シマス依テ茲ニ公正ナル御判断ヲ御願ヒ申上ケル次第テ御座イマス次ニ犯罪ノ中斷ニ就キテ御願ヒ申上マス之レモ亦調書ニ御座イマス通り一旦私ハ藥ヲ與ヘマシテカラ良心ノ苛責ニ堪エヌ之ヲ取り戻シニ參リマシタ然ルニ被害者本人ハ既ニ飲ンタ黒イ便通カ有ツタトサヘ申シマシタノテ無事濟ンタ事ト私ハ内心安心致シテ居リマシタ所夫レカラ數日ヲ經テ五月三日使用シタノテアリマス私カ藥ヲ取戻シニ參リマシタ時未ダ飲マスト申セハ私ハ之レヲ完全ニ取戻シテ犯罪ヲ犯サスニ濟ンタ事ト信シマス且亦犯罪モ有耶無耶ニ終ツタノテアリマスサレハ此ノ點モ殊ニ裁判長始メ各位ニ於カセラレテハ御判決ノ上ニ於テ十分御考慮下サイマシテ何卒刑ノ減免ノ上一段ノ御憫察ヲ御願ヒ申上マス之レヲ要シマスニ勿論私ノ只今ノ心境ト致シマシテハ被害者ハ最早故人ナレハ可成供述モ遠慮致シマシテ佛ニ對スル禮ヲ失ハサル様十分ニ瞑福ヲ祈リツツ筆ヲトツテ居リマスカ餘リニ遠慮致シマシテ國法ヲ曲ケテ服罪スルノモ亦國民トシテノ忠良テモナイト思ヒマシテ本書ヲ提出致ス次第テアリマス勿論犯行ヲ否認致スモノテモ作爲シテ犯行ヲ免ルル者テモアリマセヌ前述ノ如ク殺意アツテノ犯行テハアリマセヌマシテ其ノ動機ハ完全ニ被害者本人ニ大半ノ責カアルトシマスレハ私ノ大犯行ハ或意味ニ於テ自殺ヲ幫助セシ事ト相成リ且亦犯罪ノ中斷ノ行爲モ十分御認め願ハレマス事ト確信致シマスレハ私ハ減刑相願ハレルモノト確信致シテ居リマス加之前述

ノ如ク動員マテ令セラレタ私テアリマス或ハ出征セシナレハ今頃ハ陛下ノ赤子トシテ萬歳ヲ唱ヘツツ
護國ノ鬼ト化シテ居ツタカモ知レマセヌ何卒其ノ邊御考察下サイマシテ今一段ト御寛大ナル御裁キア
ラン事ヲ謹ミテ個願致ス次第アリマスト云フニ在レトモ

原判決ニ舉示セル各證據ヲ綜合スレハ優ニ判示事實ヲ證明スルニ足り被告人ノ行為ハ自殺幫助ニ非サ
ルコト洵ニ明ナリ記録ニ徵スルモ原判決ニ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事
由アルヲ認メス而シテ縱シ所論ノ如ク被告人カ杉末千尋ニ青酸加里ヲ交付シタル後被告人自ラ犯意ヲ
翻シ杉末方ニ至リ該藥品ヲ取戻サントシタルニ杉末カ詐ツテ既ニ服用シタルト告ケタル爲同人ニ異狀
ナカリシニ安ンシテ敢テ之ヲ取戻ササリシニ數日後同人カ服用シテ死亡シタル事實ナリトスルモ右ハ
結果發生前結果ノ發生ヲ現實ニ防止シタルモノニアラサルカ故ニ中止未遂ニ當ラサルモノトス蓋シ苟
モ青酸加里ノ如キ毒物ヲ服用シテ激變ナカリシカ如キハ輒ク首肯スヘキ事柄ニ非ス被告人ニシテ眞ニ
結果ノ發生ヲ防止セントセハ宜シク其ノ曩ニ交付シタル藥品カ毒物ナリシコトヲ告白スルノ眞摯ナル
態度ニ出テサルヘカラサルヲ以テ被告人カ單ニ杉末ノ言ニ依リテ其ノ儘放任シ置キタルハ未タ結果ノ
發生ヲ防止スル行為ヲ爲シタルト云フヲ得サレハナリ故ニ被告人カ杉末ニ右藥物ヲ交付シタル行為ト
杉末ノ死トノ間ニ因果ノ關係アリ被告人ハ該結果ノ發生ヲ現實ニ防止セサリシ以上最早ヤ中止犯ノ存
在ヲ認ムルニ由ナキナリ尙又記録中諸般ノ情狀ヲ斟酌スルモ原判決ノ被告人ニ對スル刑ノ量定ニハ甚

【要旨】

シク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由アリト認メ難シ論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由
ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事西村卯關與

○業務上過失致死業務上過失傷害被告事件 (昭和十三年(九)第一六二號 棄却)

(昭和十三年四月十九日第三刑事部判決)

【上告人】 被告人 廣木 秀次 辯護人 (木村市太郎 栗田西之助)

【第一審】 太田區裁判所 【第二審】 水戸地方裁判所

○判示事項

休業中ノ自動車運轉ト業務

○判決要旨

休業中ノ自動車運轉ト業務

免許ヲ受ケテ自己所有ノ自動車運轉ニ從事シ營業ヲ爲シ來リタル者力其ノ休業中偶臨時他人所有ノ自動車ヲ運轉シタル場合ト雖刑法第二百一十一條ニ所謂業務ニ從事スル者ト解スヘキモノトス

【參照】 刑法第二百一十一條 業務上必要ナル注意ヲ怠リ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ

三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

自動車取締令第三十七條第一項 運轉免許ヲ受ケタル者ニ非サレハ自動車ヲ運轉ス

ルコトヲ得ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ禁錮四月ニ處ス訴訟費用ハ被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ自動車運轉者ニシテ昭和十一年中ニモ居眠ヲシナカラ自動車ヲ運轉シ事故ヲ起シタルコトアルモノナルトコ
昭和十二年十月五日モ前日來ノ過勞ト睡眠不足トノ爲極度ノ疲勞ヲ感シ居リ斯ル疲勞ヲ押シテ自動車ノ運轉ニ從事
スルトキハ如何ナル事故ヲ惹起スルヤモ測ラレサルニ拘ラス貨物自動車ヲ操縦シ之ニ鮮魚ヲ積載シ助手菊地進及荷主
方雇人加藤四郎ヲ運轉臺ニ同乗セシメテ水戸市ヨリ茨城縣久慈郡大子町ニ向ヒ同日午前六時二十分頃時速約三十軒ノ
速力ヲ以テ同郡上小川村大字頃藤字宮平地内ニ差蒐リタルカ同所ハ久慈川ニ沿ヒ南北ニ通スル幅員四米ノ道路ニシテ
東方ハ山ニ接シ西方ハ急坂ヲ爲シ約十三米下ニ水流アリテ斯ル場所ヲ通過スル際自動車ノ運轉者タル者ハ特ニ周到ナ
ル業務上ノ注意ヲ爲スヘキニ拘ラス被告人ハ彼上ノ如キ疲勞狀態ニ在リタルヲ以テ斯ル注意ヲ怠リ不注意ニモ運轉ヲ

續ケナカラ居眠ヲ爲シタル爲操縦ヲ誤リ其ノ自動車ヲ同所道路ヨリ久慈川ニ顛落セシメ菊地進ニ治療約二週間ヲ要ス
ル左背部ノ擦過傷等ヲ又加藤四郎ニ右膝下部及肝臟破裂傷ヲ蒙ラシメ因テ加藤四郎ヲシテ内出血ノ爲メ同日午前中同
所附近民家ニ於テ死亡スルニ至ラシメタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中菊地進ニ對スル業務上過失傷害竝ニ加藤四郎ニ對スル業務上過失致死ノ點ハ孰レモ
刑法第二百一十一條ニ該當スルトコロ右ハ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルル場合ナルヲ以テ同法第五十四條第一項
前段第十條ヲ適用シ犯情重キ後者ノ刑ニ從ヒ其ノ所定刑中禁錮刑ヲ選擇シ其ノ刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ禁錮四月ニ
處スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ則リ被告ヲシテ之ヲ負擔セシムヘキモノトス

○主文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理由

辯護人木村市太郎 栗田酉之助上告趣意書第一點原判決ハ事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著
ナル事由アリ原判決ハ「自動車ノ運轉者タル者ハ特ニ周到ナル業務上ノ注意ヲ爲スヘキニ拘ラス被告
人ハ彼上ノ如キ疲勞狀態ニ在リタルヲ以テ斯ル注意ヲ怠リ」云々ト判示セラレタリ然レトモ本件被告
人ハ先年自動車ノ運轉者ヲ營ミタルコトアルモ休業シ居リ昭和十二年十月三日菊地光ヨリ臨時ニ雇ハ
レ巴ムナク單ニ此ノ運搬ニ從事シタルニ過キス繼續的ニ運轉スル趣意ニアラス「業務上」トハ自動車
運轉者ノ營業免許ヲ受ケ居リ繼續的ニ繼續ノ意思ヲ以テ反覆從事スル場合ニ於テ初メテ業務上ノ行爲

休業中ノ自動車運轉ト業務

ト謂フコトヲ得ヘシ原判決ハ此ノ點ニ關スル事實ノ認定ヲ誤リタルモノトス仍テ破毀ヲ免レサルモノトス

按スルニ刑法第二百一十一條ニ所謂業務トハ各人カ社會生活上ノ地位ニ基キ繼續シテ行フ事務ノ謂ナルコト疑ナシト雖其ノ事務カ主タル職業ナルコトヲ必要トスルモノニアラス又自動車ノ運轉ハ免許ヲ受ケタル者ニアラサレハ之ヲ爲スヲ得サルコト自動車取締令第三十七條第一項ノ規定ニ照シ明ナレハ斯ル免許ヲ受ケ自動車運轉者タル地位ヲ取得シ之ニ依リ繼續シテ自己所有ノ自動車運轉ニ從事シ自動車營業ヲ爲シ來リタル者ハ其ノ休業中偶々臨時他人ノ爲其ノ所有ニ係ル自動車運轉ノ事務ヲ執ル場合ト雖刑法第二百一十一條ニ所謂業務ニ從事セルモノト解セサルヘカラス而シテ原判決カ證據トシテ引用セル被告人ノ原審公判廷ニ於ケル供述ニ徵スレハ被告人ハ自動車ノ運轉免許ヲ受ケ自動車營業ヲ爲シ來リタルモノナルトコロ昭和十二年九月其ノ所有ノ自動車徵發トナリタル爲休業中同年十月三日ヨリ菊地光ノ依頼ニ基キ臨時同人所有ノ貨物自動車ノ運轉ニ從事シツツアリタル際同月五日本件事故發生シタルヲ以テ其ノ當時被告人ハ自動車運轉ノ業務ニ從事シ居タルモノト謂フヘク業務上必要ナル注意ヲ爲スヘキ義務アルコト勿論ナリトス然リ而シテ原判決示ノ業務上過失傷害竝同致死ノ事實ハ原判決舉示ノ證據ニ依リ優ニ之ヲ肯認スルニ足リ記録ニ徵スルモ原判決ニ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルヲ認メ難ク論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事西村卯關與

○衆議院議員選舉法違反被告事件(昭和十三年(九)第二六〇號 棄却)

【上告人】 被告人 原口徳太郎 辯護人 八並武治
外六名 松野喜一作

【第一審】 長崎地方裁判所 【第二審】 長崎控訴院 副島武之助

○判示事項

刑事訴訟法第十條ニ所謂同一事件ノ意義——地方裁判所及其ノ支部ト同條ニ所謂數個ノ裁判所——同法第七條ニ所謂數個ノ裁判所ノ意義

○判決要旨

刑事訴訟法第十條ニ所謂同一事件ノ意義 地方裁判所及其ノ支部ト同條ニ所謂數個ノ裁判所ノ意義

- 一 刑事訴訟法第十條ニ所謂同一事件トハ公訴事實及被告人孰レモ同一ナル事件ヲ指稱スルモノトス【要旨第一】
- 二 地方裁判所ト其ノ支部トハ同條ニ所謂數個ノ裁判所ニ該當セサルモノトス【要旨第二】
- 三 同法第七條ニ所謂數個ノ裁判所トハ土地ノ管轄ヲ異ニスル裁判所ヲ指稱スルモノトス【要旨第三】

【參照】 裁判所構成法第三十一條 司法大臣ハ地方裁判所ト其ノ管轄區域内ノ區裁判所ト遠隔ナルカ若ハ交通不便ナルカ爲至當ト認ムルトキハ地方裁判所ニ屬スル民事及刑事ノ事務ノ一部分ヲ取扱フ爲一若ハ二以上ノ支部ノ設置ヲ命スルコトヲ得且支部ヲ開クヘキ區裁判所ヲ定ム

支部ニハ之ヲ設置シタル區裁判所若ハ近隣ノ區裁判所ノ判事ヲ用キルコトヲ得此ノ場合ニ於テ判事ヲ選用スルノ權ハ司法大臣ニ屬ス

司法大臣ハ支部ニ動ムヘキ豫審判事及檢事ヲ命ス

司法大臣ハ支部ノ本部タル地方裁判所ノ管轄區域内ノ區裁判所判事ニ豫審判事ヲ命スルコトヲ得

代理ニ關スル第二十五條ハ支部ニモ亦之ヲ適用ス

刑事訴訟法第十條 同一事件事物管轄ヲ同シクスル數個ノ裁判所ノ豫審又ハ公判ニ繫屬スルトキハ最初ニ公訴ヲ受ケタル裁判所ニ於テ之ヲ審判ス

各裁判所ニ共通スル直近上級裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ後ニ公訴ヲ受ケタル裁判所ヲシテ其ノ事件ヲ審判セシムルコトヲ得

同法第七條 事物管轄ヲ同シクスル數個ノ牽連事件各別ニ數個ノ裁判所ノ公判ニ繫屬スルトキハ各裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ之ヲ一ノ裁判所ニ併合スルコトヲ得

事物管轄ヲ同シクスル數個ノ牽連事件各別ニ數個ノ裁判所ノ豫審ニ繫屬スルトキ亦前項ニ同シ

前二項ノ場合ニ於テ各裁判所ノ決定一致セサルトキハ各裁判所ニ共通スル直近上級裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ事件ヲ一ノ裁判所ニ併合スルコトヲ得

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人原口徳太郎ヲ懲役六月ニ處スル旨（訴訟費用ノ點省略）ノ判決ヲ爲シタリ

昭和十一年二月二十日施行ノ衆議院議員選舉ニ際シ被告人富田等平ハ長崎縣第二區ヨリ立候補シ同年一月二十五日其ノ届出ヲ爲シ被告人秀島秀男ハ同年一月二十五日同候補者ノ選舉事務長トナリ同日其ノ届出ヲ爲シ被告人原口徳太郎及坂本昌二ハ前同日被告人富田匡藏ハ同年二月初頃同立石壽四郎ハ同月五日同飯盛信雄ハ同月十三日孰レモ前示候補者ノ選舉委員ト爲リタルモノ 被告人川口榮一ハ同候補者ノ法定選舉運動者ニ非サルモノナルトコロ

第一 被告人富田等平、原口徳太郎、坂本昌二ハ佐世保民政俱樂部ノ幹部トシテ又被告人岩永八之丞ハ民政黨長崎縣支部北松浦郡部會（以下北松部會ト略稱ス）ノ幹事長トシテ孰レモ其ノ地方ニ於ケル有力ナル政黨員ナルカ昭和十一年

刑事訴訟法第十條ニ所謂同一事件ノ意義 地方裁判所及其ノ支部ト同條ニ所謂數個ノ裁判所 同法第七條ニ所謂數個ノ裁判所ノ意義

年一月十三日民政黨長崎縣支部長牧山耕藏カ衆議院解散後ノ選舉ノ場合ニ於ケル右佐世保市及北松浦郡ノ屬スル同縣第二區ノ民政黨公認候補者二名(内一名ハ既ニ牧山ト確定)ヲ詮衡スル爲召集シタル同支部幹部會ニ於テ被告人原口徳太郎、坂本昌二ハ被告人等平ヲ推シ一方被告人岩永八之丞ハ前回ノ總選舉ニ北松浦郡民政派カ佐世保市側ノ候補者ヲ應援シテ當選セシメタル關係上今次ノ選舉ニハ北松浦郡民政派ヨリ候補者ヲ推スヘキモノナリト爲シ自己ニ立候補ノ意アル旨ヲ表明シ兩々相讓ラサリシ爲其ノ決定ヲ見ルニ至ラザリシヲ以テ被告人八之丞ハ自己ニ黨本部ノ公認ヲ獲得セム爲同月二十一日東京市ニ赴キ牧山耕藏其ノ他ニ面接シタルモ意ノ如クナラザリシヨリ同月二十二日遂ニ立候補ヲ斷念シタル爲被告人等平ノ公認カ確定シタルヲ以テ牧山耕藏ニ於テ直ニ其ノ旨通知スルト共ニ被告人原口徳太郎ニ對シテハ「岩永モ居ル至急上京セヨ」トノ招電ヲ發シタルカ先是昭和六年施行ノ長崎縣會議員選舉ニ際シ同縣北松浦郡ヨリ被告人岩永八之丞及松永惣一郎外一名カ民政黨公認ノ下ニ立候補シタルモ松永ノ當選シタルトコロ被告人八之丞ハ民政黨長崎縣支部ノ長老ニシテ且縣會議長候補者ナリシ爲當時ノ支部長タリシ本田恒之カ松永ノ費消シタル選舉費用ノ一部ヲ補償スルコトヲ約シ同人ニ當選ヲ辭退セシメ被告人八之丞ヲ次點線上ニ依リ當選セシメタルモ其ノ後本田恒之カ民政黨ヲ去リテ國民同盟ニ走り次テ物故シタル爲右ノ約束ヲ履行スモルノナク加フルニ松永ノ家運漸次衰頹シ悲境ニ陥リタルヨリ同人ヲ支持スル北松浦郡幹部會中一部ノ者ハ右支部ノ態度ヲ不快トシ其ノ統制ニ服セス爲ニ選舉對策上遺憾ノ點多カリシトコロヨリ牧山耕藏ハ支部長トシテ被告人八之丞ハ當時ノ關係者ノ一人トシテ共ニ前記所謂松永問題ヲ解決ヲ希望シ居リ被告人富田等平、原口徳太郎、坂本昌二ニ於テモ若シ被告人等平ニ公認ヲ得レハ右ノ所謂松永問題ヲ有利ニ導カント思惟シ居タル折柄牧山耕藏ヨリ前記ノ如キ招電ヲ受領シタルヲ以テ被告人富田等平、原口徳太郎、坂本昌二ノ三名ハ被告人岩永八之丞ニ對シ一ハ同人カ議員候補者タラムトスルヲ止メタルコトノ報酬ト爲ス目的ヲ以テ他ハ被告人等平ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ被告人八之丞ニ被告

人等平ノ爲選舉運動ノ應援方ヲ依頼シ其ノ報酬トシテ慰安料及前記松永問題解決資金名義ノ下ニ金員ヲ供與セムコトヲ共謀シ被告人坂本昌二ニ於テ之カ實行ヲ引受ケ直ニ上京ノ上昭和十一年一月二十四日東京市澁谷區藤田町一丁目九番地牧山耕藏方ニ到リ同人ノ斡旋ニ依リ即時同家ニテ被告人八之丞ニ對シ立候補ヲ斷念シタルコトヲ謝シ尙將來被告人等平ノ爲選舉運動方ヲ依頼シ其ノ承諾ヲ得タル上議員候補者タラムトスルコトヲ止メタルコト並被告人等平ノ爲選舉運動ヲ爲スヘキコトノ報酬ト爲ス趣旨ノ下ニ慰安料金千圓及松永問題解決資金二千圓合計金三千圓ヲ供與スヘキ旨申込ミ其ノ承諾ヲ得以テ供與ノ約束ヲ爲シ他面共同シテ立候補届出前ノ選舉運動ヲ爲シ

(中略)

第三 被告人坂本昌二ハ前記北松浦會ノ幹部立石壽四郎外數名カ松野晃典ト共ニ昭和十一年二月二日佐世保市山一旅館ニ於テ開催シタル候補者推薦協議會ノ席上或者ハ松野ヲ擁立スヘント主張シ或者ハ富田候補ヲ應援スヘント主張シ遂ニ議釋ラスシテ散會シタル由ヲ被告人壽四郎ヨリ聞知スルヤ痛ク之ヲ憂慮シ被告人壽四郎ニ對シ北松浦會一同一致協力シテ富田候補ノ爲應援運動ヲ爲シ吳ルル様靈力方ヲ依頼シタルトコロ被告人壽四郎カ後段判示第十記載ノ如ク被告人山口政吉、川口榮一ト協議ノ結果金三千圓ノ支出方ヲ要求シタルヲ以テ被告人昌二ハ其ノ事情ヲ被告人原口徳太郎、富田匡藏ニ告ケテ之ヲ諮リ其ノ贊同ヲ得茲ニ被告人昌二、徳太郎、匡藏ノ三名ハ前示富田候補ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ被告人壽四郎等北松浦會幹部カ同候補者ノ選舉運動ヲ爲スヘキコトノ報酬トシテ金員ヲ供與セムコトヲ共謀ノ上被告人匡藏ノ支出シタル金千五百圓ヲ被告人昌二ニ於テ同年二月三日佐世保市港町港月旅館ニ持參シ之ヲ同所ニ於テ前記趣旨ノ下ニ被告人壽四郎ニ手交シ以テ被告人壽四郎政吉及榮一ニ供與シ

(中略)

第五 被告人原口徳太郎、富田等平、坂本昌二、秀島秀男及亡豐増市太郎ハ共謀ノ上同年二月二十日佐世保市港町港

刑事訴訟法第十條ニ所謂同一事件ノ意義 地方裁判所及其ノ支部ト同條ニ所謂數個ノ裁判所ノ意義

月旅館ニ於テ前示富田等平ノ爲演説ニ依ル選舉運動ヲ爲シタルコトノ報酬トシテ大野木喜太郎ニ對シ豐増市太郎ヨリ金百七十圓被告人昌二ヨリ金十圓合計金百八十圓ヲ小坂貞雄ニ對シ市太郎ヨリ金百十圓被告人昌二ヨリ金十圓合計金百二十圓ヲ各供與シ

(中略)

第十 被告人立石壽四郎、山口政吉、川口榮一ハ孰レモ北松部會ノ幹部ナルトコロ前記第三記載ノ如キ經緯ニテ立石壽四郎ハ被告人坂本昌二ヨリ北松部會ノ幹部一同一致協力シテ富田候補ノ爲應援運動ヲ爲シ吳ルル様盡力方ヲ依頼セラルルヤ同年二月三日被告人山口政吉、川口榮一ノ兩名ニ其ノ旨ヲ傳ヘテ之ヲ諮リ茲ニ被告人壽四郎、政吉、榮一ノ三名ハ北松部會ノ幹部一同結束シテ富田候補ノ爲應援運動ヲ爲スコトノ報酬トシテ金三千圓ノ供與ヲ受ケムコトヲ共謀シ該謀議ニ基キ被告人壽四郎ニ於テ被告人昌二ニ其ノ旨ヲ傳ヘテ折衝ノ末即日佐世保市港町港月旅館ニ於テ被告人昌二ヨリ前記第三記載ノ趣旨ニテ供與セラルルモノナルコトノ情ヲ知り乍ラ金千五百圓ノ供與ヲ受ケタルモノニシテ被告人原口徳太郎ノ金錢供與及供與ノ約束ハ夫々犯意繼續ニ係ルモノトス
法律ニ照スニ被告人原口徳太郎ノ所爲中判示第一ノ議員候補者タラムトシタルコトヲ止メタルコトノ報酬トシテ金錢供與ノ約束ヲ爲シタル點ハ衆議院議員選舉法第一百三十三條第一項第二號ニ選舉運動ヲ爲スヘキコトノ報酬トシテ金錢供與ノ約束ヲ爲シタル點ハ同法第一百二十二條第一項第一號ニ立候補届出前ノ選舉運動ノ點ハ同法第九十五條ノ二、第一百二十九條ニ該當シ判示第三ノ金錢供與ハ同法第一百二十二條第一項第一號ニ判示第五ノ事後報酬トシテノ金錢供與ハ同法第一百二十二條第一項第三號ニ該當スルトコロ前記二回ノ金錢供與ノ約束及之ト届出前ノ選舉運動トハ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルル場合ナルト同時ニ右金錢供與ノ約束ト前示金錢供與及事後報酬トシテノ金錢供與トハ連續犯ナルヲ以テ刑法第五十四條第一項前段第五十五條第十條ニ則リ最モ重キ右選舉法第一百三十三條第一項所定ノ刑ニ從ヒ各所定刑

中懲役刑ヲ選擇シ主文第一項記載ノ刑ヲ量定處斷スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人原口徳太郎辯護人八並武治、小野喜作上告趣意書第一點原審ハ「刑事訴訟法第十條ニ違反シテ終結シタル豫審決定書」ヲ基本トシテ審理シタル不法ノ裁判ナリ一、本件一件記録九冊ノ中第一冊四百三十一枚ヲ見ルトキハ第一審裁判ニ關與シタル檢事ハ昭和十一年三月六日左ノ如ク豫審ヲ請求シタリ豫審請求書左記被告事件ニ付豫審請求候也昭和十一年三月六日長崎地方裁判所佐世保支部檢事局檢事隈元孝道長崎地方裁判所佐世保支部豫審判事御中衆議院議員選舉法違反立石壽四郎、川久保新治郎、山田政吉、坂本昌二、川口榮一、富田匡藏、尾崎銀作以下公訴事實記載二、越ヘテ同記録九冊ノ中第二冊八百三十二枚ヲ閱スルトキハ同一檢事カ昭和十一年三月十四日又左ノ如ク豫審ノ請求ヲ爲シタリ豫審請求書左記被告事件ニ付豫審請求候也昭和十一年三月十四日長崎地方裁判所檢事局檢事事務取扱檢事隈元孝道長崎地方裁判所豫審判事御中衆議院議員選舉法違反原口徳太郎以下公訴事實記載而シテ右請求書末尾ニ左ノ追書アリ追テ昭和十一年三月六日附豫審ヲ請求シタル立石壽四郎外六名ノ事件ト併合審理相成度三、而シテ右檢事ノ請求ニ依リ長崎地方裁判所豫審判事ハ被告人立石壽四郎外六

刑事訴訟法第十條ニ所謂同一事件ノ意義 地方裁判所及其ノ支部ト同條ニ所謂數個ノ裁判所 同法第七條ニ所謂數個ノ裁判所ノ意義

人ノ被告事件ト上告人原口徳太郎ノ被告事件トヲ併合シテ審理シタリ然レトモ此ノ豫審審理ハ左ノ第一、第二ノ理由ノ如ク違法ナルモノナリ第一理由、當該檢事ハ昭和十一年三月十四日長崎地方裁判所豫審判事ニ對シ上告人原口徳太郎ニ關スル豫審請求書ノ末尾ニ追書トシテ「追テ昭和十一年三月六日附豫審ヲ請求シタル立石壽四郎外六名ノ事件ト併合審理相成度」ト請求スルモ右昭和十一年三月六日ヲ以テ當該檢事カ被告人立石壽四郎外六名ノ豫審ヲ請求シタリシ裁判所ハ長崎地方裁判所ニ非スシテ長崎地方裁判所佐世保支部ナリ從テ右檢事カ被告人立石壽四郎外六人ノ者ト併合審理セラレ度シト云フモ長崎地方裁判所豫審判事ニ於テハ其ノ當時自己ノ管轄内ニ右被告人立石壽四郎外六人ノ犯罪事實アリシヤ否ヤヲ知ルニ由ナキモノナリ故ニ斯クノ如キ請求ハ違法ナリ換言スレハ立石外六人ニ對スル豫審ノ審理ハ長崎地方裁判所ニ繫屬スルニ非スシテ前叙ノ如ク同裁判所ノ佐世保支部ニ繫屬セルヲ以テ只單ニ同檢事カ「昭和十一年三月六日附豫審ヲ請求シタル立石壽四郎外六名ノ事件ト併合審理相成度」ニテハ未タ事理ヲ盡ササル請求ニシテ事實漠然トシテ不明ナリ勢ヒ違法タルヲ免レサルモノナリ從テ斯クノ如キ請求ニ基キ豫審ヲ併合審理シテ初審ヲ經次イテ終局判決ヲ見タル原審ノ裁判ハ勢ヒ違法ノモノト謂ハサルヲ得ス第二理由、前叙ノ如ク上告人ノ犯罪事實ノ豫審ハ被告人立石壽四郎外六名ノ犯罪事實ニ對スル豫審ト併合シテ長崎地方裁判所（佐世保支部ニ非スシテ）豫審判事ニ於テ豫審ヲ終結シタリシモノナリ然レトモ刑事訴訟法第十條ニ依ルトキハ同一事件事物管轄ヲ同シクスル數個ノ

裁判所ノ豫審ハ最初ニ豫審ヲ受ケタル裁判所ニ於テ之ヲ審判ストアルヲ以テ本件被告事件ノ豫審審判ハ長崎地方裁判所佐世保支部ニ於テ法律上終結セサル可カラサリシモノナリト信ス何トナレハ本件ノ場合ニ於テ右第十條ニ所謂最初ニ豫審ヲ受ケタル裁判所ハ長崎地方裁判所佐世保支部ナルヲ以テナリ從テ上告人等ノ犯罪事實ニ對スル豫審ノ審判ヲ長崎地方裁判所ニ於テ終結セシハ違法ナリト謂ハサル可カラス而シテ原審ハ此ノ違法ナル豫審終結ノ下ニ言渡サレタル裁判ナルヲ以テ又違法ナリ其ノ他上告人原口徳太郎ノ記録九冊ノ中第三冊一千五百六十四枚ニ表ハレタル豫審審理モ亦同一ニ違法ニシテ此ノ豫審ノ下ニ立テル原審モ亦違法タルヲ免レサルナリ斯クノ如ク論スルトキハ或ハ佐世保支部ハ長崎地方裁判所ノ支部ナルヲ以テ他ノ裁判所ノ支部ニ非ス從テ長崎地方裁判所ト長崎地方裁判所佐世保支部トハ法律上同一視シ得ヘシ從テ趣意第一點ハ其ノ理由ナシト稱スルモノアリ然レトモ既ニ法律ヲ以テ事務ノ分配方法ヲ定メテ地方裁判所又ハ其ノ支部ト區別シタル以上ハ長崎地方裁判所佐世保支部即チ長崎地方裁判所ナリト云フハ違法ニシテ不可解ノ口實ニ過キサルモノナリト信ス從テ論者ノ右論旨ハ謂ハレナキモノナリト信スト云フニ在レトモ

記録ヲ閱スルニ長崎地方裁判所佐世保支部檢事隈元孝道ハ昭和十一年三月六日立石壽四郎、川久保新治郎、山口政吉、坂本昌二、川口榮一、富田匡藏、尾崎銀作ヲ被告人トシテ衆議院議員選舉法違反被告事件ニ付同地方裁判所佐世保支部豫審判事ニ對シ豫審請求ヲ爲シタルコト及其ノ後長崎地方裁判所

刑事訴訟法第十條ニ所謂同一事件ノ意義、地方裁判所及其ノ支部ト同條ニ所謂數個ノ裁判所ノ意義、同法第七條ニ所謂數個ノ裁判所ノ意義

【要旨第一】

檢事事務取扱檢事隈元孝道ハ同年同月十四日原口徳太郎ヲ被告人トシテ衆議院議員選舉法違反被告事件ニ付同裁判所豫審判事ニ對シ豫審請求ヲ爲シタルコト明カナリト雖右二個ノ豫審請求事件ハ被告人ヲ異ニスルヲ以テ刑事訴訟法第十條ニ所謂同一事件ニ該當セス蓋シ同條ニ所謂同一事件トハ公訴事實及被告人孰レモ同一ナル事件ヲ指稱スルモノナレハナリ又長崎地方裁判所ト同裁判所佐世保支部トハ同法第十條ニ所謂數個ノ裁判所ニモ該當セス何トナレハ支部ノ設置ハ事務分配等ノ便宜ニ出テ内部ノ構成ニ屬スルモノナレハ支部ハ獨立ノ管轄ヲ有セス本廳ノ管轄内ニ在テ其ノ所屬ノ事件ヲ取扱フニ過キサレハナリ左レハ本件ニ付刑事訴訟法第十條ノ適用アリトノ所論ハ正鶴ヲ失セルモノト謂フヘク右等豫審事件ヲ併合審理シテ決定スルコトハ毫モ不法ニ非ス論旨理由ナシ

【要旨第二】

同第二點原審ハ刑事訴訟法第七條第二項及第一項ニ違反シテ終結シタル豫審決定ヲ基本トシテ審理シタル不法ノ裁判ナリ前敍ノ如ク被告人立石壽四郎外六人ニ對スル犯罪事實ノ豫審審理ハ上告人ニ對スル犯罪事實ノ豫審審理ト併合ス可キ旨ヲ當該檢事局ヨリ請求シ來リテ該豫審判事ハ其ノ請求ニ基キ長崎地方裁判所ニ於テ併合審理ヲ爲シタリ而シテ此ノ併合ヲ爲スニハ必スヤ法律上決定ヲ以テ之ヲ爲ササル可カラサルモノナリ之レ刑事訴訟法第七條第二項及第一項ノ記載スルトコロナリ然ルニ拘ラス當該豫審判事ハ右豫審併合ノ決定ヲ與ヘスシテ直チニ其ノ審理ヲ遂ケタルモノノ如シ一件記録中右決定ヲ捜査スルモ不幸之ヲ見出スコト能ハサルナリ若シ之ヲ見出スコト能ハストセハ之レ亦刑事訴訟法第

七條第二項及第一項ニ違反スルモノナリト云ハサルヲ得スト云フニ在レトモ

【要旨第三】

地方裁判所ト其ノ支部トノ關係ハ第一點ニ於テ説明シタルカ如クナルヲ以テ其ノ兩者ハ刑事訴訟法第七條ニ所謂數個ノ裁判所ニ該當スルモノニアラス蓋シ同條ニ所謂數個ノ裁判所トハ土地管轄ヲ異ニスル裁判所ヲ稱スルモノナルヲ以テナリ而シテ所論ノ昭和十一年三月六日附豫審請求ノ事件ト同月十四日附豫審請求ノ事件トハ事物管轄ヲ同シクスル數個ノ牽連事件ナルコト疑ナシト雖後者ハ長崎地方裁判所豫審判事ニ前者ハ同支部豫審判事ニ豫審請求ヲ爲シタルモノナレハ刑事訴訟法第七條第二項第一項ヲ適用スヘキモノニアラス從テ其ノ適用アルコトヲ前提トスル所論ハ採用スルニ由ナシ而シテ同一ノ豫審判事ニ於テ牽連アル二個ノ事件ヲ審理スルニ當リ併合審理ヲ可ナリト思料スルトキハ檢事ノ請求アルト否トニ拘ラス併合シテ審理スルコトヲ得ヘク而モ斯ル場合必スシモ併合ニ付決定書ノ作成ヲ要スルモノニアラサレハ斯ル決定書ヲ作成スルコトナクシテ併合審理ヲ遂ケタル末豫審終結決定ヲ爲スモ毫モ違法ニアラス左レハ長崎地方裁判所豫審判事カ前示二個ノ事件ヲ併合審理ノ上豫審終結決定ヲ爲シ原審カ其ノ決定ニ基キ審判ヲ爲シタルハ毫モ不法ニアラサルヲ以テ論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事村上常太郎關與

刑事訴訟法第十條ニ所謂同一事件ノ意義 地方裁判所及其ノ支部ト同條ニ所謂數個ノ裁判所 同法第七條ニ所謂數個ノ裁判所ノ意義

○公正證書原本不實記載行使詐欺被告事件

(昭和十三年(レ)第一六六號 棄却)
同年四月二十二日第三刑事部判決

【上告人】

被告人

島山新五郎

辯護人

(秋山 大井 靜雄 一)

【第一審】

能代區裁判所

【第二審】

秋田地方裁判所

○判示事項

不實記載公正證書原本ニ依ル謄本ノ作成ト該原本ノ行使

○判決要旨

犯人カ公證人ニ對シ虚偽ノ申立ヲ爲シ公證人役場以外ノ場所ニ於テ公正證書原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル上即時自己ノ請求ニ依リ之ヲ謄本ヲ作成セシメタルトキハ未タ該原本カ公證人役場ニ備付ラルルニ至ラサルモ既ニ其ノ行使アリタルモノニ外ナラス

【参照】 刑法第五十七條第一項 公務員ニ對シ虚偽ノ申立ヲ爲シ權利義務ニ關スル

不實記載公正證書原本ニ依ル謄本ノ作成ト該原本ノ行使

公正證書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

(以下省略)

同法第五十八條第一項 前四條ニ記載シタル文書又ハ圖畫ヲ行使シタル者ハ其文書又ハ圖畫ヲ偽造若クハ變造シ又ハ虛偽ノ文書若クハ圖畫ヲ作り又ハ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ト同一ノ刑ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役八月ニ處ス但三年間右刑ノ執行ヲ猶豫スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ昭和九年五月十五日ヨリ居村保證責任濱口村信用販賣購買利用組合長理事トシテ組合ノ事務一般ヲ取扱ヒ來リタルトコロ同組合カ豫テ組合員ニ對スル貸付金等ノ回收困難ヨリ其ノ事業資金ニ窮シ之カ調達ニ苦慮シ居リタル折柄偶々昭和十一年十二月頃秋田市居住貸金業越後谷榮治カ同組合農業倉庫入庫票ヲ擔保ニ資金貸付ノ意向アルコトヲ聞知スルヤ茲ニ虛偽ノ入庫票ヲ擔保ニ金員ヲ騙取シ之ヲ事業資金ニ當テシテ事ヲ企圖シ當事同組合農業倉庫ニハ同組合理事三浦嘉治郎ノ入庫米ハ玄米七十俵ノミニシテ之ニ對シテハ既ニ入庫票ヲ發行シ在リ又同組合理事荒谷四方治、清水福藏ニ於テハ何等ノ入庫米ナカリシニ拘ラス昭和十一年十二月三十一日前記組合事務所ニ於テ右組合長資格ヲ以テ被告人名義ノ三浦嘉治郎所有ノ梗玄米合計二百四十五俵荒谷四方治所有ノ梗玄米合計二百四十八俵清水福藏所有ノ梗玄米合計二百五十俵ヲ同組合農業倉庫ニ入庫シアル旨虛偽ノ入庫票九枚ヲ作成スルト共ニ右嘉治郎等三名ヨリ同人等カ連帶債務者トナリ被告人カ其ノ代理人トシテ他ヨリ金員借受ヲ爲スノ承諾ヲ得タル上同日午後七時頃秋田市三浦旅

館ニ於テ右入庫票ヲ越後谷榮治ニ提出シ恰モ該入庫票記載ノ通り眞實同倉庫ニ前記玄米カ入庫シアルモノノ如ク裝ヒ之レヲ擔保トシテ金員貸與方ヲ申込ミ同榮治ニ於テ之カ公正證書ヲ作成シテ應諾スヘキ旨答フルヤ兩名ニテ其ノ頃同市秋田地方裁判所々屬公證人中西徳五郎ノ役場ニ至リ被告人ヨリ同公證人ニ對シ前記三浦嘉治郎等三名カ連帶借用人トナリ被告人カ個人トシテ又前記組合長トシテ其ノ保證人トナリテ金借スルニ付前記ノ如ク何等入庫米ナキニ拘ラス前同様入庫シアリテ之ヲ目的トシテ右榮治ニ對シ質權ヲ設定スルモノナル旨虛偽ノ申立ヲ爲シ因テ情ヲ知ラサル同公證人ヲシテ同市川反町料理店初音家事入谷はつ方ニ於テ同役場第一萬九千七百六十六號債權者越後谷榮治連帶債務者三浦嘉治郎、荒谷四方治、清水福藏等三名代理人島山新五郎名義ノ金額七千八百圓ノ金員貸借質權設定契約公正證書ノ原本ニ其ノ旨不實ノ記載ヲ爲サシメ次テ即時同所ニ於テ三浦嘉治郎外二名ニ下付セラルヘキ之カ贖本ヲ作成セシメテ同不實記載ノ公正證書原本ヲ行使セシメ因テ右榮治ヲシテ眞實前記入庫票記載ノ如キ入庫米存在シ之ニ付前記ノ如ク公正證書ノ成立アリタルモノト誤信セシメ即時同所ニ於テ同人ヨリ貸借名義ノ下ニ現金四千五百八十九圓二十五錢金額二千七百四十二圓七十五錢ノ小切手ヲ受取リテ之ヲ騙取シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ所爲公正證書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル點ハ刑法第五百五十七條第一項ニ其ノ行使ノ點ハ同法第五十八條第一項第五十七條第一項ニ詐欺ノ點ハ同法第二百四十六條第一項ニ各該當スルトコロ右ハ其ノ間順次手段結果ノ關係アルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第十條ニ依リ重キ詐欺罪ノ刑ニ從ヒ所定期限範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役八月ニ處スヘク尙刑ノ執行ヲ猶豫スヘキ情狀アリト認メ同法第二十五條ニ從ヒ本判決確定ノ日ヨリ三年間右刑ノ執行ヲ猶豫スヘキモノトス

○主文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

不實記載公正證書原本ニ依リ贖本ノ作成ト該原本ノ行使

辯護人秋山薫一同秋山五郎上告趣意書第二點原判決ハ被告人カ前項公正證書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメ以テ即時三浦嘉治郎外二名ニ下附セラルヘキカ謄本ヲ作成セシメテ同不實記載ノ公正證書原本ヲ行使セシメ云々ト認定シ刑法第五十八條第一項ヲ適用シタルモ同公正證書ノ原本ヲ作成セシメ公證役場ニ備付セシメタル場合ハ格別該公正證書ノ謄本ヲ作成セシメタリトテ刑法第五十八條第一項ノ行使罪ヲ構成スルモノニ非サレハ此ノ點ニ於テモ原判決ハ理由ニ齟齬アルモノト謂ハサル可カラスト云フニ在リ

按スルニ公證人役場ニ於テ公證人ニ對シ虚偽ノ申立ヲ爲シ權利義務ニ關スル公正證書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル場合ハ該公正證書カ直チニ同役場ニ備付ケラレ利害關係人ノ閱覽シ得ヘキ状態ニ置カルルヲ以テ右備付ニ依リ行使セラルルヲ通常ノ事例ト爲セトモ公證人役場以外ノ場所ニ於テ被告人ノ虚偽ノ申立ニ依リ不實ノ記載アル公正證書カ作成セラレ且即時其ノ場ニ於テ囑託人ノ代理人タル被告人ノ請求ニ因リ該公正證書ノ原本ニ基キ謄本カ作成下附セラレタル如キ場合ニ於テハ右原本カ公證人役場ニ備付ケラルルヲ俟タス既ニ其ノ行使アリタルモノト認ムヘキモノトス蓋文書ノ行使トハ偽造又ハ變造ノ文書ヲ其ノ用方ニ從ヒ真正ナルモノトシテ使用スルノ謂ニシテ彼上ノ如ク利害關係人ノ請求ニ因リ不實記載アル公正證書原本ニ基キ謄本カ作成セラルルニ於テハ該公正證書ハ未タ備付ケラ

【要旨】

ルルニ至ラサルモ既ニ本來ノ趣旨ニ從テ使用セラレタルモノニ外ナラサレハナリ原判示事實ニ依レハ被告人ハ昭和九年五月十五日ヨリ居村保證責任濱口村信用販賣購買利用組合長理事トシテ組合ノ事務一般ヲ取扱ヒ來リタルトコロ同組合カ豫テ組合員ニ對スル貸付金等ノ回収困難ナルヨリ其ノ事業資金ニ窮シ之カ調達ニ苦慮シ居リタル折柄偶昭和十一年十二月頃秋田市居住貸金業越後谷榮治カ同組合農業倉庫入庫票ヲ擔保ニ資金貸付ノ意向アルコトヲ聞知スルヤ茲ニ虚偽ノ入庫票ヲ擔保ニ金員ヲ騙取シ之ヲ事業資金ニ當テシテコトヲ企圖シ當時同組合農業倉庫ニハ同組合理事三浦嘉治郎ノ入庫米ハ玄米七十俵ノミニシテ之ニ對シテハ既ニ入庫票ヲ發行シ在リ又同組合理事荒谷四方治、清水福藏ニ於テハ何等ノ入庫米ナカリシニ拘ラス昭和十一年十二月三十一日前記組合事務所ニ於テ右組合長資格ヲ以テ被告人名義ノ三浦嘉治郎所有ノ梗玄米合計二百四十五俵荒谷四方治所有ノ梗玄米合計二百四十八俵清水福藏所有ノ梗玄米合計二百五十俵ヲ同組合農業倉庫ニ入庫シアル旨虚偽ノ入庫票九枚ヲ作成スルト共ニ右嘉治郎等三名ヨリ同人等カ連帶債務者トナリ被告人カ其ノ代理人トシテ他ヨリ金員借受ヲ爲スノ承諾ヲ得タル上同日午後七時頃秋田市三浦旅館ニ於テ右入庫票ヲ越後谷榮治ニ提出シ恰モ該入庫票記載ノ通り眞實同倉庫ニ前記玄米カ入庫シアルモノノ如ク裝ヒ之ヲ擔保トシテ金員貸與方ヲ申込ミ同榮治ニ於テ之カ公正證書ヲ作成シテ應諾スヘキ旨答フルヤ兩名ニテ其ノ頃同市秋田地方裁判所屬公證人中西徳五郎ノ役場ニ到リ被告人ヨリ同公證人ニ對シ前記三浦嘉治郎等三名カ連帶借用人ト爲リ被告

不實記載公正證書原本ニ依ル謄本ノ作成ト該原本ノ行使

人カ個人トシテ又前記組合長トシテ其ノ保證人ト爲リ金借スルニ付前記ノ如ク何等入庫米ナキニ拘ラ
 ス前同様入庫シアリテ之ヲ目的トシテ右榮治ニ對シ質權ヲ設定スルモノナル旨虛偽ノ申立ヲ爲シ因テ
 情ヲ知ラサル同公證人ヲシテ同市川反町料理店初音家事入谷はつ方ニ於テ同役場第二萬九千七百六十
 六號債權者越後谷榮治連帶債務者三浦嘉治郎、荒谷四方治、清水福藏等三名代理人畠山新五郎名義ノ
 金額七千八百圓ノ金員貸借並質權設定契約公正證書ノ原本ニ其ノ旨不實ノ記載ヲ爲サシメ次テ即時同
 所ニ於テ三浦嘉治郎外二名ニ下附セラルヘキ之カ謄本ヲ作成セシメテ同不實記載ノ公正證書原本ヲ行
 使セシメ因テ右榮治ヲシテ眞實前記入庫票記載ノ如キ入庫米存在シ之ニ付前記ノ如ク公正證書ノ成立
 アリタルモノト誤信セシメ即時同所ニ於テ同人ヨリ貸借名義ノ下ニ現金四千五百八十九圓二十五錢金
 額二千七百四十二圓七十五錢ノ小切手ヲ受取リテ之ヲ騙取シタルモノナリト謂フニ在ルヲ以テ右ノ如
 ク公正證書ノ原本ニ不實記載ヲ爲サシメタル上該公正證書原本ニ基キ謄本ヲ作成セシメタル被告人ノ
 所爲カ不實記載公正證書原本ノ行使罪ヲ構成スルコト前説明ノ趣旨ニ從テ明カナリ然ラハ原判決ニハ
 所論ノ如キ違法アルコトナク論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)
 以上ノ理由ナルニ依リ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
 檢事西村卯關與

○衆議院議員選舉法違反被告事件(昭和十三年(レ)第三四六號 棄却)

【上告人】 被告人 吉澤勇次郎 辯護人 八木武一、久江治、海老澤廣江
 【第一審】 新潟地方裁判所長岡支部 【第二審】 東京控訴院

○判示事項

選舉委員ノ支出シタル演說ニ依ル運動費用ト選舉事務長ノ文書ニ
 依ル承諾ノ要否——刑ノ執行猶豫ノ言渡ト衆議院議員選舉法第三百三
 十七條第三項ノ宣告及效果

○判決要旨

一衆議院議員選舉ニ際シ選舉委員トシテ選舉費用ヲ支出スルニハ
 其ノ費用力演說ニ依ル選舉運動ニ關スル實費ナリトスルモ衆議

選舉委員ノ支出シタル演說ニ依ル運動費用ト選舉事務長ノ文書ニ依ル承諾ノ要否
 刑ノ執行猶豫ノ言渡ト衆議院議員選舉法第三百三十七條第三項ノ宣告及效果

院議員選舉法第一百條第一項ニ從ヒ選舉事務長ノ文書ニ依ル承諾ヲ要スルモノトス【要旨第一】

二 衆議院議員選舉法第一百條ノ罪ニ付刑ニ處セラレ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル者ニ付テモ同法第三百三十七條第三項ノ宣告ヲ爲スヲ得ヘキモノトス【要旨第二】

三 右ノ場合ニ於テ刑ノ執行猶豫ノ期間中ハ選舉權及被選舉權ヲ有セサルモ該期間經過シタルトキハ之ト同時ニ右資格ヲ回復スルニ至ルモノトス【要旨第三】

【參照】 衆議院議員選舉法第九十七條 選舉事務長又ハ選舉委員ハ選舉運動ノ爲ニ要スル飲食物、船車馬等ノ供給又ハ旅費、宿泊料其ノ他ノ實費ノ辨償ヲ受クルコトヲ得演說又ハ推薦狀ニ依リ選舉運動ヲ爲ス者豫メ議員候補者又ハ選舉事務長ノ文書ニ依ル承諾ヲ得テ其ノ運動ヲ爲スニ付亦同シ

同法第一百條 立候補準備ノ爲ニ要スル費用ヲ除クノ外選舉運動ノ費用ハ選舉事務長ニ非サレハ之ヲ支出スルコトヲ得ス但シ議員候補者又ハ選舉委員ハ選舉事務長ノ文書ニ依ル承諾ヲ得テ之ヲ支出スルコトヲ妨ケス
議員候補者、選舉事務長又ハ選舉委員ニ非サル者ハ選舉運動ノ費用ヲ支出スルコトヲ得ス但シ演說又ハ推薦狀ニ依ル選舉運動ノ費用ハ之ノ限ニ在ラス

同法第三百三十四條 第一百條ノ規定ニ違反シテ選舉運動ノ費用ヲ支出シタル者ハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

同法第三百三十七條 本章ニ掲クル罪(第三百三十條及第三百三十二條ノ罪ヲ除ク)ヲ犯シタルモノニシテ罰金ノ刑ニ處セラレタル者ニ在リテハ其ノ裁判確定ノ後五年間、禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ニ在リテハ其ノ裁判確定ノ後執行ヲ終ル迄又ハ刑ノ時効ニ因ル場合ヲ除クノ外刑ノ執行ノ免除ヲ受クル迄ノ間及其ノ後五年間衆議院議員及選舉ニ付本章ノ規定ヲ準用スル議會ノ議員ノ選舉權及被選舉權ヲ有セス禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ニ付其ノ裁判確定ノ後刑ノ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ間亦同シ

第三百十二條乃至第三百十三條ノ罪又ハ此等ノ規定ノ準用ニ依ル罪ニ付刑ニ處セラレタル者ニシテ更ニ第三百十二條乃至第三百十三條ノ罪ニ付刑ニ處セラレタル者ニ在リテハ前項ノ五年間ハ之ヲ十年間トス
裁判所ハ情狀ニ因リ刑ノ言渡ト同時ニ第一項ニ規定スル者ニ對シ同項五年間選舉權及被選舉權ヲ有セサル旨ノ規定ヲ適用セス若ハ其ノ期間ヲ短縮スル旨ノ宣言ヲ爲シ又ハ前項ニ規定スル者ニ對シ同項ノ十年間ヲ短縮スル旨ノ宣言ヲ爲スコトヲ得

前三項ノ規定ハ第六條第五號ノ規定ニ該當スル者ニハ之ヲ適用セス
利法第二十五條 左ニ記載シタル者二年以下ノ懲役又ハ禁錮ノ言渡ヲ受ケタルトキハ情狀ニ因リ裁判確定ノ日ヨリ一年以上五年以下ノ期間内其執行ヲ猶豫スルコトヲ得

選舉委員ノ支出シタル演說ニ依ル運動費用ト選舉事務長ノ文書ニ依ル承諾ノ要否
利ノ執行猶豫ノ言渡ト衆議院議員選舉法第三百三十七條第三項ノ宣告及效果

- 一 前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者
 - 二 前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトアルモ其執行ヲ終リ又ハ其執行ノ免除ヲ得タル日ヨリ七年以内ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者
- 同法第二十七條 刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消サルルコトナクシテ猶豫ノ期間ヲ經過シタルトキハ刑ノ言渡ハ其效力ヲ失フ

○事實

第二審ハ左記事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シテ被告人ニ對シ禁錮一月ニ處ス第一審ニ於ケル未決勾留日數中二十日ヲ右本刑ニ算入ス但本裁判確定ノ日ヨリ一年間右刑ノ執行ヲ猶豫ス衆議院議員選舉法第百三十七條第一項五年間選舉權及被選舉權ヲ有セサル旨ノ規定ヲ適用セサル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人樋口信五郎ハ昭和十一年二月二十日施行セラレタル衆議院議員選舉ニ際シ新潟縣第三區ヨリ立候補シタル佐藤謙之輔ノ選舉事務長ニ選任セラレ被告人八木完三ヲ除ク其ノ他ノ被告人ハ孰レモ右候補者ノ法定ノ選舉運動者タリシモノナルトコロ

(中略)

第十六 被告人吉澤勇次郎ハ昭和十一年二月十一日頃ヨリ同月十九日頃迄ノ間ニ於テ前記佐藤候補者ノ選舉事務長樋口信五郎ノ文書ニ依ル承諾ヲ得シテ新潟縣三島郡來迎寺村等ニ於テ選舉運動費三十五圓五十錢ノ支出ヲ爲シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示第十六ノ所爲ハ衆議院議員選舉法第百三十四條第一項但書ニ該當スルトコロ刑法

第二十一條ニ則リ未決勾留日數中二十日ヲ右本刑ニ算入シ且情狀刑ノ執行猶豫ヲ爲スヲ相當ト認メ同法第二十五條刑事訴訟法第三百五十八條第二項ニ則リ本裁判確定ノ日ヨリ一年間右刑ノ執行ヲ猶豫スヘク尙衆議院議員選舉法第百三十九條第三項ニ則リ同條第一項ノ五年間選舉權及被選舉權ヲ有セサル旨ノ規定ヲ適用セス

○主文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理由

辯護人荊木一久上告趣意書一、被告人ハ選舉委員ノ資格ニ於テ三十五圓五十錢也ノ支拂ヲ爲シタルニ非スシテ委員安藤榮吉ヨリ使途ノ指定アル支拂ヲ爲シタルニ止マル(安藤ヨリ現金ヲ預リタリヤ同人ニ對スル時貸トシ立替ヘタリヤハ罪責ニ影響ナシ)原審ハ吉澤カ選舉委員タリシ事實ヲ過大ニ評價シテ一概ニ文書ニヨル承諾書ヲ所持セサリシコトニノミ著目シ有罪認定ヲ與ヘタルモ右吉澤カ選舉委員タラサリシ場合モ尙此ノ程度ニ於テ有責事項ト認ムヘキヤ否ヤニ付テ檢討ヲ爲スヘキモノナリト信ス

被告人ハ安藤委員ノ支拂ヲ爲スヘキ地域内ニ於テ應援演說ニ出掛ケルニ際シ其ノ出先ノ糧代薪炭代等ノ緊急必要ナル經費ニ付テ支拂方ヲ委託セラレ同委員ノ使途指定ノ下ニ支拂ヲ爲シタルニ止マリ被告人カ委員トシテノ獨立ノ權限ノ下ニ之ヲ爲シタル關係ニ非ス右ノ事實ハ證人安藤榮吉カ原審ニ於テ明カニ「私カ事務所ニ居ツテ分擔地域ノ方ノ演說會ニ行カレナイ爲ニ吉澤カ其ノ方面ヲヤルニ付テ色々

選舉委員ノ支出シタル演說ニ依ル運動費用ト選舉事務長ノ文書ニ依ル承諾ノ要否
刑ノ執行猶豫ノ言渡ト衆議院議員選舉法第百三十七條第三項ノ宣告及效果

實費カ入りマスカラ私カラ前以テ後拂フカラ一時立替支拂ヲシテ吳レト頼ンテ置イタノテス」ト述
 へ檢事廷以來此ノ供述ニ異同ナシ然シテ其ノ都度其ノ支出内容ヲ被告人ヨリ安藤委員ニ報告シタルカ
 故ニ安藤ノ手帳ニハ明カニ其ノ記載存スルナリ(證第一二號參照)二、被告人ハ支出承認書ヲ受取ラ
 サルニ非ス二月二十七日被告人カ其ノ支出金ノ精算書ヲ安藤ニ提出シテ之カ支拂ヲ受クルニ當リ立會
 ヒタル委員佐藤徹治カ之ニ心付キ被告人ノ爲ニ金五十圓ノ支出承諾書ヲ作成シ之ニ事務長ノ印ヲ押捺
 シテ事務主任ニ交付シタリ右ハ豫審第三回被告人訊問調書ニ明カニシテ證第五號中ニ綴込ミ有リ選舉
 法ハ選舉費用ノ支拂ヲ原則トシテ事務長一人ニ止ムル趣旨ヲ以テ選舉委員ノ支拂ニ付テハ事務長ノ文
 書ニヨル承諾ヲ要求スレ共現實ノ選舉ニ於テ事務長自ラ筆ヲ採リ自ラノ意思決定ニ基イテ承諾書ヲ作
 成スルカ如キハ絕對ニ期待シ難シ多忙亂戰ノ間ニ處シテ斯ル事務的處理ヲ事務長ニ求ムルコトハ不可
 能ヲ強フルモノナリ斯ル文書ハ總テ事務所詰ノ會計委員ノ作成ニ係ルヲ通例トシ法律モ強テ之ヲ違法
 トシテ取扱フ趣旨ニ非スト信ス要ハ一切ノ選舉費用ノ精算ヲ事務長ノ責任ニ歸一シテ法定費用ノ脱法
 的超過其ノ他ノ不當支出ヲ抑制セントスル趣意ニ外ナラス被告人ハ自己ノ精算ニ先立テ先ノ支出ニ付
 テ追認ヲ得テ法ノ要求スル選舉費用ノ事務長歸一主義ヲ忠實ニ實行シタルモノナリ斯ル場合ハ絕對
 ニ追認ヲ許ササル趣旨ニ解スヘキ根據ナキニ不拘原審ハ之ニ對シ何等ノ顧慮ヲ用ヒス三、斯クテ被告
 人ハ自ラノ支出承諾書ヲ得タルカ故ニ其ノ承諾書ノ日附ヲ支出前ニ遡ラシメルコトニヨツテ極メテ安

全ニ訴追ヲ免レ得ル狀態ニ在リタリ然ルニ更ニ之ヲ意ニ介サス全部安藤委員ノ支出金中ニ包含精算セ
 シメタル所以ノモノハ當事者ノ意思カ正ニ此處ニ存シタルカ故ニ外ナラス然ラサレハ何ヲ好ミテ殊更
 ニ危險ノ伴フ斯ル處理方法ヲ擇フヘキヤ被告人ノ金錢支出關係ハ全ク安藤委員トノ個人貸借俗ニ所謂
 「時貸」ノ關係ニ止マリ而シテ之カ支出ハ選舉委員安藤榮吉ノ使途指定ノ特定支拂ヒタルニ過キス決
 シテ選舉委員トシテノ被告人ノ責任支出ト認定スルヲ得サルナリ四、被告人ニ對スル前審ノ刑ハ一月
 ノ體刑ニ對シ一年ノ執行猶豫ヲ附シ且一月中二十日ノ未決勾留ヲ通算シ而モ公權ノ停止ヲ免除シタリ
 事案ノ輕微推シテ知ルヘキナリ而モ斯ル僅少ノ形式論的嫌疑ニヨリテ被告人ハ新潟縣會議員トシテノ
 公職ヲ失フニ至ルナリ刑罰輕キノ故ヲ以テ看過シ得サルナリ原審ハ果シテ安藤委員カ使途指定ノ下ニ
 被告人ニ對シ特定支拂ノ委託ヲナシタルモノナリヤ否ヤニ關スル究明ヲ爲サス又承諾書ノ追認的效力
 ニ對シテ何等ノ判定ヲ爲サスシテ被告人ニ對シ有罪判決ノ言渡ヲ爲シタリ素ヨリ審理不盡ノ責免レ難
 ク當然破毀相成ルヘキモノト確信致候ト云ヒ辯護人八並武治同海老澤廣江上告趣意書第一點原判決
 ハ被告人ノ犯罪事實トシテ昭和十一年二月十一日頃ヨリ同月十九日頃迄ノ間ニ於テ選舉事務長ノ文書
 ニ依ル承諾ヲ得シテ新潟縣三島郡來迎寺村等ニ於テ選舉運動費三十五圓五十錢ノ支出ヲ爲シタルモ
 ノナリト認定セラレ然シテ衆議院議員選舉法第一百條第一項但書同法第三百三十四條ヲ以テ之ヲ處斷シ
 タリ然ルニ原判決舉示ノ證據ニヨレハ同年二月十一日ヨリ二月十九日迄ノ間ニ選舉運動費三十五圓五

十錢ヲ支出シタル旨ノ記載アルモ如何ナル選舉運動費ナルカノ具體的事實ヲ明カニセス依テ證第十二號ニヨリ右三十五圓五十錢ノ内容ヲ見ルニ以下ノ如シ(參照原審公判記錄一六四二丁)

二月十二日	夕食代四人分	二圓	內被告人ノ分	五十錢
同 日	演說會場木炭代	一圓		
二月十四日	同	五十錢		
同 日	同	五十錢		
二月十五日	同	一圓		
同 日	夕食代三人分	一圓五十錢	被告人分	五十錢
同 日	演說會場木炭代	五十錢		
二月十七日	櫛代	七圓	被告人分	七圓
同 日	演說會場木炭代	五十錢		
同 日	夕食代二人分	一圓	被告人分	五十錢
二月十八日	夕食代四人分	二圓	被告人分	五十錢
二月十九日	櫛代四臺分	十四圓	被告人分	三圓五十錢
同 日	夕食代四人分	二圓	被告人分	五十錢

委員在職中汽車賃

合計 三十五圓五十錢

被告人分

合計十五圓

右費用支出ノ内容ニヨリ之ヲ觀レハ演說ニヨル選舉運動ノ費用ナリ(第一審第二回公判調書被告人供述參照)演說ニヨル選舉運動ノ費用支出ナリトセハ選舉事務長ノ文書ニヨル支出承諾書ヲ必要トスルノ限リニ非ス演說又ハ推薦狀ニヨル選舉運動ノ費用ハ選舉運動者ナルト第三者ナルトヲ問ハス自由ニ支出シ得ルコト衆議院議員選舉法第百一條第二項但書ノ規定ノ解釋上當然ナリト云ハサルヘカラス論者或ハ選舉法第百一條第二項但書ノ適用ヲ受クルモノハ第三者ニ限リ選舉運動者ヲ包含スルモノニ非ス選舉委員ニシテ演說又ハ推薦狀ニヨル費用支出ヲ爲スニハ常ニ必ス選舉事務長ノ文書ニ依ル支出承諾書ヲ必要トスルモノナリトナスモノアレトモ(參照昭和六年(れ)第一二三七號第一刑事部判決)第百一條條文ノ記載明確ヲ缺クモノアリト雖モ既ニ第三者ハ演說推薦狀ニ依ル選舉運動ニ限リテ其ノ自由ヲ與ヘラレ費用ノ支出又此ノ種ノ運動ノ爲ニスル分ニ限リテ其ノ自由ヲ與ヘラルルヨリ推論シ所謂第三者ヨリ廣汎ナル權能ヲ有スル選舉委員等カ當然ニ其ノ自由ヲ享有スヘキモノタルコト法ノ精神ナリト云ハサルヘカラス(同說三宅正太郎、石原雅二郎、坂千秋合著改訂普選法釋義七五一頁七五二頁)然ルニ原判決カ是ニ對シ第百一條第一項但書第百三十四條ヲ適用シタルハ法令ノ適用ヲ謬リタル違法アルモノト信スト云ヒ」第二點原判決ハ……來迎寺村等ニ於テ選舉運動費三十五圓五十錢ノ支出

選舉委員ノ支出シタル演說ニ依ル運動費用ト選舉事務長ノ文書ニ依ル承諾ノ要否
刑ノ執行猶豫ノ言渡ト衆議院議員選舉法第百三十七條第三項ノ宣告及效果

ヲ爲シタルモノナリト認定シタル處右三十五圓五十錢ノ内金十五圓ハ被告人自身ノ食費糧代汽車賃ニシテ(證第十二號及原審公判記録一六四二丁)判示ノ如ク昭和十一年二月十一日頃ヨリ同月十九日頃迄ノ間ニ被告人カ支出シタル金錢ナリト雖モ之等單ニ被告人自身ノ實費ニシテ選舉法上直ニ選舉運動ノ費用支出トナルモノニ非ス蓋シ選舉委員ニナリタレハトテ三度ノ食事ヲ爲スニモ選舉事務長ノ文書ニ依ル支出承諾ヲ受クルニ非サレハ食スルコト能ハスト云フカ如キ事理アルヘカラス自己ノ汽車賃ヲ拂ヒ糧代ヲ支出シ食費ヲ出シタレハトテ選舉運動費用支出ナリトナス可キニ非ス選舉法第九十七條ハ選舉委員ハ選舉運動ノ爲ニ要スル飲食物船車馬等ノ供給又ハ旅費宿泊料其ノ他ノ實費ノ辨償ヲ受クルコトヲ得ト規定シアリ右條項ニヨレハ選舉委員カ自己ノ實費ヲ支出スルハ直ニ法ノ所謂選舉運動費用ノ支出ナリト云フコト能ハス選舉事務長カ右實費ノ辨償ヲナストキ此ニ始メテ法ノ所謂選舉運動費用支出トナルモノナリ(同說美濃部達吉著選舉罰則ノ研究一二〇頁)即チ被告人カ二月十一日頃ヨリ同月十九日頃迄ノ間ニ於テ十五圓ノ自己ノ實費ヲ支出シタレハトテ何等違法ニ非ス被告人ハ記録ニ明カナル如ク右實費ニ付キ同月二十七日選舉事務長ノ文書ニ依ル支出承諾書ヲ有スル選舉委員安藤榮吉ヨリ其ノ辨償ヲ受ケタルニ止マルモノナリ然ルニ原審判決ハ三十五圓五十錢ヲ一括シテ第三百三十四條第百一條第一項但書ニ問擬シタルハ重大ナル事實ノ誤認ヲナシタル結果ナルカ或ハ然ラストセハ法規ノ適用ヲ誤リタル違法アリト信スト云フニ在レトモ

【要旨第一】

衆議院議員選舉ニ際シ選舉委員トシテ選舉費用ヲ支出スルニハ其ノ費用カ演說ニ依ル選舉運動ニ關シ飲食物糧代木炭代等ニ要スルモノナリトスルモ衆議院議員選舉法第百一條第一項ニ從ヒ選舉事務長ノ文書ニ依ル承諾ヲ要スルヲ以テ若シ之ニ違背スルトキハ同法第三百三十四條ノ罪責ヲ免レサルモノトス蓋シ同法第百一條第二項ハ專ラ第三者ニ關スル規定ナレハ演說ニ依ル選舉運動ニ關シ選舉委員ニ於テ敍上ノ費用ヲ支出セントスルトキハ本條第一項ノ定ムル所ニ依リ選舉事務長ノ文書ニ依ル承諾ヲ要スル趣旨ナレハナリ故ニ其ノ支出タルヤ縱令他ノ選舉委員ノ爲スヘキ地域内ニ於テ應援演說ヲ爲スニ付要スル費用ノ立替拂ノ依頼ヲ受ケ且選舉事務長ノ口頭ニ依ル承諾ヲ得タル事實アリトスルモ違法タルヲ免レス原判決ノ認メタル被告人カ衆議院議員選舉ニ際シ選舉委員トシテ支出シタル選舉運動費三十五圓五十錢中ニハ其ノ引用證據ヨリ之ヲ見レハ所論ノ如ク他ノ選舉委員安藤榮吉ノ爲スヘキ地域内ニ於テ應援演說ヲ爲スニ付要スル費用ノ立替拂ノ依頼ヲ受ケ且選舉事務長ノ口頭ニ依ル承諾ヲ得タル事實アルカ如シト雖モ之ヲ以テ選舉事務長ノ文書ニ依ル承諾ヲ得タル適法ノ支出ト謂フヘカラス原審ニ於テハ右ノ趣旨ヲモ審理シタルコト原審公判調書ニ徵シ明カナルヲ以テ原審ニハ審理不盡ノ違法ナキト同時ニ敍上說明ノ如ク法令ノ適用モ正當ナリ更ニ記録ニ徵スルモ原判決ニハ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルヲ認メス論旨理由ナシ

第三點原判決ハ其ノ主文ニ於テ被告人ニ對シ禁錮一月ニ處シ未決勾留日數中二十日ヲ本刑ニ算入シ一

選舉委員ノ支出シタル演說ニ依ル選舉費用ト選舉事務長ノ文書ニ依ル承諾ノ要否
刑ノ執行猶豫ノ言渡ト衆議院議員選舉法第百三十七條第三項ノ宣告及效果

年間右刑ノ執行ヲ猶豫シ衆議院議員選舉法第三十九條第一項五年間選舉權被選舉權ヲ有セサル旨ノ規定ヲ適用セスト判決シタリ然レ共選舉法第三十九條ハ選舉ニ關スル費用ニ付テノ規定ニシテ罰則ノ規定ニ非ス擬律ノ錯誤ナリ假ニ右ハ單ナル判決ノ誤記ニシテ違法ニ非ストスルモ主文ノ如キ禁錮刑ニ處シ執行猶豫ヲ言渡シタル以上衆議院議員選舉法第六條ノ七及同法第三百三十七條ノ法意ニ照シ執行猶豫ノ期間中ハ當然選舉權被選舉權ヲ有セサルモノニシテ又更ニ執行猶豫ノ期間ヲ經過シタル時ハ刑法二十七條ニ依リ刑ノ言渡ハ其ノ效力ヲ失フモノナルヲ以テ當然選舉權被選舉權アリ從テ選舉法第三百三十七條第三項ヲ適用スルノ餘地ナシ原判決ハ擬律ノ錯誤ナリト云フニ在リ

【要旨第二】
因テ原判決ヲ閱スルニ主文ニ被告人ニ對シ衆議院議員選舉法第三百三十九條第一項五年間選舉權及被選舉權ヲ有セサル旨ノ規定ヲ適用セストアルハ措辭頗ル杜撰ノ譏ヲ免レスト雖モ其ノ法律適用ヨリ之ヲ見レハ右ハ同法第三百三十七條第一項ノ誤記ナリト解スルヲ妥當トス而シテ同法第三百三十七條第三項ノ規定ニ依ル宣告ハ所謂刑ノ量定中ニ包含シ事實裁判所ノ自由裁量ニ依リ刑ノ言渡ニ從屬スルヲ以テ原判決ノ如ク禁錮一月一年間刑ノ執行ヲ猶豫スル言渡ニ從屬セシメ更ニ同法第三百三十七條第一項ヲ適用セストノ言渡ヲ爲スモ所論ノ如ク違法ニアラス蓋同法第三百三十七條第四項ニ依レハ同法中第六條第五號ノ規定ニ該當スル者ノ外之カ適用ヲ爲スモ以テ違法トスル規定ナケレハナリ又刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル者ハ其ノ期間中選舉權被選舉權ヲ有セサルモ該期間經過スルト共ニ此等ノ權利ヲ回復スヘ

【要旨第三】
ク若シ右期間中刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ其ノ刑ノ執行ヲ終ル迄及其ノ後五年間此等ノ權利ヲ有セサルニ至ルヘキヲ以テ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ爲シタル場合ニ於テモ仍ホ選舉權及被選舉權ヲ留保スル必要アルコト更ニ絮説ヲ要セサルモノトス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事西村卯關與

○村會議員選舉罰則違反衆議院議員選舉法違反被告事件

(昭和十二年(九)第二二四二號 事實審理無罪)
同十三年五月十三日第三刑事部判決

【上告人】 被告人 嘉屋榮吉 辯護人 (武田利一)

【第一審】 裁區裁判所 【第二審】 山口地方裁判所

手本ヲ見テ被選舉人ノ氏名ヲ記載シタル投票

○判示事項

手本ヲ見テ被選舉人ノ氏名ヲ記載シタル投票

○判決要旨

選舉人カ自ラ投票セントスル議員候補者ノ氏名ヲ記載セシメタル手本ヲ見テ其ノ氏名ヲ記載シ投函スルモ衆議院議員選舉法第一百七條第二項ニ所謂詐偽ノ方法ヲ以テ投票シタルモノト爲スヲ得ス

【參照】 刑事訴訟法第三百六十七條 罰金以下ノ刑ニ該ル事件又ハ罰金以下ノ刑ニ處スヘキモノト認ムル事件ニ付被告人出頭セサルトキハ其ノ後ノ取調ニ因リ禁錮以上ノ刑ニ處スヘキモノト認ムル場合ヲ除クノ外被告人ノ陳述ヲ聽カスニテ判決ヲ爲スコトヲ得
衆議院議員選舉法第二十七條 選舉人ハ投票所ニ於テ投票用紙ニ自ラ議員候補者一人ノ氏名ヲ記載シテ投函スヘシ
投票用紙ニハ選舉人ノ氏名ヲ記載スルコトヲ得ス
同法第二十七條 選舉人ニ非サル者投票ヲ爲シタルトキハ一年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
氏名ヲ詐稱シ其ノ他詐偽ノ方法ヲ以テ投票ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

投票ヲ偽造シ又ハ其ノ數ヲ増減シタル者ハ三年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス
選舉事務ニ關係アル官吏、吏員、立會人又ハ監視者前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ五年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金二十圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金一圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置ス原審ニ於ケル訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ昭和十二年四月二十一日施行セラレタル山口縣阿武郡篠生村村會議員選舉並同年同月三十日施行セラレタル衆議院議員選舉ニ際シ孰レモ其ノ選舉人ナリシ處

(一) 同年四月二十一日右篠生村役場ニ開設セラレタル前記村會議員選舉投票場ニ於テ同議員候補者口羽宗次郎ノ氏名ヲ片假名ニテ「クチバソウジロウ」ト切抜キタル型紙ヲ使用シ筆先ニテ其ノ切抜部分ヲ辿リ投票用紙ニ右口羽宗次郎ノ氏名ヲ顯出セシメ恰モ之ヲ自署シタル如ク裝ヒ投票ヲ爲シ

(二) 同月三十日右同所ニ開設セラレタル前記衆議院議員選舉投票場ニ於テ同議員候補者藤田包助ノ氏名ヲ片假名ニテ「フジタカネスケ」ト切抜キタル型紙ヲ使用シ前同様ノ方法ニヨリ投票用紙ニ右藤田包助ノ氏名ヲ顯出セシメ恰モ之ヲ自署シタル如ク裝ヒ投票ヲ爲シ以テ詐偽ノ方法ニヨリ投票ヲ爲シタルモノナリ

手本ヲ見テ被選舉人ノ氏名ヲ記載シタル投票

而シテ右(一)(二)ノ詐爲投票ノ所爲ハ犯意繼續ニ係ルモノトス
 法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中(一)ノ點ハ町村制第三十七條衆議院議員選舉法第二百二十七條第二項ニ(二)ノ點ハ右
 選舉法第二百二十七條第二項ニ各該當スルトコロ右ハ連續犯ナルヲ以テ刑法第五十五條ニ則リ其ノ一罪トシ所定刑中罰
 金刑ヲ選擇シ其ノ所定金額範圍内ニ於テ被告人ヲ主文第一項ノ如ク量刑處斷シ罰金完納不能ノ場合ハ刑法第十八條ニ
 ヲリ金一圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スヘキモノトシ當審訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條
 第一項ニ則リ被告人ヲシテ全部之ヲ負擔セシムヘキモノトス

○主 文

原判決ヲ破毀ス

被告人榮吉ハ無罪

○理 由

辯護人武田弦介上告趣意書ノ論旨理由アリテ原判決ハ破毀ヲ免レサルコト本院カ昭和十三年二月十八
 日言渡シタル事實審理開始決定ニ說示スルカ如クナルヲ以テ更ニ刑事訴訟法第四百四十七條第四百四
 十八條ニ則リ被告事件ヲ審案スルニ公訴事實ノ要旨ハ被告人榮吉ハ(一)昭和十二年四月二十一日施
 行サレタル居村村會議員選舉ニ際シ同村役場ニ開設サレタル投票場ニ於テ議員候補者口羽宗次郎ノ氏
 名ヲ切抜キタル型紙ヲ使用シテ同人ノ氏名ヲ投票用紙ニ顯出シ恰モ自署シタル如ク裝ヒ以テ詐僞ノ方
 法ヲ以テ投票ヲ爲シ(二)同月三十日施行サレタル衆議院議員選舉ニ際シ右同所ニ開設サレタル投票

場ニ於テ議員候補者藤田包助ノ氏名ヲ切抜キタル型紙ヲ使用シ右同様ノ方法ニテ投票シ以テ詐僞ノ方
 法ヲ以テ投票ヲ爲シタリト云フニ在リ

被告人ハ適式ノ呼出ヲ受ケナカラ公判期日ニ出頭セサルモ刑事訴訟法第三百六十七條ニ該當スル場合
 ナルヲ以テ被告人ノ陳述ヲ聽カスシテ審理ヲ遂クルニ被告人カ彼上二回ノ選舉ニ際シ型紙ヲ使用シ議
 員候補者ノ氏名ヲ投票用紙ニ顯出シ自署シタル如ク裝ヒ以テ詐僞ノ方法ヲ以テ投票ヲ爲シタリト證
 明存在セス却テ本院受命判事ノ取調ヘタル各證據ニ依レハ右各選舉ニ際シテハ孫嘉屋フサ子ヲシテ白
 紙ニ自ラ投票セントスル各議員候補者ノ氏名ヲ記載セシメ之ヲ手本トシテ二回共ニ投票用紙ニ其ノ氏
 名ヲ記載シテ投票シタルモノナルコト洵ニ明ナリ斯ノ如ク選舉人カ自ラ投票セントスル議員候補者ノ
 氏名ヲ記載セシメタル手本ヲ見テ其ノ氏名ヲ記載シテ投函スルモ衆議院議員選舉法第二十七條ニ所謂
 自ラ議員候補者ノ氏名ヲ記載シテ投函シタルモノト謂フヲ妨ケサレハ右ハ同法第二百二十七條第二項ニ
 所謂詐僞ノ方法ヲ以テ投票ヲ爲シタルモノニ該ラス從テ本件ハ結局犯罪ノ證明ナキモノトシテ無罪ノ
 言渡ヲ爲スヘキモノトス因テ刑事訴訟法第四百五十五條第四百七條第三百六十二條ニ則リ主文ノ如ク
 判決ス

檢事村上常太郎關與

○縣會議員選舉罰則違反被告事件 (昭和十三年(れ)第三六四號 棄却)

同年五月十七日第三刑事部判決

【被告人】 被告人 小辻千太郎 辯護人 堀江喜熊

外一名

藤井濱太郎 赤井幸夫

【第一審】 福井地方裁判所 【第二審】 名古屋控訴院

○判示事項

戸別訪問ト利益供與ノ申込トノ競合

○判決要旨

選舉ニ際シ議員候補者ニ當選竝ニ投票ヲ得シムル爲戸別ニ訪問シテ投票方ヲ依頼シ且其ノ謝禮トシテ利益ヲ供與スヘキ旨申込ヲ爲シタルトキハ該戸別訪問ト利益供與ノ申込トハ一個ノ行爲ニシテ二個ノ罪名ニ觸ルルモノトス

【參照】 衆議院議員選舉法第九十八條 何人ト雖投票ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサルノ目的ヲ以テ戸別訪問ヲ爲スコトヲ得ス

何人ト雖前項ノ目的ヲ以テ連續シテ個々ノ選舉人ニ對シ面接シ又ハ電話ニ依リ選舉運動ヲ爲スコトヲ得ス
同法第一百二十二條第一項 左ノ各號ニ掲クル行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス
一 當選ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサル目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ金錢、物品其ノ他ノ財産上ノ利益若ハ公私ノ職務ノ供與、其ノ供與ノ申込若ハ約束ヲ爲シ又ハ響應接待其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタルトキ
同法第八十九條第一項 選舉事務長ニ非サレハ選舉事務所ヲ設置シ又ハ選舉委員若ハ選舉運動ノ爲使用スル事務者ヲ選任スルコトヲ得ス
刑法第五十四條第一項 一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸レ又ハ犯罪ノ手段若クハ結果タル行爲ニシテ他ノ罪名ニ觸ルルトキハ其最モ重キ刑ヲ以テ處斷ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人小辻千太郎ヲ禁錮三月同上坂卯太郎ヲ禁錮二月ニ處シ右兩名ニ對シ二年間刑ノ執行ヲ猶豫スル旨ノ判決(訴訟費用負擔省略)ヲ爲シタリ
被告人小辻千太郎ハ昭和十年九月二十二日施行セラレタル福井縣會議員選舉ニ際シ同月三日立候補届出シタル同縣會議員候補者被告人上坂卯太郎同佐々木伊助同加藤松太郎ハ孰レモ選舉人ニシテ法定ノ選舉運動者ニ非サリシモノ被告入竹内廣同田島七兵衛同廣比廣吉ハ孰レモ法定ノ選舉運動者ニ非サリシモノナルトコ
第一 被告人小辻千太郎ハ

戸別訪問ト利益供與ノ申込トノ競合

(一) 自己ノ當選ヲ得ル目的ヲ以テ昭和十年九月上旬頃選舉人ナル被告人上坂卯太郎ノ肩書居宅ニ到リ同人ニ對シ自己ノ選舉運動ノ應援方ヲ依頼シ其ノ報酬トシテ金三十圓ヲ供與シ

(二) 同月六日頃福井縣丹生郡織田村ニ在ル織田村同郡常盤村同郡萩野村三ヶ村組合役場ニ於テ同役場吏員ナル鈴木廣、藤井彰ニ對シ一般選舉人ニ發送スヘキ推薦狀及挨拶狀ノ封筒ノ宛名ノ記載方ヲ依頼シ即時同人等ノ承諾ヲ得テ選舉事務長ニ非サルニ拘ラス右兩名ヲ選舉運動ノ爲使用スル勞務者ニ選任シ

(三) 選舉事務長宇野權右衛門ノ文書ニ依ル承諾ヲ得スシテ

(イ) 勞務者大坂茂重ニ對シ同月十日頃ヨリ同月二十二日頃迄ノ間ニ自己ノ肩書居宅ニ在ル選舉事務所ニ於テ旅費及勞務賃トシテ四回ニ互リ合計金十三圓五十錢位及同月十七日頃丹生郡西安井村本堂ニ於テ同趣旨ノ金十圓ノ各選舉運動費用ヲ支出シ

(ロ) 同月十一日頃ヨリ同月二十日頃迄ノ間ニ福井縣丹生郡白山村宿屋業堀江勇助方同郡城崎村宿屋業山崎嘉吉方同郡天津村飲食店金谷久重方同郡西安居村割烹店加知勘四郎方同郡越道村宿屋業岩上政子方同郡國見村宿屋業長谷川コマ方同郡城崎村宿屋業藤吉方ニ於テ同人等ニ對シ數回ニ互リ應援辯士及勞務者ノ飲食代宿泊料等合計金二十五圓二十五錢位ヲ支拂ヒ並其ノ間數回ニ互リ應援辯士勞務者ノ自動車賃合計金三圓位演說會場借入賃合計金三圓五十錢位ヲ支拂ヒ並勞務賃金五十錢位ヲ支拂ヒ以テ自己ノ選舉運動費用ヲ支出シ

第二 被告人上坂卯太郎ハ

(一) 前記第一ノ(一)記載ノ如ク昭和十年九月上旬頃肩書自宅ニ於テ被告人小辻千太郎ヨリ其ノ選舉運動ノ依頼ヲ受ケ其ノ運動報酬トシテ金三十圓ノ供與ヲ受ケ

(二) (イ) 候補者小辻千太郎ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ昭和十年九月十日頃肩書自宅ニ於テ選舉人ナル被告人

佐々木伊助ニ對シ同候補者ノ爲投票並投票取纏方ヲ依頼シ同月十五日頃及同月十八日頃ノ二回ニ前同所ニ於テ其ノ投票並運動報酬トシテ合計金三十圓ヲ供與シ

(ロ) 候補者小辻千太郎ニ投票並當選ヲ得シムル目的ヲ以テ昭和十年九月十八日頃ヨリ同月二十二日朝迄ノ間ニ肩書居村ノ選舉人坂下喜市同上坂彌太郎同泉市太郎同孝久治作同飛田紋次郎同上坂竹志ノ各居宅ヲ戶別ニ訪問シ同人等ニ對シ夫々候補者小辻千太郎ニ投票方ヲ依頼シ飛田紋次郎及上坂竹志ヲ除ク其ノ餘ノ者等ニ對シ其ノ投票報酬トシテ後日砂糖煙草等相當ノ謝禮ヲ爲スヘキ旨財産上ノ利益供與ノ申込ヲ爲シ

以テ不法ニ選舉運動ヲ爲シ

(以下省略)

タルモノニシテ被告人小辻千太郎ノ選舉運動費用ノ違法支出ノ各所爲被告人上坂卯太郎ノ金錢ノ供與ヲ受ケ之カ供與ヲ爲シ及財産上ノ利益供與ノ申込ヲ爲シタル各所爲ハ孰レモ同被告人等ノ犯意繼續ニ出テタルモノトス

法律ニ照スニ被告人等ノ判示所爲中被告人小辻千太郎ノ判示第一ノ(一)ノ金錢供與同上坂卯太郎ノ判示第二ノ(一)ノ(イ)ノ金錢供與並同(ロ)ノ財産上ノ利益供與ノ申込ノ各所爲ハ各府縣制第四十條衆議院議員選舉法第百十二條第一項第一號ニ被告人上坂卯太郎ノ判示第二ノ(一)ノ金錢ノ供與ヲ受ケタル所爲ハ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第百十二條第一項第四號ニ判示第二ノ(二)ノ(ロ)ノ戶別訪問ノ所爲ハ府縣制第三十九條第四十條衆議院議員選舉法第九十八條第一項第百二十九條ニ被告人小辻千太郎ノ判示第一ノ(二)ノ勞務者選任ノ所爲ハ府縣制第三十九條第四十條衆議院議員選舉法第八十九條第一項第百三十一條ニ判示第一ノ(三)ノ選舉事務長ノ承諾ナクシテ選舉運動費用ヲ支出シタル所爲ハ府縣制第三十九條、第四十條衆議院議員選舉法第一條第一項但書第百三十四條ニ被告人上坂卯太郎ノ判示第二ノ(二)ノ(イ)ノ(ロ)ノ無資格選舉運動ノ所爲ハ府縣制第三十九條第四十條衆議院議員選舉法第九十六條第一項第百二十九條ニ該當スルトコロ被告人小辻千太郎ノ判示第一ノ(二)ノ各勞務者選任ノ所爲ハ一個

ノ行爲ニシテ二個ノ罪名ニ觸ルルヲ以テ刑法第五十四條第一項前段第十條ヲ適用シ一罪トシ犯情重キ藤井彰ヲ勞務者ニ選任シタル罪ノ刑ニ從フヘク又(三)ノ各選舉運動費用ノ違法支出ハ犯意繼續ニ係ルヲ以テ刑法第五十五條ヲ適用シ其ノ一罪トシ以上ト(一)ノ金錢供與トハ刑法第四十五條前段ノ併合罪ナルヲ以テ右各罪ニ付夫々禁錮刑ヲ選擇シ同法第四十七條第十條ニ從ヒ最モ重キ金錢供與ノ罪ニ付定メタル禁錮刑ニ法定ノ加重ヲ爲シタル刑罰範圍内ニ於テ被告人小辻千太郎ヲ禁錮三月ニ處スヘク被告人上坂卯太郎ノ判示第二ノ(一)ノ金錢供與ヲ受ケタル所爲ト(二)ノ(イ)ノ金錢供與ノ所爲ト同(ロ)ノ財産上ノ利益供與申込ノ所爲トハ犯意繼續ニ係リ且右(イ)(ロ)ノ所爲ハ他面ニ於テ無資格選舉運動ノ所爲ニ觸レ又右(ロ)ノ財産上ノ利益供與申込ノ所爲ト(ロ)ノ戶別訪問ノ所爲トハ一個ノ行爲ニシテ二個ノ罪名ニ觸ルルヲ以テ以上ニ付刑法第五十四條第一項前段第十條第五十五條ヲ適用シ最モ重キ金錢供與ノ罪ニ付定メタル刑ニ從ヒ其ノ所定期刑範圍内ニ於テ被告人上坂卯太郎ヲ禁錮二月ニ處スヘク被告人小辻千太郎同上坂卯太郎ニ對シ其ノ情狀刑ヲ執行ヲ猶豫スルヲ相當ト認メ刑法第二十五條刑事訴訟法第三百五十八條第二項ニ則リ執レモ本判決確定ノ日ヨリ二年間右刑ヲ執行ヲ猶豫スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ執レモ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人上坂卯太郎辯護人堀江喜熊上告趣意書第三點原判決ハ擬律錯誤ノ違法アリ原判決ハ其ノ理由中ニ於テ(1)上坂卯太郎ノ判示第二ノ(二)ノ(ロ)ノ財産上利益供與ノ申込ノ所爲ハ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第一百十二條第一項第一號ニ(2)上坂卯太郎ノ判示第二ノ(二)ノ(ロ)ノ戶別

訪問ノ所爲ハ府縣制第三十九條第四十條衆議院議員選舉法第九十八條第一項第二百二十九條ニ該當スヘキ旨ヲ判示シ更ニ(3)右(ロ)ノ財産上ノ利益供與申込ノ所爲ト(ロ)ノ戶別訪問ノ所爲トハ一個ノ行爲ニシテ二個ノ罪名ニ觸ルルヲ以テ刑法第五十四條第一項前段第十條ヲ適用スヘキモノナル旨判示シタリト雖刑法第五十四條第一項前段ノ所謂想像的競合ハ同一行爲ニヨリ數個ノ法條ニ該當スヘキ事實ノ發生アル場合ヲ指稱スルモノナレハ利益供與ト戶別訪問ノ如キ全然別個ノ行爲ニ付該法條ヲ適用シタル原判決ハ正ニ擬律錯誤ノ違法アルモノナリト云フニ在リ

【要旨】

仍テ案スルニ選舉ニ際シ戶別訪問ト財産上ノ利益供與ノ申込トカ法律上一個ノ行爲ニ當ルヤ否ヤハ具體的事情ニ依リ異リ必スシモ一概ニ論スルヲ得スト雖議員候補者ニ當選竝ニ投票ヲ得シムル爲戶別ニ訪問シテ投票方ヲ依頼シ且其ノ謝禮トシテ後日財産上ノ利益ヲ供與スヘキ旨ノ申込ヲ爲シタルトキハ其ノ訪問ハ右ノ利益供與ノ目的ヲ以テ爲サレタリト解スヘキヲ以テ斯ル場合ニ於テハ戶別訪問ノ當該部分ト財産上ノ利益供與ノ申込トハ一個ノ行爲ニシテ二個ノ罪名ニ觸ルルモノト觀察スヘキモノトス原判決第二ノ(二)ノ(ロ)ノ事實ニ依レハ被告人卯太郎ハ被告人千太郎ニ當選竝ニ投票ヲ得シムル目的ヲ以テ選舉人坂下喜市外數名ノ居宅ヲ訪問シ同人等ニ對シ夫々候補者小辻千太郎ニ投票方ヲ依頼シ飛田紋次郎及上坂竹志ヲ除ク其ノ餘ノ者ニ對シ其ノ投票報酬トシテ後日砂糖煙草等相當ノ謝禮ヲ爲スヘキ旨財産上ノ利益供與ノ申込ヲ爲シ以テ不法ニ選舉運動ヲ爲シタルモノナリト云フニ在ルヲ以テ該

戶別訪問ト利益供與ノ申込トノ競合

行為中戸別訪問ト財産上ノ利益供與ノ申込トハ一個ノ行為ニシテ二個ノ罪名ニ當リ刑法第五十四條第一項前段ニ依リ一罪トシテ處斷スヘク原判決ニハ所論ノ如ク擬律錯誤ノ違法アルヲ見ス論旨理由ナシ被告人小辻千太郎辯護人八並武治、赤井幸夫上告趣意書第二點原判決ハ其ノ事實理由ニ於テ「被告人小辻千太郎ハ(中略)(二)同月六日頃福井縣丹生郡織田村ニ在ル織田村同郡常盤村同郡萩野村三箇村組合役場ニ於テ同役場吏員ナル鈴木廣、藤井彰ニ對シ一般選舉人ニ發送スヘキ推薦狀及挨拶狀ノ封筒ノ宛名ノ記載方ヲ依頼シ即時同人等ノ承諾ヲ得テ選舉事務長ニ非サルニ拘ラス右兩名ヲ選舉運動ノ爲使用スル勞務者ニ選任シタルモノナリ」トナシ府縣制第三十九條第四十條衆議院議員選舉法第八十九條第一項第三十一條適用シテ有罪ノ言渡ヲ爲シタリ然レトモ衆議院議員選舉法第八十九條ニ所謂勞務者ノ選任トハ之ニ依リ所謂勞務者トノ間ニ民法上雇傭契約ヲ締結スル場合ヲ指スモノニシテ民法上ノ請負契約ヲ生スヘキ場合ヲ包含セサルモノト信ス斯ク解スルハ當ニ「勞務者」ナル用語上正當ナルノミナラス若シ然ラストセハ極メテ條理ニ合致セサル結果ヲ生スヘキヲ以テナリ即チ民法上ノ請負ニ屬スヘキ場合ヲモ含ムモノニシテ苟モ選舉ニ關シ働キタル一切ノ場合ヲ云フモノトセンカ(一)選舉ニ關スル推薦狀其ノ他引札張札等ノ印刷ヲ其ノ營業者ニ注文スルコトモ其ノ營業者ヲ勞務者ニ選任シタリト云ハサルヘカラサルヘク(二)選舉事務長以外ノ一切ノ選舉運動者カ選舉運動ノ爲奔走スルニ際シ人力車ニ乘リ自動車ヲ運轉セシムル場合推薦狀其ノ他選舉運動ニ要スル物件ヲ運ハシムル爲運送業者ニ依託スルモ皆之勞務者ヲ選任シタルモノトシテ處罰ヲ免レサルコトトナルヘシト雖モ法ハ決シテ斯ル事項ヲ禁止スルモノニアラサルヘシ然リ而シテ原判決判示事實竝證據理由ニ依レハ上告人ハ判示鈴木廣、藤井彰ニ對シ或村ニ發送スヘキ推薦狀等ノ封筒ノ宛名ノ記載方ヲ依頼シ後日選舉事務長ヨリ封筒一枚ニ付一厘ノ割合ノ報酬ヲ支拂ヒタルモノナルヲ以テ右鈴木等ヲ雇傭シタニアラスシテ封筒ノ宛名ヲ書ク事ヲ請負ハシメタルモノナルコト明カニシテ從テ上告人ニ於テ假ニ判示兩名ニ對シ判示ノ如キ依頼ヲ爲シタル事實アリトスルモ

判示法條ニ該當スル犯罪ノ構成セサルモノトス果シテ然ラハ原判決ハ罪ト爲ラサル行為ニ對シテ刑ヲ科シタル違法アルモノニシテ破毀ヲ免レサルモノトスト云フニ在レトモ
 選舉事務長ニ非サルハ選舉運動ノ爲使用スル勞務者ヲ選任スルコトヲ得サルト同時ニ選舉事務長カ之ヲ選任スルニハ民法上所謂雇傭契約ニ依ルト請負契約ニ依ルトヲ問ハサルモノトス蓋シ相手方ヲシテ勞務ニ服スルコトヲ約セシメ之ニ報酬ヲ與フルコトヲ約スル所謂雇傭契約ナルト將タ相手方ヲシテ或仕事ノ完成ヲ約セシメ其ノ結果ニ對シ報酬ヲ與フルコトヲ約スル所謂請負契約ナルトハ選舉運動ニ付勞務ニ服スヘキ義務ヲ負擔セシムルコトニ於テ差異ナケレハナリ故ニ議員候補者カ元村長タリシ關係上役場書記ニ對シ推薦狀ノ宛名ノ記載方ヲ依頼シテ其ノ承諾ヲ得タルトキハ所謂法定ノ勞務者ヲ選任シタルモノニシテ違法タルヲ免レサルモノトス尤モ勞務者ハ選舉事務長及選舉委員ノ下ニ屬シ其ノ命ヲ受ケテ此等ノ者ノ爲スヘキ選舉運動ニ付專屬的ニ勞務ニ服スルヲ要スルモノナルヲ以テ所論推薦狀其ノ他引札張札等ノ印刷ヲ其ノ營業者ニ注文スルカ如キ或ハ選舉運動者カ出先ニ於テ臨時人力車自動車ニ乘リ運送物ヲ託スルカ如キハ所謂專屬的條件ヲ缺如スルヲ以テ此如キ勞務ニ服スル者ハ選舉法上ノ勞務者ト謂フヘカラサルモノトス原判決ノ認メタル第一ノ(二)事實ハ論旨摘録ノ如クナルヲ以テ府縣制ニ依リ準用サルル衆議院議員選舉法第八十九條第一項ニ違反シ同法第三百一十一條ニ依リ處斷スヘキモノトス故ニ原判決ニハ所論ノ如ク罪トナラサル行為ニ對シ刑ヲ科シタル違法アルモノニ非ス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)
 右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
 檢事村上常太郎關與

○縣令市場取締規則違反事件ノ抗告棄却決定ニ對スル再抗告事件

(昭和十三年(一)第一八號
同年五月二十日第三刑事部決定 棄却)

【抗告人】 被告人 中前佐代吉

【第一審】 神戸區裁判所 【第二審】 神戸地方裁判所

○判示事項

違警罪即決言渡ト正式裁判請求權ノ回復

○決定要旨

違警罪即決言渡ニ對シテハ正式裁判請求權回復ノ申立ヲ爲スコトヲ得サルモノトス

【参照】 違警罪即決例第五條 正式ノ裁判ヲ請求スル者ハ即決ノ言渡ヲ爲シタル警察
違警罪即決言渡ト正式裁判請求權ノ回復

署ニ申立書ヲ差出スヘシ但其期限ハ第二條第一項ノ場合ニ於テハ言渡アリタルヨリ三日内第二項ノ場合ニ於テハ言渡書ノ送達アリタルヨリ五日内トス
同第七條 第五條ニ定メタル期限内ニ正式ノ裁判ヲ請求セサル時ハ即決ノ言渡ヲ以テ確定ノモノトス

○事實

決定理由記載ノ如シ

○主文

本件抗告ハ之ヲ棄却ス

○理由

本件抗告ハ抗告人カ昭和十二年十二月二十七日兵庫警察署ニ於テ兵庫縣令市場取締規則違反罪ニ因リ科料十圓ニ處スル旨ノ即決言渡ヲ受ケ之ニ對シ辯護士柴田勇助ニ委任シテ正式裁判ノ請求ヲ爲シタルトコロ不適法トシテ棄却セラレタル爲メ正式裁判請求期間經過後タル昭和十三年二月二十八日神戸區裁判所ニ正式裁判請求權回復ノ申立ヲ爲シタルカ同年三月七日決定ヲ以テ該申立ヲ却下セラレテ原審神戸地方裁判所ニ即時抗告ヲ爲シタルモ該抗告亦同年四月十三日原審ノ棄却スルトコロト爲リタル爲メ更ニ同年四月二十一日本院ニ抗告ヲ申立テタルモノナリトス依テ本件再抗告カ法律上許サルヘキモノナルヤ否ヲ按スルニ刑事訴訟法第四百六十九條ニ依テ明カナル如ク抗告裁判所ノ決定ニ對シテハ

【要旨】

更ニ抗告ヲ爲シ得サルヲ原則トシ同條第一號乃至第六號ニ該當スル場合ニノミ之ヲ爲シ得ヘキモノナルトコロ本件抗告裁判所ノ爲シタル決定ハ前示法條各號ノ何レニモ該當スルモノニ非サルヲ以テ本件抗告ハ法律上之ヲ許スヘカラサルモノナルコト洵ニ明白ナリ或ハ抗告人ハ刑事訴訟法第四百六十九條第二號ニ於テ上訴權回復ノ請求ニ付テノ決定ニ對シテハ再抗告ヲ許ス旨ヲ規定セルニ基キ本件抗告ノ申立ヲ爲シタルモノナルヘシト雖モ前示法條第二號ニ所謂「上訴權回復ノ請求ニ付テノ決定」トハ刑事訴訟法第三百八十九條ニ依ル決定ヲ指稱スルモノナルトコロ違警罪即決例ニ於テハ正式裁判請求權回復ノ請求ヲ許容シタル何等ノ規定ナク從テ即決言渡確定後ニ於テハ正式裁判ノ申立ヲ爲スコト能ハサリシ事由ノ如何ヲ問ハス最早之カ回復ノ請求ヲ許ササル趣旨ナリト解スヘク固ヨリ刑事訴訟法第三百八十七條以下ノ上訴權回復ノ請求ニ關スル規定ノ如キハ違警罪即決例ニ準用セラレサルトコロナルヲ以テ前示刑事訴訟法第四百六十九條第二號ニ基キ再抗告ヲ爲シ得ヘキモノニアラサルヤ勿論ナリ然ラハ本件抗告ハ不適法ニシテ棄却スヘキモノナルヲ以テ刑事訴訟法第四百六十六條ニ則リ主文ノ如ク決定ス

檢事西村卯關與

○常習賭博賭場開張及其幫助被告事件

(昭和十三年(九)第五一一號
同年五月二十七日第三刑事部判決 破毀差戻)

【上告人】 被告人 橋本ツル 辯護人 金子要人

【第一審】 大阪區裁判所 【第二審】 大阪地方裁判所

○判示事項

刑事ノ官名ヲ缺如セル公判調書——刑事訴訟法第六十四條ニ所謂公判調書

○判決要旨

- 一 公判調書ニ同公判ニ關與シタル判事ノ官名ナク單ニ氏名ノミヲ列記シタルニ過キサルトキハ其ノ公判ハ法律ニ從ヒ裁判所ヲ構成シタルヤ否ヲ知ルニ由ナキモノトス【要旨第一】
- 二 刑事訴訟法第六十四條ニ所謂公判調書トハ其ノ公判期日ニ於ケ

ル公判調書ノミヲ指稱スルモノト解スヘキモノトス【要旨第二】

【參照】 刑事訴訟法第六十條 公判期日ニ於ケル訴訟手續ニ付テハ公判調書ヲ作ルヘシ

公判調書ニハ左ノ事項其ノ他一切ノ訴訟手續ヲ記載スヘシ

(中略)

二 判事、檢事及裁判所書記ノ官氏名並被告人、代理人、辯護人、補佐人及通事ノ氏名

(以下省略)

同法第六十四條 公判期日ニ於ケル訴訟手續ハ公判調書ノミニ依リ之ヲ證明スルコトヲ得

同法第三百二十九條

(中略)

公判廷ハ判事、檢事、裁判所書記列席シテ之ヲ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人橋本ツル同大畑音松ヲ各懲役五月ニ處ス但右被告人兩名ニ對シ第一審ニ於ケル未決勾留日數中各十五日ヲ右本刑ニ算入スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

(中略)

第三 被告人橋本ツルハ

(イ) 昭和十一年十一月中旬頃ヨリ昭和十二年五月十四日迄ノ間十數回ニ亙リ被告人森口留吉ノ前記居室及奈良縣

判事ノ官名ヲ缺如セル公判調書 刑事訴訟法第六十四條ニ所謂公判調書

高市郡八木町木原房次郎方ニ於テ賭博場ヲ開張シ川中秀吉被告人大畑音松等數名ヲシテ骨子骨牌等ヲ使用シ俗ニ手本引及賽本引等ト稱スル賭錢賭博ヲ爲サシメ同人等ヨリ寺錢名義ノ下ニ金錢ヲ徵シ以テ利ヲ圖リ

(ロ) 昭和十一年十二月上旬頃ヨリ昭和十二年七月二十六日頃迄ノ間二十數回ニ亙リ西宮市元町二十番地松本末吉方外數箇所ニ於テ川中秀吉等數名ト共ニ骨子ヲ使用シ俗ニ賽本引ト稱スル賭錢賭博ヲ爲シ

第四 被告人大畑音松ハ

(イ) 昭和十二年三月十日頃松本末吉カ兵庫縣武庫郡鳴尾村田中旅館ニ於テ賭博場ヲ開張シ榎並三之助等數名ヲシテ骨子骨牌等ヲ使用シ俗ニ手本引及賽本引等ト稱スル賭錢賭博ヲ爲サシメ寺錢名義ノ下ニ金錢ヲ徵收シ以テ利ヲ圖リタル際情ヲ知り乍ラ賭博者ノ誘引ヲ爲シ以テ右末吉ノ犯行ヲ容易ナラシメ之ヲ幫助シ

(ロ) 昭和十一年十二月中旬頃ヨリ昭和十二年八月九日迄ノ間約三十回ニ亙リ前記松本末吉方外數箇所ニ於テ川中秀吉等數名ト共ニ骨子骨牌ヲ使用シ俗ニ手本引及賽本引ト稱スル賭錢賭博ヲ爲シ

タルモノニシテ右被告人橋本ツル大畑音松ノ判示各賭博ハ常習ニ係リ被告人橋本ツルノ各賭博場開張ノ所爲ハ夫々犯意繼續ニ係ルモノトス

尙大畑音松ハ昭和十年九月二十日大阪地方裁判所ニ於テ常習賭博罪ニヨリ懲役五月ニ處セラレ當時該刑ノ執行ヲ受ケ終リタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人橋本ツルノ判示所爲中賭博場開張ノ點ハ刑法第八十六條第二項第五十五條ニ常習賭博ノ點ハ同法第八十六條第一項ニ被告人大畑音松ノ判示所爲中賭博場開張幫助ノ點ハ同法第八十六條第二項第六十二條第一項ニ常習賭博ノ點ハ同法第八十六條第一項ニ各該當スルコロ被告人大畑音松ニハ前示前科アルヲ以テ同法第五十六條第一項第五十七條ニ依リ累犯ノ加重ヲ爲シ賭博場開張幫助ニ付テハ同法第六十三條第六十八條第三號ヲ適用シ法

定ノ減輕ヲ爲シ尙被告人兩名ノ所爲ハ同法第四十五條前段ノ併合罪ナルヲ以テ同法第四十七條第十條ニ依リ重キ被告人橋本ツルニ付テハ賭博場開張罪被告人大畑音松ニ付テハ常習賭博罪ノ刑ニ法定ノ加重ヲ爲シタル刑期範圍内ニ於テ被告人等ヲ夫々主文掲記ノ刑ニ處シ尙同法第二十一條ニ依リ被告人兩名ニ對シ未決勾留日數中各十五日間ヲ右本刑ニ算入スヘキモノトス

○主 文

原判決中被告人橋本ツル同大畑音松ニ關スル部分ヲ破毀ス
本件ヲ大阪地方裁判所ニ差戻ス

○理 由

被告人橋本ツル辯護人金子要人上告趣意書第一點原判決ノ基本タル原審公判調書ヲ閱スルニ「右各頭書被告事件ニ付昭和十三年二月十八日大阪地方裁判所第三刑事部法廷ニ於テ石井平雄、澤榮三、乾久治、奥田房三列席ノ上檢事米野操立會公判ヲ開廷ス(記録一四八八丁)ト記載アリテ裁判長判事トモ判事トモ又裁判所書記トモ記載ナク單ニ石井平雄、澤榮三、乾久治、奥田房三列席ノ下ニ公判ヲ開廷シタリトアルノミニテ官名ナク適法ノ判事裁判所書記列席シテ公判ヲ適法ニ履踐セラレタルモノナリヤヲ認ムルニ由ナク全ク同公判ハ無効ノモノナリト云ハサルヘカラス然ラハ原判決ハ斯ル無効ノ公判ニ基キ下サレタル違法アルモノニシテ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在リ

判事ノ官名ヲ缺知セル公判調書 刑事訴訟法第六十四條ニ所謂公判調書

【要旨第一】

因テ案スルニ原審第一回公判調書ニハ石井平雄、澤榮三、乾久治、奥田房三列席ノ上公判ヲ開廷ストアリ同調書ノ末尾ニ依レハ石井平雄ハ裁判長判事奥田房三ハ裁判所書記ナルコトヲ知ルヲ得ヘキモ澤榮三、乾久治ノ兩名ニ付テハ判事タルヤ否ヤ同調書ニ依リテハ之ヲ知ルニ由ナシ刑事訴訟法第六十四條ニ依レハ公判期日ニ於ケル訴訟手續ハ公判調書ノミニ依リ之ヲ證明スルコトヲ得ル旨ノ規定アリ該

【要旨第二】

規定ニ所謂公判調書トハ其ノ公判期日ニ於ケル公判調書ヲ指稱スルモノト解スヘキヲ以テ假令同第三回公判調書ニハ右列席者ニ付夫々官氏名ノ記載アリト雖之ヲ證明ノ資料トスルコトヲ得サルモノトス然ラハ原審公判ハ法律ニ從ヒ判決裁判所ヲ構成シタルヤ否ヤヲ知ルニ由ナク之ニ基キ言渡サレタル原判決モ亦違法ニシテ破毀ヲ免レス又右破毀ノ理由ハ共同被告人タル大畑音松ニ共通ナルヲ以テ同被告人ノ爲ニモ亦原判決ヲ破毀スヘキモノトス而シテ右ハ本院ニ於テ自ラ事實ノ審理ヲ爲スヲ適當ナラスト認ムルヲ以テ爾餘ノ論旨ニ對スル説明ヲ省略シ刑事訴訟法第四百四十八條ノ二ニヨリ本件ヲ原裁判所ニ差戻スヘキモノトス因テ主文ノ如ク判決ス
檢事村上常太郎關與

○再審申立棄却決定ニ對スル抗告事件

(昭和十三年(一)第二一號 棄却)
同年五月三十日第二刑事部決定

【被告人】 被告人 宇廻善雄

【第一審】 宇陀區裁判所 【第二審】 奈良地方裁判所

○判示事項

刑事訴訟法第四百八十五條第一號第二號ニ所謂確定判決ノ意義

○決定要旨

刑事訴訟法第四百八十五條第一號第二號ニ所謂確定判決トハ刑事裁判所ノ判決ヲ指稱スルモノニシテ民事裁判所ノ判決ヲ包含セサルモノトス

【參照】 刑事訴訟法第四百八十五條 再審ノ請求ハ左ノ場合ニ於テ有罪ノ言渡ヲ爲シタル確定判決ニ對シテ其ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲ニ之ヲ爲スコトヲ得

一 原判決ノ憑據ト爲リタル證據書類又ハ證據物確定判決ニ因リ偽造又ハ變造ナリシコトヲ證明セラレタルトキ

二 原判決ノ憑據ト爲リタル證言、鑑定、通譯又ハ翻譯確定判決ニ因リ虛偽ナリシコトヲ證明セラレタルトキ

刑事訴訟法第四百八十五條第一號第二號ニ所謂確定判決ノ意義

ト證明セラレタレトキ
(以下省略)

○事實

抗告人ハ村會議員選舉罰則違反被告事件ニ付罰金百五十圓ニ處スル旨ノ略式命令ヲ受ケ該命令ハ確定シタル處抗告人ヨリ橋本常藏ニ對スル謝意竝慰藉料請求事件ニ於テ該略式命令ノ基礎ト爲リタル橋本常藏ノ供述カ虛偽ナリシコトヲ自白シ其ノ旨ノ認諾調書ヲ作成セラレタリトノ理由ニ依リ再審請求ヲ爲シ第一審裁判所ハ再審ノ原因ナキモノトシテ之ヲ棄却シ第二審裁判所モ亦之ヲ正當ナリトシテ抗告ヲ棄却シタルモノナリ

○主文

本件抗告ハ之ヲ棄却ス

○理由

本件再抗告申立ノ理由ハ原裁判所ハ抗告人ニ對スル村會議員選舉罰則違反事件記録ニ依レハ橋本常藏ニ對スル司法警察官竝ニ檢事ノ聽取書カ本件再審請求ノ對象タル抗告人ニ對スル略式命令ノ證據トナリタルモノナルコト明カニシテ記録添附ノ認諾調書正本ニ依レハ抗告人ヨリ橋本常藏ニ對スル宇陀區裁判所昭和十二年(ハ)第四六號謝意竝ニ慰藉料請求事件ニ於テ橋本常藏ニ於テ抗告人ト面接シ抗告

人ヨリ自己ニ投票セラレタキ旨ノ依頼ヲ受ケタリト供述シタルハ虛偽ナルコトヲ認メ抗告人ノ請求ヲ認諾シ其ノ旨調書ニ記載セラレタルコトヲ認メ得ヘク請求ノ認諾ヲ調書ニ記載シタルトキハ其ノ記載ハ確定判決ト同一ノ效力ヲ有スルコトハ民事訴訟法第二百三條ニ依リ明カナリト認定セラレナカラ刑事訴訟法第四百八十五條第一、二號ノ確定判決トハ刑事事件ノ確定判決ノミヲ意味シ民事事件ノ確定判決ヲ含マストナシ抗告人ノ抗告ヲ棄却シタリ然レトモ刑事訴訟法第四百八十五條第二號ハ虛偽ノ證據ニ基ク裁判ヲ取消シ實體的眞實ニ基ク裁判ヲ得セシメントスルモノニシテ其ノ證據トナリタル證言ノ虛偽ナルコトカ裁判上確定セラレタル以上裁判カ刑事裁判タルト民事裁判タルトニ依リ之ヲ別異ニ取扱フ理由ナシ蓋シ刑事訴訟法第四百八十五條第二號ハ單ニ「確定判決ニ因リ」ト規定シ刑事事件ノ確定判決ニ限定セス又民事事件ノ確定判決ヲ排除セス其ノ證言ノ虛偽カ國家司法機關ニ依リ認定セラレタル以上夫カ刑事裁判ニ依ルト民事裁判ニ依ルトニ依リ其ノ認定ノ信疑價值ヲ異ニスル理由ナシ又刑事訴訟法第四百八十五條第二號ノ立法趣旨ヨリスルモ其ノ證據ノ虛偽ナルコトカ確定スル以上刑事裁判ニ依ルト民事裁判ニ依ルトニ依リ區別ノ理由ナシ共ニ原裁判ヲ取消シ實體的眞實ニ適合シタル裁判ヲ爲ス必要アレハナリ尙本件ノ如ク略式命令ニ於テハ其ノ證人ハ證人トシテ宣誓ヲ爲スモノニ非サレハ偽證ノ問題ナク從テ其ノ證言ノ虛偽ハ刑事裁判ニ依リ確定スルニ由ナク民事裁判ニ依リテ確定スルノ外ナシ然ラハ刑事訴訟法第四百八十五條第二號ノ確定判決ニ民事事件ノ確定判決ヲ含マストセン

刑事訴訟法第四百八十五條第一號第二號ニ所謂確定判決ノ意義

カ結局略式命令ニ付テハ刑事訴訟法第四百八十五條第二號ニ依ル再審ノ申立ハ之ヲ許ササルノ結果トナリ其ノ不當タルヤ言フ俟タス上述ノ如ク其ノ證言カ虛偽ナルコトカ確定判決ニヨリテ確定スル以上夫カ民事事件ノ確定判決ニテモ再審ノ理由トナルヘキモノトス尙原裁判所ハ刑事裁判ハ裁判所職權ヲ以テ審理シ民事裁判手續ハ當事者處分主義ニ依ルモノナルカ故ニ民事事件確定判決ハ再審理由トナスニ足ラストセラルルトコロナリト雖モ民事訴訟カ職權主義ヲ採用セス當事者處分主義ヲ採用シタルハ直接利害關係ヲ有スル當事者ニ委ネルコトカ眞實ヲ發見スル所以ナリトナシタルカ故ニシテ刑事事件ニ付職權審理主義カ實體的眞實ヲ發見スル所以ナリトシ民事事件ニ付當事者處分主義カ實體的眞實ヲ發見スル所以ナリトナシタルハ兩者ハ訴訟物ヲ異ニシ刑事訴訟ハ國家刑罰權ヲ訴訟物トシ民事訴訟カ私人ノ權利又ハ法律關係ヲ訴訟物トスルカ爲ニ各其ノ訴訟物ノ主體ニ訴訟上事實ヲ明確ナラシムル權利ヲ認メルコトカ實體的眞實ニ適スル所以ナリトシタル結果刑事訴訟ニ付テハ職權審理主義トナリ民事訴訟ニ付テハ當事者處分主義トナリタルニ過キス故ニ其ノ認定カ實體的眞實ニ即スルヤ否ヤヲ其ノ兩主義ニ依リ區別スル理由毫モナシ而シテ本件證言ノ虛偽ハ認諾調書ニ依リ確定シタルモノナリト雖モ認諾調書ハ確定判決ト同一效力アルモノナル以上刑事訴訟法第四百八十五條第二號ノ確定判決ト同一效力ヲ有スルヲ以テ再審理由タルコト明白ナリ然ルニ原裁判所カ刑事訴訟法第四百八十五條第一、二號ノ確定判決ニハ民事事件ノ確定判決ヲ含マストナシ抗告人ノ抗告ヲ棄却シタルハ法ノ解釋ヲ誤ル

ノ違法アリト謂フヘシ仍テ原決定ヲ取消シ再審ノ決定ヲ求ムル爲メ本抗告ニ及ヒ候ト云ヒ」同上補充理由ハ再審ノ訴ハ新事實又ハ新證據ニヨリ變更ヲ來シ得ヘキ判決ノ實體上ノ基礎ト裁判ニヨリ生シタル形式上ノ正義トノ衝突ヲ調和スルノ制度タリ我國現行刑事訴訟法ニ於テモ實體的眞實發見主義ヲ採用セラルルノ結果一定ノ範圍ニ於テ再審ヲ許サルモノニシテ本件再審申立ハ原判決ノ證據トナリタル證據書類カ偽造ナリシコトヲ確定判決ト同一ノ效力ヲ有スル認諾調書ニヨリ證明ナシタルモノナルニ前裁判所ハ民事ノ確定判決ハ刑事ノ確定判決ヲ左右シ得ヘキモノニアラストナサレタルモ思ハサルノ甚シキモノタリ今一例ヲ以テセハ甲所有ノ動產物ヲ乙カ甲ノ印章ヲ盜用シ且偽造文章ヲ作成ナシ丙ニ賣却ナシ丙之ヲ買受ケタル後死亡ナシ丁丙ノ相續人トナリ丁ハ甲ニ對シ動產物引渡ノ請求ヲ爲シタル處時既ニ甲ハ其ノ動產物ヲ他ニ賣却後ナリシヲ以テ丁ハ甲ニ對シ横領罪ノ告訴ヲ爲シ甲ハ處刑セラレ其ノ判決確定ナシ其ノ後乙ノ所爲ナルコト發顯ナシタルニ乙ニ對シ文章偽造盜印ノ告訴ヲナサントスルモ刑事訴訟法二百八十五條第一項第五ニヨリ公訴ノ時効完成後ナリシヲ以テ已ムヲ得ス民法第七百二十四條ノ損害賠償ヲ請求ナシ確定判決ヲ得タリ依テ其ノ判決ニ於テ乙カ偽造文章ヲ行使ナシタルコト明カナリトスル此ノ判決ニ基キ甲カ再審ヲ請求ナシタルニ係ル場合ニ民事判決ナリトシテ甲ニ再審ヲ許サストナサハ實體的眞實發見主義ニ反スルノ結果ニ陷ラサルヲ得ス之レ法ノ精神ナランヤ尙本例ニ於テ甲ノ文章ヲ乙カ作成ナシタル關係上民事訴訟法三百三十一條ニヨリ眞否ヲ爭フニ餘地ナク且良

心ノ苛責ニ堪ヘ兼テ甲ノ請求ヲ認諾ナシタリトセハ之カ認諾ヲモ私和ナリトシテ排斥ナスヘキモノナ
リヤ自白又ハ認諾ハ訴訟法上歡迎ナスヘキモノニシテ決シテ排斥ナスヘキモノニアラス若シ故意ニ自
白認諾ヲナスカ如キ場合アリトセハ他ニ相當ノ制裁アルヘキモノナレハ何等憂フルニ足ラサルモノタ
リ刑事訴訟法ハ職權審理主義ナルニ反シ民事訴訟法ハ當事者處分主義ナルハ訴訟物ノ性質上異ナルモ
ノナルモ兩者共ニ絶對的ノモノニ非ス職權審理主義ニモ一定ノ制限アルモノナレハ當事者處分主義ニ
モ亦一定ノ制限アリ其ノ結果トシテ當事者ノ私和其ノモノカ直接ニ刑事訴訟裁判ヲ左右シ得ヘキカ如
キ場合アリトハ信シ得ラレス然ルニ民事ノ確定判決ヲ刑事訴訟ニ採用ナスヲ得ストノ解釋ヲナサンカ
民事訴訟ニ於テ確認セラレタル所有權刑事訴訟ニ於テ否認セラルルノ結果ヲ生セストモ限ラス如何
ニ職權審理主義ヲ採用ナサハトテ均シク國家司法機關ノ下セシ判決ヲ裁判所自ラ無視スルカ如キハ何
ニヨリテ裁判ノ威信ヲ保チ得ンヤト云フニ在レトモ

【要旨】

刑事訴訟法第四百八十五條第一號第二號ニ所謂確定判決トハ刑事裁判所ノ判決ヲ指稱スルモノニシテ
民事裁判所ノ判決ヲ包含セサルモノナルコト該規定ノ解釋上然ルノミナラス同條第四號ニ所謂「通常
裁判所又ハ特別裁判所ノ裁判」ナル用例ト對照スルニ於テ一點疑ノ存セサル所ナルヲ以テ所論橋本常
藏ノ供述虛偽ナリシコトヲ認諾調書ニ依リテ確定セラレタリトスルモ之ヲ以テ再審ノ理由ト爲スハ正
當ニ非ス其ノ他被告人ノ主張自體同條各號所定ノ再審ノ理由ニ該當セサルコト明カナルヲ以テ被告人

ノ本件抗告ヲ棄却シタル原決定ハ正當ニシテ再抗告申立ヲ理由ナシトシ刑事訴訟法第四百六十六條第
一項ニ則リ注文ノ如ク決定ス
檢事正木亮關與

○暴力行為等處罰ニ關スル法律違反被告事件

(昭和十三年(九)第五四三號 棄却)
同年五月三十一日第三刑事部判決

【上告人】 被告人 杉本松之助 辯護人 (山中幸夫
外一名 古賀元吉)
【第一審】 神戸區裁判所 【第二審】 神戸地方裁判所

○判示事項

暴力行為等處罰ニ關スル法律第一條第一項器物毀棄罪ノ成立—實
行行為開始後ニ加擔シタル者ノ責任

暴力行為等處罰ニ關スル法律第一條第一項器物毀棄罪ノ成立 實行行為開始後ニ
加擔シタル者ノ責任

○判決要旨

一 數人共同シテ暴力行為等處罰ニ關スル法律第一條第一項器物毀棄ノ行為ヲ爲シタルトキハ行為ノ當時器物ノ所有者力其ノ場ニ居ラサリシトスルモ同罪ノ成立ヲ妨クルモノニ非ス【要旨第一】

二 同條項ニ數人共同シテ罪ヲ犯ストハ同條項所定ノ實行行為開始後ニ加擔シ共通ノ意思ヲ以テ之ト相呼應シ其ノ行為ヲ分擔實行シタル場合ヲモ包含スルモノトス【要旨第二】

【參照】暴力行為等處罰ニ關スル法律第一條 團體若ハ多衆ノ威力ヲ示シ團體若ハ多衆ヲ假裝シテ威力ヲ示シ又ハ兇器ヲ示シ若ハ數人共同シテ刑法第二百八條第一項第二百二十二條又ハ第二百六十一條ノ罪ヲ犯シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
(以下省略)

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人松之助ヲ罰金四十圓ニ被告人吉雄ヲ罰金三十圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間各被告人ヲ勞役場ニ留置ス訴訟費用ハ被告人兩名ノ連帶負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人兩名ハ神戸市湊東區荒田町一丁目百六十番屋敷高本安治カ昭和十二年八月九日朝同家ニ宿泊シタル出征兵士ニ對シ朝ノ食事ヲ給與セスシテ之ヲ冷遇シタル旨ノ風評流布セラレタル爲翌十日午前七時頃激昂シタル附近住民數十名カ同家ニ蟻集スルヤ之等群集ト共ニ同家屋內ニ於テ高本所有ノ食器襦袢戸衣類等多數ノ物ヲ破壊シ以テ數人共同シテ器物ヲ損壞シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人兩名ノ判示所爲ハ何レモ大正十五年法律第六十號暴力行為等處罰ニ關スル法律第一條第一項ニ該當スルヲ以テ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ所定金額範圍內ニ於テ被告人松之助ヲ罰金四十圓ニ被告人吉雄ヲ罰金三十圓ニ處スヘク右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條ニ則リ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間各被告人ヲ夫々勞役場ニ留置スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十八條ニ則リ被告人兩名ヲシテ連帶シテ負擔セシムヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ執レモ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人中尾吉雄辯護人山中幸夫上告趣意書一、原判決ハ處斷スルニ數人共同シテ器物ヲ損壞シタルモノトシテ暴力行為等處罰ニ關スル法律第一條第一項ヲ以テセリ數人共同シテ爲サンカ爲メニハ數人間ニ豫メ意思ノ疏通ナカルヘカラス共同シテ犯ストハ二人以上相通謀シテ犯罪ノ實行行為ヲ爲スコトナルコト疑ヒナシ即チ共同タルカ爲メニハ數人ハ鳥合ノ衆タルヲ以テ足ラス共通ノ目的ヲ有スル統制アル集團タラサルヘカラス然ラハ本件犯行ニ斯カル意思ノ疏通アリ相通謀スル所アリタルヤ所謂相互補充性ノ見ルヘキモノアリヤ二 (イ) 昭和十二年八月十四日附湊川警察署司法警察吏ノ犯罪報告書ニ

暴力行為等處罰ニ關スル法律第一條第一項器物毀棄罪ノ成立 實行行為開始後ニ加擔シタル者ノ責任

依ルモ本籍住所氏名不詳ノモノ五名ヲ數ヘ得ヘク(ハ)昭和十二年八月十四日附小西クメニ對スル檢事ノ聽取書中ニ「私ハ私ト共ニ高本方テ器物ヲ壞シタ多數ノ人達ノ中テ住所氏名ヲ知ツテキル人ハアリマセヌシタル旨ノ供述記載アリ(ハ)昭和十二年八月十四日附吉田儀一ニ對スル檢事ノ聽取書中ニ「八月十日高本方前ニ又高本方ノ家ノ中ニ集ツテ居タ人達ノ住所氏名ハヨク判リマセヌ」ナル旨ノ供述記載アリ(ニ)昭和十二年八月十四日附杉本松之助ニ對スル檢事ノ第二回聽取書第四項ニ「問一緒ニ暴レタ人達ノ住所氏名ヲ知ツテキルノテハナイカ答本當ニ知リマセヌ皆何處ノ人カ判ラナカッタノテアリマス」(ホ)昭和十二年八月十二日附本件被告人中尾吉雄ニ對スル司法警察官ノ聽取書中一私ハ其ノ時ノ人ハ顔ヲ見レハ多少判ルモノモアリマスカ所モ知ラヌ人斗リテアリマス」ナル旨ノ供述記載アリ(ヘ)昭和十二年八月十四日附本件被告人中尾吉雄ニ對スル檢事ノ聽取書中「共ニ亂暴シタ人テ私カ其ノ住所氏名ヲ知ツテキル人ハアリマセヌシタル旨ノ供述記載アリ是等ノ諸供述ヲ綜合スレハ多數人間ニ何等相通謀シタル形跡ナク單ナル烏合ノ衆ニシテ所謂多衆タルニスキサルヲ識リ得ヘシ特ニ前掲昭和十二年八月十二日附中尾吉雄ニ對スル聽取書中「……遂ニ高本方ニ入りマシタ入りテ見ルト十二、三歳ヨリ十歳迄迄ノ子供カ十四、五人居リテ裏ノ井戸ニ物ヲ投ケ込ミ居リ又大人二十人許リ入り庭ニ居リテ立テ居ルモノヤ足蹴ニスルモノナトカアリマシタカ中ニモ座敷ニ二、三人上リテ居リマス一人ノ男ハ長サ一間モアル様ナ大キナ棒ヲ天井迄突キ破リ居リマシタ」云々

ノ供述記載及昭和十二年八月十四日附中尾吉雄ニ對スル檢事聽取書中(イ)「夫レカラ土間ニ居タ二、三十人ノ人達カ土間ニ倒サレテ居タ澤山ノ戸ヲ足テ力ヲ入レテ踏ンテ居タノテ」云々(ロ)「階下ノモウ二、三人ノ男達ハ大道具ヲ引クリ返シテ壞シテ居リマシタ」云々等ノ供述記載アリ此ノ客觀的ナル供述ニ徴スレハ唯單ニ噂ヲ聞キ來リタル多衆人カ期セスシテ非國民國賊高本奴カト心ニ罵リ乍ラ各自銘々亂暴ヲ爲シ居レル狀景ヲ畫キ得テ餘ス所ナシ所謂烏合ノ衆ニシテ何等共同シテ犯セルニ非サルヲ察知シ得ヘシ三、果シテ然ラハ被告人中尾吉雄ヲ處斷スルニ「數人共同シテ」器物ヲ損壞シタルモノトシテ律シタルハ失當ニシテ「多衆ノ威力ヲ示シ」テ器物ヲ毀棄シタルモノトシテ律セサルヘカラス而シテ威力ヲ示サンカ爲メニハ相手方アルヲ要ス威力ハ相手方ノ意思ヲ制壓スルニ足ル無形力テアリ此ノ行使ニヨリ相手方カ之ヲ認識シタルトキ威力ヲ示シタリト稱スルヲ得ヘシ四、昭和十二年八月十二日附被害者高本安治ノ始末書ニ「私ハ家内カ水枕ヲ冷ヤシテ居ルノヲ連レテ自動車ヲ友人テアル市内湊區石井町一丁目一二一無職田中芳太郎方ニ行ツテ泊ラセテ貰ヒマシタ私カ家ヲ出マシタノハ午後十一時過テアリマシタ以上ノ通り十一時過キニ田中ノ内ニ行キマシタノテ其ノ後ノ事ハ判リマセンカ只今係員カラ聞キマシタ處私ノ不在中人カ這ツテ屋内ヲ目茶苦茶ニ毀ハシテ居ルトノコトテアリマス」旨ノ記載アリ被告人中尾吉雄等外數十名ノモノハ非國民高本安治ヲ膺懲センカ爲メ同人宅ニ亂入シタルモ非國民高本ハ既ニ前夜所在ヲ移シ居リ空家同然ト成リ居リカクテ此等烏合ノ衆ハ「佛壇及神

棚ヲ除ク外(昭和十二年八月十日附檢證調書參照)多數ノ建具家財道具等ヲ損壞シタルナリ威力ヲ示サルヘキ相手方ハ既ニ其ノ場ニ在ラス恰モ人里離レタル野原ニムカ腹立テツ草ヲ踏ミニジルニ似タリ即チ被告人中尾吉雄ハ重キ犯意ヲ以テ輕キ罪ノ結果ヲ生シタルナリ責任ハ發生シタル結果ノ限度ニ於テ負ハサルヘカラス五、以上ノ諸點ヲ綜合考覈スレハ處斷スルニ暴力行爲等處罰ニ關スル法律第一條第一項ヲ以テセス刑法第二百六十一條ヲ以テセサルヘカラス然ルニ刑法第二百六十一條ノ罪ハ親告罪ニシテ告訴ヲ待テ之ヲ論セサルヘカラスルニ被害者高本安治ニ於テハ告訴シ居ラス然ラハ原判決ハ公訴棄却ノ言渡ヲ爲ササルヘカラサリシナリ原判決ハ破毀ヲ免レサルモノトスト云フニ在リ

【要旨第一】

因テ案スルニ數人共同シテ暴力行爲等處罰ニ關スル法律第一條第一項ノ器物毀棄ノ行爲ヲ爲シタルトキハ多衆ノ威力ヲ示シタルト否トヲ問ハス同條項ノ犯罪ヲ構成スルモノナルヲ以テ假令本件器物毀棄ノ行ハレタル當時器物ノ所有者ハ他ニ逃難シテ其ノ場ニ居ラサリシトスルモ同罪ノ成立ヲ妨クルモノニ非ス而シテ同條項ニ數人共同シテ罪ヲ犯ストハ當初ヨリ數人相通謀シ所論ノ如ク統制アル集團トシテ犯罪ヲ實行シタル場合ノミナラス右實行行爲カ多衆ニ依リ既ニ開始サレタル最中ニ加擔シ共通ノ意思ヲ以テ之ト相呼應シ同條項所定ノ行爲ヲ分擔實行シタルトキモ亦所謂相互補充性ヲ有シ右行爲ヲ完成セシメタルモノト謂フヲ得ヘキヲ以テ右條項ヲ以テ處斷スヘキモノナルト同時ニ既ニ實行行爲ヲ開始シタル者カ相互ニ其ノ氏名ヲ識ラサルコトハ毫モ本罪ノ性質ヲ變更スヘキモノニ非ス原判示ニ依レ

【要旨第二】

ハ被告人兩名ハ神戸市湊東區荒田町一丁目百六十番屋敷高本安治カ昭和十二年八月九日朝同家ニ宿泊シタル出征兵士ニ對シ朝ノ食事ヲ給與セスシテ之ヲ冷遇シタル旨ノ風評流布セラレタル爲翌十日午前七時頃激昂シタル附近住民數十名カ同家ニ蟻集スルヤ之等群衆ト共ニ同家屋內ニ於テ高本所有ノ食器襖簀戸衣類等多數ノ物ヲ破壞シ以テ數人共同シテ器物ヲ損壞シタルモノナリト云フニ在ルヲ以テ原判決ニ於テ之ニ對シ刑法第二百六十一條ヲ適用セスシテ暴力行爲等處罰ニ關スル法律第一條第一項ヲ適用シテ處斷シタルハ正當ナリ從テ本件ハ所論ノ如ク告訴ヲ待テ論スルノ要ヲ見ス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事村上常太郎關與

○藥品營業並藥品取扱規則違反被告事件(昭和十三年(九)第五四七號 棄却)

(昭和十三年(九)第五四七號 同年六月二日第二刑事部判決)

【上告人】 被告人 山田久四郎 辯護人 田村 達

業種商免許證札ノ借受ト無免許營業

【第一審】札幌區裁判所 【第二審】札幌地方裁判所

○ 判示事項

藥種商免許鑑札ノ借受ケト無免許營業

○ 判決要旨

藥種商免許ヲ受ケサル者カ他人ノ免許鑑札ヲ借受ケ藥品販賣ヲ爲ス行爲ハ藥品營業竝藥品取扱規則第三十九條ノ四第一號ノ罪ニ該當ス

【參照】藥品營業竝藥品取扱規則第二十條 藥種商トハ藥品ノ販賣ヲ爲ス者ヲ云フ

同第二十一條 藥種商ハ地方廳ノ免許鑑札ヲ受クヘシ

同第二十二條 毒藥劇藥ハ衛生試驗所又ハ藥劑師製藥者ニ於テ封緘シタル容器ヲ開キテ零賣スルコトヲ得ス

同第三十條 毒藥劇藥ハ職業上必要ト認メタル者ヨリ其藥名、量數、使用ノ目的、年月日及住所、氏名、職業ヲ記シ且捺印シタル證書ヲ差出スニ非サレハ之ヲ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス

前項ノ證書ハ其日附ヨリ滿十年間之ヲ保存スヘシ

同第三十四條 藥劑師藥種商製藥者ノ間ニ於テハ第三十條及第三十二條ニ記載シタル手續ヲ要セス其藥劑師藥種商製藥者タルノ證明書ヲ以テ毒藥劇藥ヲ賣買スルコトヲ得

トヲ得

同第三十七條ノ二 藥劑師ニ非サレハ指定藥品ヲ販賣又ハ授與スルコトヲ得ス但藥劑師藥種商製藥者間ニ在リテハ之ノ限ニ在ラス

(以下省略)

同第三十九條ノ四 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

一 藥種商若クハ製藥者ノ免許ヲ受ケス又ハ業務ノ禁止若クハ停止ノ處分ニ違背シテ藥種商又ハ製藥者ノ業ヲ爲シタル者

(以下省略)

同第四十三條 醫師ハ第三十四條ニ從ヒ醫師タルノ證明書ヲ以テ藥劑師藥種商製藥者ヨリ毒藥劇藥ヲ買取ルコトヲ得

○ 事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金三十圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金一圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置ストノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ藥種商ノ免許ヲ受ケスシテ昭和十二年六月初頃ヨリ同年十月二十五日迄ノ間札幌市南四條東二丁目九番地居宅店鋪ニ於テ北谷好文等ニ對シアスピリン其ノ他ノ藥品ヲ販賣シ以テ藥種商ノ營業ヲ爲シタルモノナリ

證據ヲ按スルニ右事實ハ

一 原審公判調書中被告人ノ供述トシテ自分ハ昭和十二年二月頃會山長次郎ヨリ商品付ノ權判示店鋪ヲ買受ケ當時藥種商ノ免許ヲ受ケ居タル中山計雄名義ヲ以テ營業届ヲ爲シ同人ヲ營業主トシ自分カ資本ヲ出シ共同ニテ藥種商ヲ開

藥種商免許鑑札ノ借受ト無免許營業

業シタルカ同年六月一日頃中山ハ家庭ノ都合上秋山藥局ニ勤ムルコトト爲リタル爲店ヲ出テタルヲ以テ其ノ後ハ自分カ中山ノ免許鑑札ヲ借受ケ單獨ニテ右營業ヲ續ケ「アスピリン」「クレゾール」等ノ藥品等ヲ北谷好文外自分方附近ノ者ニ販賣シ同年十月二十五日迄經營シ居タル旨ノ記載

一 被告人ニ對スル檢事代理ノ聽取書中其ノ供述トシテ自分ハ昭和十二年二月末頃判示店鋪ヲ藥種商會山ヨリ買受ケ中山計雄ト共同ニテ藥種商ヲ營ミ主トシテ中山カ其ノ衝ニ當リ自分ハ單ニ手傳ヲ爲スニ過キサリシカ中山カ同年六月一日頃右營業ヨリ手ヲ引クニ至リタル爲自分ハ何等ノ免許ナキトコロヨリ廢業ノ止ムナキニ立到リ之カ惜シサニ中山ト相談ノ上同人ヨリ免許鑑札ヲ借受ケ表面上同人ノ營業ナルカ如ク見セカケ事實上ハ自分一人ニテ營業ヲ續ケタリ然シ中山モ自分ニ免許鑑札ヲ貸シ居ル關係上初ハ毎日カ一日置位ニ後ハ一週間ニ一度位宛自分ノ店ニ來リ一、二時間位居リ藥品ノ販賣ニハ全然關與セス警察ヤ道廳トノ應待ニ當リ吳レタル旨ノ記載

一 中山計雄ニ對スル檢事代理ノ聽取書中其ノ供述トシテ自分ハ昭和十二年二月判示店鋪ニ山田久四郎ノ出資ヲ得テ藥店ヲ開キ之ヲ經營シ來リタルカ同年六月頃家庭ノ都合上右營業ヨリ手ヲ引キ秋山藥局ニ勤務スルコトト爲リタル爲營業ヲ廢スヘキトコロ山田カ折角相當ノ出資ヲ爲シ今止メテハ生活ニモ困ル結果ト爲リ氣ノ毒ニ思ヒ同人ニ藥種商ノ免許ナキトコロヨリ自分ノ免許鑑札ヲ貸與シ表面上恰モ依然自分カ經營者ナルカ如ク裝ヒ道廳ヤ警察ヨリ藥品檢査等ニ來リタル際ハ山田カ自分ヲ呼ビニ來自分カ直ニ店ニ販付ケ之ニ應待スルコトト爲シタルモ自分ハ營業ノ方ニハ全然關與セザリシ旨ノ記載

一 北谷好文ノ始末書中昭和十二年七月中及八月中判示店鋪ヨリ「アスピリン」及「ノーション」ヲ買求メタルコトヲ綜合シテ之ヲ認ム仍テ判示犯罪事實ハ其ノ證明十分ナリトス

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ藥品營業並藥品取扱規則第三十九條ノ四第一號刑法施行法第十九條第二條第二十條ニ該當スルヲ以テ其ノ所定金額範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金三十圓ニ處スヘク右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條第一項第四項ニ則リ金一圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人田村達上告趣意書第二、藥品營業並藥品取扱規則ニ依リ藥種商ハ免許ヲ要シ其ノ違反ニ對シ同則第三十九條ノ四ノ罰則アリ同法ニ於テ藥種商營業ハ地方長官ノ免許ヲ要ストセラルルハ同法施行上ノ責任者ヲ豫メ特定スル爲ニ過キサリコトハ同法ノ解釋上疑ナキモノト信ス同法施行上ノ必要以外ニ藥種商營業ヲ特許營業ト爲スヘキ理由ナク而シテ豫メ特定セル責任者ナキ場合ニ同法ノ實施ハ困難ヲ來シ空法ニ墮スル虞アルヲ以テ特定メラレタル藥品巡視ノ制度(明治二十二年內務省令第四號)ト相待テ個々藥種商ノ責任者ヲ豫メ特定シ同法施行ノ完璧ヲ期セラルル所以ナリト信ス故ニ藥種商營業ハ届出ヲ以テ足ルノ理ナルヘシト雖モ一面統制經營的ノ趨向ニ鑑ミ他面個々ノ藥種商ノ業態上藥種商ハ醫藥行政上重要性ヲ有シ日本藥局方(昭和七年內務省令第二十一號)其ノ他藥局方ノ維持乃至毒劇藥ノ取扱等ニ關シ嚴重ナル取締ヲ期スル爲免許ヲ要スル營業トセラレタル所以ナルヘキモ指定藥品ハ

藥種商免許鑑札ノ借受ト無免許營業

藥劑師ニ非サレハ販賣授與スルコトヲ得サルカ故同法ノ免許主義ハ事實上ハ極メテ微々タル藥種商ノミヲ對象トナシ從テ藥種商ノ向上發展等ノ如キ副作用的ノ趣旨以外ニ於テハ敍上ノ如ク責任者ノ豫定ト云フコト以外ニ之ヲ求ムルコト能ハス免許事項ヲ地方長官ニ一任シ劃一的立法ナラサル所以亦之ニ存スヘシ要スルニ同法ノ免許主義ハ單純ナル届出主義ニ其ノ責任ヲ強化スル意味ヲ附加シ同時ニ諸種ノ副作用的機能ヲ營マシムル爲ノ未必的企圖アルニ過キスシテ責任者ノ豫定ナルコトカ同法立法ノ基準ナルヘキハ明ナリ然ラハ同法第三十九條ノ四第一號前段ノ罰則ハ苟モ責任者タル免許名義人カ合法的ニ存在スル以上ハ適用ナキモノナリ本件ニ於テハ既ニ責任者中山ノ免許證アリ故ニ同法第三十九條ノ四第一號前段ニ該當セス假令中山ノ證言ノ如ク中山ハ本件被告人ニ免許證ヲ貸與セルモノトスルモ同法施行上ノ責任者ハ中山ナルコト當然ナル故同法施行上ニハ何等支障ナク同法ニハ狩獵法外國旅券規則乃至自動車取締令等ニ於ケルカ如ク免許證貸與ヲ處罰スル明文乃至解釋上之ヲ違法トスヘキ根據ナク届出主義ノ下ニ認可證ノ貸與ト云フカ如キコト殆ントナキニ反シ免許主義ノ下ニ免許證ノ移動ハ必然的ニ隨伴スル現象ナルニ不拘之ヲ防止セントスル特別ノ明文又ハ解釋上ノ理由ナキ限り之ヲ否定スヘキ理由ナキノミナラス同法ニハ免許名義者ニ非サレハ藥種商營業ヲ絶對ニ禁止スル趣旨モナキモノナリ即チ藥劑師法カ藥劑師ニ對シ二個所以上ノ藥局開設ヲ禁止スルニ對シ同法ニハ數個所ノ營業所ヲ禁止スル明文ナク却テ同法第四十一條ノ四ノ代理人ノ行爲ニ對シ營業者ヲ處罰スル趣旨ニヨレハ當

然數個所ノ營業所ハ認許セラルヘク一人ノ藥種商ニシテ數個所ノ營業所ヲ經營スル者ノ多數存在スルコトハ顯著ナル事實ナリ即チ經濟上資本家ト經營者トノ存在ハ否定スヘカラサル所ナルカ故ニ公序良俗ニ違反セサル限り藥種商免許證ノ合法的移動即チ免許證ノ貸與ハ其ノ有效性ヲ否定スル理由ナキモノナリ免許證ノ貸與ヲ不法トスルハ實際生活ヲ無視セル極メテ素朴單純ナル概念ニ過キス而モ敢テ之ヲ不法トスルモ本件ニ於テハ同法第四十六條ノ二ニ依ル地方長官ノ處分アリテ後ニ本件被告人ノ責任ヲ論スヘキモノニシテ同法同條ニヨル地方長官ノ處分ナキ本件ニ於テ本件被告人ヲ同法第三十九條ノ四ニ擬律セラレタルハ審理不盡擬律不當ニシテ破毀ヲ免レスト信スト云フニアレトモ

【要旨】

藥種商ハ藥品營業並藥品取扱規則所定ノ制限ノ下ニ毒藥劇藥其ノ他指定藥品ニ付テモ賣買ヲ許サルルモノナルカ故ニ若シ右法規ノ制限ヲ無視シ毒藥劇藥等ヲ濫ニ販賣スルコトアランカ事後ニ至リテ之ヲ處罰スルノミヲ以テハ未タ公衆衛生ノ安全ヲ期シ難ク寧ロ營業開始ノ事前ニ於テ業者ノ人選ヲ嚴ニシ其ノ營業ノ許否ヲ決スルコトニ依リ危險ノ發生ヲ未然ニ防止スルノ適切ナルニ如カス同法ハ此ノ見地ヨリシテ其ノ第二十一條ニ於テ藥種商ニ付免許制度ヲ採用スルト共ニ同第三十九條ノ四第一號ニ於テ免許ヲ受ケサル者ノ藥種商營業ヲ禁止シ之ヲ處罰スルノ規定ヲ設ケタルモノナリトス從テ該制度タルヤ所論ノ如キ營業届出主義ニ依ル責任者ノ豫定ヲ目的トスルモノニ非ス又同法ニ所論免許鑑札貸與等ニ關シ明文上特別ノ規定存セサル所以ノモノハ營業免許ハ元來對人的ニシテ其ノ效力ハ之ヲ受ケタル

特定人ニ專屬シ其ノ權利ヲ第三者ニ移轉シ若クハ第三者ヲシテ代ツテ之ヲ行使セシムルヲ得サルハ彼
 上免許制度ノ本質ニ照ラシ論ヲ竣タサルトコロナルヲ以テ此ノ自明ノ事柄ヲ敢テ法文ニ明示スルノ要
 ナシトシタルカ爲ニ外ナラスサレハ該明文ナキノ故ヲ以テ所論ノ如ク免許鑑札ノ貸與ヲ許容スルノ法
 意ナリト解スヘキニ非ス又藥種商カ數個ノ店舗ヲ設ケテ其ノ營業ヲ爲シ得ルハ其ノ者カ業務ノ指揮監
 督ノ任ニ當リ自ラ其ノ營業權ヲ行使スル合法の場合ニ限ラルルカ故ニ藥種商カ二個以上ノ營業所ヲ設
 置シ得ルコトハ未タ以テ所論ノ如ク同法カ第三者ヲシテ營業權ヲ行使セシムルコトヲ許容スルノ論據
 ト爲スニ足ラスサレハ藥種商免許ヲ受ケサル被告人ニ於テ中川計雄ヨリ同人ノ藥種商免許鑑札ヲ借受
 ケタレハトテ之ニ依リ同人ノ權利ヲ代行シ得サルコト明カナルヲ以テ被告人ニ於テ原判示ノ如ク藥品
 販賣ヲ爲スニ於テハ其ノ所爲ハ同法第三十九條ノ四第一號ニ該當スヘク形式上ニ於ケル中川計雄ノ免
 許鑑札ノ存在ハ被告人ノ右無免許營業ヲ合法化スルニ由ナキハ勿論同法第四十六條ノ二ニ依ル地方長
 官ノ中川計雄ニ對スル營業禁止又ハ停止處分ノ有無ノ如キハ被告人ノ刑事責任ニ消長アルコトナシ然
 ラハ原判決ノ擬律ハ正當ナルノミナラス所論審理不盡ノ違法ナキヲ以テ論旨ハ理由ナシ(其、他ノ上
 告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事金澤次郎關與

○町會議員選舉罰則違反被告事件 (昭和十三年(九)第五五三號 棄却)

(同年六月八日第五刑事部判決)

【上告人】 被告人 工藤徳太郎 辯護人 渡部喜十郎

【第一審】 西條區裁判所 【第二審】 松山地方裁判所

○判示事項

上告趣意書ト假辯護届

○判決要旨

法定期間内ニ被告人ノ爲差出サレタル上告趣意書ハ其ノ後ニ至リ
 適式ノ辯護届アリタルトキト雖其ノ效ナキモノニシテ縱令右趣意
 書差出前被告人ノ連署ナキ辯護人ノミノ假辯護届ナルモノノ提出
 アリタル場合ニ於テモ論決ヲ異ニスルモノニアラス

上告趣意書ト假辯護届

【参照】 刑事訴訟法第四十二條 辯護人ノ選任ハ辯護人ト連署シタル書面ヲ差出シテ之ヲ爲スヘシ

○ 事 實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金二百圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ罰金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ昭和十三年一月十五日施行セラレタル愛媛縣新居郡永見町町會議員總選舉ニ際シ議員候補者トナリ當選ヲ得タルモノナルトコロ右選舉ニ關シ自己ニ投票ヲ得ル目的ノ下ニ

第一 昭和十二年十月二十日頃肩書被告人宅ニ於テ右選舉ニ關シ選舉人安藤豐次郎ニ面接シ自己ノ爲投票及投票取纏運動方依頼シ且同人ヨリ他ノ選舉人ニ對シ被告人ニ投票スヘキ謝禮トシテ饗應スヘキ資金五圓ヲ交付シ

第二 昭和十二年十二月四、五日頃肩書居宅ニ於テ連續シテ各右選舉ニ關シ選舉人高橋盛太郎、矢野權太郎ニ對シ個々ニ面接シ自己ノ爲投票方依頼シ

第三 昭和十三年一月九日頃前同所ニ於テ前記高橋盛太郎ニ對シ自己ノ爲投票並投票取纏運動ヲ爲スコトノ報酬トシテ金六圓ヲ供與シ

タルモノニシテ彼上ノ所爲中個々面接ノ點ハ連續ノ意思ニ金員ノ交付及供與ノ所爲ハ犯意繼續ニ出テタルモノナリ法律ニ照スニ被告人ノ判示個々面接ノ所爲ハ町村制第三十六條ノ二第三十七條衆議院議員選舉法第九十八條第二項第百二十九條ニ判示金員交付ノ所爲ハ町村制第三十七條同上選舉法第百二十九條第一項第五號ニ判示金員供與ノ所爲ハ町村制第三十七條同上選舉法第百二十九條第一項第一號ニ各該當スルトコロ右交付ト供與ノ各所爲ハ連續犯ノ關係ニ在ルヲ以テ刑法第五十五條ヲ適用シ且前示個々面接ノ所爲トハ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルルモノナルヲ以テ刑法

第五十四條第一項前段第十條ニ依リ重キ金員ノ供與交付ニ付定メタル刑ニ依リ其ノ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ右罰金額ノ範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金二百圓ニ處スヘキモノトシ被告人カ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ同法第十八條ニ則リ罰金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スヘキモノトス

辯護士渡部喜十郎ハ法定期間ノ末日ナル昭和十三年五月十日被告人ノ爲上告趣意書ヲ差出シタレトモ同月五日附辯護人選任届ハ同月十三日本院ニ提出セラレタルモノトス但先是同辯護人ハ同月九日「追而本辯護届提出可致」旨ノ追書アル假辯護届ナルモノヲ提出シタレトモ同届ニハ同辯護人ノ署名捺印アルノミニテ被告人ノ連署ナカリシモノナリ

○ 主 文
本件上告ハ之ヲ棄却ス

○ 理 由

○ 主 文

○ 理 由

○ 主 文

○ 理 由

○ 主 文

○ 理 由

○ 主 文

○ 理 由

○ 主 文

○ 理 由

○ 主 文

○ 理 由

○ 主 文

○ 理 由

【要旨】

辯護士渡部喜十郎ハ法定期間ノ末日ナル昭和十三年五月十日被告人ノ爲上告趣意書ヲ差出シタレトモ辯護人選任届ハ其ノ後ナル同月十三日本院ニ提出セラレタルカ故ニ該上告趣意書ハ畢竟未辯護人ニアラサル者ノ差出ニ係リ其ノ効ナキモノトス尤モ同辯護人ハ同月九日自己單獨ニテ其ノ署名捺印ヲ爲シタル假辯護届ナルモノヲ提出シタレトモ被告人ノ連署ヲ缺キ刑事訴訟法第四十二條所定ノ方式ニ違反スルカ故ニ同書ニ依リテハ選任ノ事實ヲ認ムルニ由ナク從ツテ之カ爲前示論決ニ消長ヲ來ササルコト

上告趣意書ト假辯護届

明白ナリ仍テ該趣意書ニ於ケル論旨ニ對シテハ説明ヲ與ヘサルモノトス(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

以上ノ理由ニ據リ刑事訴訟法第四百四十六條ニ從ヒテ主文ノ如ク判決ス
檢事三田勝關與

○放火放火未遂被告事件(昭和十三年(九)第二五六號
同年六月十三日第一刑事部判決) 棄却)

【上告人】 被告人 服部義治並原審辯護人 山中靜次 辯護人 山中靜次

【第一審】 長野地方裁判所 【第二審】 東京控訴院

○判示事項

刑事訴訟法第三百四十二條ニ所謂公判期日前ノ意義

○判決要旨

刑事訴訟法第三百四十二條ニ所謂公判期日前トハ最初ニ定メタル

第一回公判期日前ヲ指スモノトス

【參照】 刑事訴訟法第三百四十二條 公判期日前訴訟關係人ヨリ提出シタル證據物及證據書類ハ公判廷ニ於テ之ヲ取調フヘシ第三百二十六條乃至第三百二十八條ノ規定ニ依リ作成シ又ハ集取シタルモノニ付亦同シ但訴訟關係人ニ異議ナキモノニ付テハ之ヲ取調ヘサルコトヲ得

○事實

原審裁判所ハ本件ニ付最初第一回公判期日ヲ昭和十二年十一月八日午前十時ト指定シ其ノ後辯護人ノ申請ニヨリ右期日ヲ同年十一月二十四日ニ延期シ更ニ職權ヲ以テ同年十二月八日ニ延期シ同日公判ヲ開廷シ事實審理ヲ爲シタリ

原審辯護人山中靜次ハ同年十一月二十二日及同年十二月五日附各證據書類提出ノ件ト題スル書面ト共ニ各同日丑木佐太夫證明書一通外八通及青柳兵右衛門外一名名義新聞記事ニ關スル證明書一通外六通ヲ提出シタリ

原審裁判所ハ公判廷ニ於テ右提出ノ書類ニ付證據調ヲ爲シタル形跡ナシ

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人山中靜次上告趣意書第一點ハ原審ニ於テハ公判前提出ノ證據調ヲ遺脱セルノ不法アリ破毀スヘキモノナリト信ス蓋シ原審第一回公判ハ昭和十二年十一月二十四日午前十時ト指定セラレタル處右期日更ニ同年十二月八日午前十時ニ變更セラレ同日第一回公判開廷セラレタルモノナリトス而シテ記録ニ據レハ右第一回公判開廷前即チ昭和十二年十一月二十二日被告人辯護人山中靜次ヨリ證據書類提出ノ件ナル題目ノ下ニ丑木佐太夫名義ノ證明書(記録第九九九丁)石川嘉一名義ノ證明書(記録一、〇〇〇丁)青柳兵右衛門名義ノ證明書(記録第一、〇〇一丁)小林次助名義ノ證明書(記録第一、〇〇二丁)外谷敬象名義ノ證明書(記録第一、〇〇三丁乃至第一、〇〇七丁)高橋はや名義ノ證明書(記録第一、〇〇八丁)服部はつ枝名義ノ證明書(記録第一、〇〇九丁乃至第一、〇一三丁)服部博名義ノ證明書(記録第一、〇一四丁)竝ニ青柳兵右衛門名義ノ上申書等ヲ提出シ而モ右丑木佐太夫及石川嘉一ノ各證明書ニ於テハ孰レモ昭和十二年四月七日長野縣上水内郡柏原村字仁之倉公會堂ニ於テ小平警部補ノ取調ヲ受ケタルコトナキ旨記載シアリ從ツテ昭和十二年四月七日右兩名カ右小平警部補ノ取調ヲ受ケタルコトナク記録中昭和十二年四月七日附右兩名ニ對スル警察聽取書ハ其ノ成立真正ナラサルコトヲ證シ得ヘク又右青柳兵右衛門ノ證明書ニ於テハ池田させハ昭和十二年五月十七日居村公會堂ニ於テ警察ノ取調ヲ受ケタルコトナキ旨記載シアリ從ツテ記録中ノ池田させハ昭和十二年五月十七日小

平警部補ノ取調ヲ受ケタル旨ノ聽取書ハ虛偽ナルコトヲ證シ得ヘク又右小林次助ノ證明書ニ於テハ高橋はやハ昭和十二年四月六日夜八時半頃同人方ヲ辭シ去リタル旨ノ記載アリ從ツテ第一審證人小泉甚重ノ此ノ點ニ關スル證言ノ虛偽ナルコトヲ證シ得ヘク又右外谷敬象ノ證明書ニ於テハ昭和十二年四月八日早朝北村賢治方ニ赴キ同人ト共ニ同年四月六日夜ニ於ケル出火現場ヲ見タル處寒凌キノ圍ヒ藁カ三把タケ先ノ方ノミ焼ケ屋根ハ尺五寸平方ハカリ燃エタルノミナルカ駐在所ヘ何時届ケタカト聞キマシタ處七日ノ朝届ケタカ古間村ノ選舉違反ハカリニ熱心シテ俺ノ方ヘハ未タ檢證ニ來テ吳レナイト云ヒマシタ云々清水勇吉カ參リ云々三人テ德利四本ハカリ飲ンテ居ル所ヘ北村淺右衛門カ駐在巡査土屋ト云フ人ト來リ賢治ト三人ニテ現場ヲ檢査シテソレカラ(居爐リ)ノ傍テ三人車座ニナツテ小聲ニテ話ラシテ居リマシタ云々ソレカラ數日後北村賢治ハ小生宅ニ參リ云々ソレニ俺ハ二回放火サレタ第一回ハ四月二日ノ晩ボロニ懷爐炭ノ火ヲツケテクルンタモノヲ裏ノカコイ藁ノ中ニ入レテアツタソレヲ俺カ馬屋ニ入レル藁ヲ取りニ行ツテ見付ケタカ明日婚禮タト云フニ人々カ手傳ニ來テ居ルカラ人ニ知ラセス火ヲ消シテ其ノ儘カクシテアルト云フカラソレハ駐在所ヘ届ケタノカト聞キマシタラ二度モ放火サレタノテ外聞カ惡イカラ届ケナイト云フカラ普通ナラハ二日ノ晩ノ方テ届ケルノカ本當テハナイカソレ共七日ノ晩又放火サレルト云フ六威カアツタノカ鬼ニ角君ハ幸運兒二回共君ハカリ見付ケルトハト私ハ言ツテ笑ツテヤリマシタ之ヲ以テ全部綜合スルニ駐在巡査ハ八日ニ檢證シテ七日ニ見タ様ニ

警察調書ニアリ七日ノ日ニ三、四人調ヘタトアリマス(警察調参照)皆嘘テス云々五日ノ日ハ大降雪ニテ地ニ四寸位積リマシタ被告ノ申立ノ様ニ道ニアツタボロナゾ翌六日テスカラズブヌレニナツテ居テバツトニ板付マツチヤ何カテ而モ濡レタボロテ家ノ裏側ハ前日ノ降雪ニテシメツテ居ル藁ニハ火カ付ク道理カアリマセンボロテ被セレハ尙更消エテ仕舞ヒマス是ハ但シボンブ購入委員ト警部補達カ相談シテ安物ノボンブヲ義治カ機械小頭テアルカラコワサレルト自分達ノボロカ出ルノテ義治ノ覗キ見ヲシテ歩クト云フコトヲ口實ニシテ檢舉シタノタト思ハレマスソノ證據ニハ義治カ檢舉サレルヤ否ヤ部長北村基ハ義治宅ヘ参リ駐在所土屋ノ命令タカラ大至急辭表ヲ出セト申シテ義治妻ニ辭職書ヲ出サセマシタ外谷丈太夫ノ火災ノ時ハ小生ハ近隣タカラ警鐘ノ鳴ルノト同時ニ赴キ出テ早速駆ケ付ケテ見ルト物置ノ中央ヨリ盛ニ燃エ上ツテ居マシタ云々當夜ハ強大ナル北風ニテ田甫ヲハサンタ數丁離レタ北村作治君テサヘ今夜ハ火事場ヘ行クナ内カ火ノ子カ來テ危イカラト妻子ニ云ハレタ程強イ北風テスソレヲ丈太夫ヲ燒イテ賢治ヲ類燒サセルナトトハ誰カ見テモ思ハレヌ事テスト記載シアリ該記載ニ據レハ昭和十二年四月七日北村賢治方出火現場ニ就キ小平警部補ノ檢證ナク又同日柏原村仁之倉公會堂其ノ他ニ於テ小平警部補ノ各關係人ノ取調ナカリシコト及右北村方出火現場ノ模様ハ積藁ノ内小東三把ノ上方ノミ燒ケ其ノ下方ハ燒ケサリシモノタルノ事實及四月六日ノ前日ニハ約四寸ノ降雪アリ積藁モ濡レ居ルヘキニヨリ若シ被告人ノ強制處分手續ニ於ケル豫審判事ノ目前ニ於テ爲シタル自白ノ如ク

積藁ノ中ニ板付燐寸ニバツトヲ挾ミ其ノ上部ニ地上ヨリ拾ヒタル黒布ヲ二重ト爲シ覆ヒタランニハ到底發火シ得サルヘキヲ窺フコトヲ得ヘク又高橋はやノ證明書ニ於テハ昭和十二年四月六日夜午後八時半頃小林次助方ヲ辭シ歸宅シ更ニ同夜十一時過タル頃被告人服部義治方ニ赴キタルカ義治ハ入浴シ居リはつ枝ハ炬燵テ横ニナリ居リタルモ眠リ居ラサリシニヨリ同人モ手傳ヒ三人ニテ味噌漬シヲ爲シ翌午前一時過タル頃歸宅シタル旨記載シアリ右記載ニ依レハ被告人服部義治ハ北村賢治方ニ放火セリト稱スル昭和十二年四月六日午後十一時三十分頃ノ如キハ自宅ニ在リ外出セサリシコトヲ認メ得ヘク又服部はつ枝ノ證明書ニ於テハ昭和十二年六月十八日乃至二十一日ニ互リ警察檢事ノ取調ヲ受ケタルカ六月十九日ノ如キハ小泉刑事ヨリ或ハ惡罵ヲ受ケ又ハ千枚綴ヲ繰リ返シノ壘ニ打込ミテ脅迫セラレ又六月二十一日ノ如キハ檢事局ニ於テ「どうしても僕の云ふ事が信じられぬなら夫に合せてやる善く聞いて信じるが善いと他室へ行かれましたと大きな聲でどなたか叱られてゐるのだ外の人も調べられて居るのだと思つて居りましたしばらくすると檢事様が來て私を連れて行つて見るとさつきの聲のした所でした私を見るより早くどうしたのだ氣でも違つたのかそれとも日を間違へて居るのではないかと聞きますと檢事殿にも判事殿にも手間を掛けさせてすまないおれを助けると思つて一日も早く此所からのがれる様おれの云ふ通りになつてくれそれではあなたが付けたのかどうして私の妹の所へ付けたのだと云ひますと公判になれば判るから又家に歸ればお母様にもお前にも細かく云つて聞か

せるから心配をかけさせない様にするからおれの云ふ通りになつて歸つてくれと頼まれたので私は知らぬ事をしようちさせられてしまいました。検事様は私が泣いて居ると北村賢治の方は未遂だから罪にならない。丈夫の方物置きなので罪は軽い辯護士を頼めば又軽くなると云はれました云々」ト記載シアリ該記載ニ據レハ警察又ハ検事局ニ於テ右服部はつ枝ノ取調ニ際シ脅迫又ハ詐言ヲ弄シタルコトヲ認メ得ヘク又服部博ノ證明書ニ於テハ「五月十六日夜のことすやくと寝てゐた時に急に早かねが鳴つたので僕は祖母様におこされたのであはてはねおきて家手の間で父母をおこしたすると父母は急いでおきて来た父は「火事はどこだあつ近所だ」とたまげて僕に「早く博外へ出て見極めてこい」「はい」といつて外へ飛び出して見ると御寺のそばに火の手が上つて居たさあ大變だと思つて内の中へ飛びこみまして「御寺のそばだ」と僕が口早に言つたすると父は「あゝそれは氣の毒だほ早くもしきとはんてんを見つけれ」と言つたその時に南の茶の間と家手にだけ電氣がついてゐたから北の茶の間はくらかつた僕は消防のちやうちんをつけて茶の間を明るくしもしきとはんてんをきたするとたかじやうがなか／＼見付からなかつたがよほうやくにして悪い方を見付けてはいて行つた云々火事場へ行くと一生懸命にばんぶをあぶつてゐたので僕も手つたつてやつた」云々と記載シアリ該記載ニ據レハ昭和十二年五月十六日外谷丈太夫方納屋出火ノ當夜被告人服部義治ハ其ノ妻女はつ枝ト共ニ就寢シ居リタル處其ノ養子博ニヨリ急ヲ知リテ飛ヒ起キ股引半纏等ヲ着用シ急速現場ニ駆ケ付ケ消防ニ

努力セルノ事實ヲ認メ得ヘク又青柳兵右衛門ノ上申書ニ於テハ昭和十二年十月中被告人服部義治ノ爲敷願書作成ニ奔走シタル處柏原村駐在巡查カ其ノ妨害ヲ爲セル旨記載アリ右記載ニ依ルモ警察カ本件ニ付キ常ニ被告人ノ不利ヲ圖リ居レルノ事實ヲ認メ得可シ而シテ尙記録ニ依レハ同シク右第一回公判開廷前即チ昭和十二年十二月五日被告人辯護人山中靜次ヨリ證據書類提出ノ件ナル題目ノ下ニ青柳兵右衛門外一名名義ノ新聞記事ニ關スル證明書(記録一、〇三一丁)青柳兵右衛門名義東京控訴院檢察長宛告發書寫(記録一、〇三三丁)中村土郎名義山中辯護士宛回答書(記録一、〇三五丁)柏原村消防組仁之倉部名義服部義治宛表彰狀(記録一、〇三六丁)長水分會長岡田長左衛門名義表彰狀(記録一、〇三七丁)同分會長柳澤兵衛名義表彰狀(記録一、〇三八丁)服部はつ枝名義青柳兵右衛門宛信書竝ニ封皮(記録一、〇三九丁)ヲ提出シ而モ右青柳兵右衛門外一名ノ證明書ニ於テハ昭和十二年中ニ於テハ二月九日三月四日乃至同月六日ノ外伊奈町中村家事件ニ關スル記事ハ東京朝日新聞ニ掲載セラレサリシ旨記載シアリ又青柳兵右衛門名義東京控訴院檢察長宛告訴狀ニ於テハ長野警察署警部補小平章治カ昭和十二年四月七日丑木佐太夫石川嘉一等ヲ仁之倉公會堂ニテ取調ヘタル事實ナキニ拘ラス其ノ取調ヲ爲シタル旨ノ虚偽ノ聽取書ヲ作成偽造セル旨ノ記載アリ又服部はつ枝名義青柳兵右衛門宛信書ニ於テハ服部義治カ昭和十二年六月四日長野警察署ニ留置セラレタル當時著用シ居リタル襯衣ニ血痕附著シアリ或ハ警察ニ於テ拷問ヲ受ケタルモノト思考セラレル旨記載アリ又中村土郎名義山中辯

護士宛回答書柏原消防組仁之倉部名義表彰狀長水分會長名義表彰狀ノ各記載ニ於テハ被告人服部義治ハ大正十二年四月十日時ノ郡長齋藤助昇ヨリ模範青年トシテ表彰セラレタル他各消防部ヨリ模範消防手又ハ機械掛トシテ表彰セラレタル旨ノ記載アリ以上各證明書中丑木佐太夫、石川嘉一、青柳兵右衛門、小林次助、外谷敬象、高橋はや、服部はつ枝、服部博、青柳兵衛門外一名ノ各證明書竝ニ青柳兵右衛門名義東京控訴院檢察長宛告發書服部はつ枝名義青柳兵右衛門宛書狀等ハ孰レモ被告人服部義治ニ對スル放火及同未遂被告事件ニ付キ右被告人有利ノ證據書類ニシテ又昭和十二年十一月二十二日附東京控訴院檢察局名義東京控訴院第五刑事部宛廻送書及同附屬書類(記録一、〇二〇丁乃至一、〇二七丁)ノ如キ孰レモ右被告人服部義治ニ對スル放火及同未遂被告事件ニ付キ右被告人不利ノ證據書類ニシテ而モ孰レモ原審第一回公判開廷日時即チ昭和十二年二月八日以前ニ於テ原審ニ提出セラレ一件記録ニ編綴セラレアルモノナルカ故ニ刑事訴訟法第三百四十二條ニ依リ之カ證據調ヲ爲ササルヘカラサルニ拘ハラス原審ニ於テハ右各證據書類ニ付キ全然之カ證據調ヲ爲ササリシモノニシテ原判決ハ畢竟刑事訴訟法第四百十條第十三號ニ該當シ破毀セラルヘキモノナリト信スト云フニ在レトモ

【要旨】

刑事訴訟法第三百四十二條ニ所謂公判期日前トハ第一回公判期日前ノ謂ニシテ同條ニヨリ公判廷ニ於テ取調ヲ必要トスル證據物及證據書類ハ第一回公判期日前公判準備ノ爲訴訟關係人ヨリ提出シタルモノニ限ルモノト解スヘク此ノ趣旨ハ本院判例ノ夙ニ是認スルトコロナリ而シテ右第一回公判期日トハ

刑事訴訟法第三百二十一條第三百二十三條等ノ規定ノ趣旨ニ徴シ最初ニ定メタル公判期日ヲ指斥スルモノト解スルヲ相當トス一件記録ニ徴スルニ本件ニ付原審カ最初ニ定メタル公判期日ハ昭和十二年十一月八日ニシテ所論證據書類ヲ提出シタルハ右期日後タル同年同月二十二日及同年十二月五日ナルコトヲ認メ得ルカ故ニ原審カ此等ノ證據書類ニ付公判廷ニ於テ特ニ證據調ヲ爲ササレハトテ違法ニ非ス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルニ依リ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事正木亮關與

○住居侵入被告事件(昭和十三年(れ)第四七三號 棄却)

(昭和十三年六月十四日第三刑事部判決)

【上告人】 被告人 外川 一利 辯護人 小林 龜 郎

【第一審】 青森地方裁判所弘前支部 【第二審】 宮城控訴院

親告罪ト非親告罪トヨリ成ル牽連犯ノ性質

○ 判示事項

親告罪ト非親告罪トヨリ成ル牽連犯ノ性質

○ 判決要旨

親告罪ト非親告罪ト力牽連犯ヲ構成スル場合ニ於テ重キ罪力非親告罪ナレハトテ輕キ親告罪力親告性ヲ失フコトナク重キ罪力親告罪ナレハトテ輕キ非親告罪力親告性ヲ帶フルニ至ルコトナキモノトス

【参照】 刑法第五十四條 一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸レ又ハ犯罪ノ手段若クハ

結果タル行爲ニシテ他ノ罪名ニ觸ルルトキハ其最モ重キ刑ヲ以テ處斷ス

第四十九條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス

刑法第三百十條 故ナク人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若クハ艦船ニ侵入シ

又ハ要求ヲ受ケテ其場所ヨリ退去セサル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰

金ニ處ス

同法第七十七條 暴行又ハ脅迫ヲ以テ十三歳以上ノ婦女ヲ姦淫シタル者ハ強姦ノ

罪ト爲シ二年以上ノ有期懲役ニ處ス十三歳ニ滿タサル婦女ヲ姦淫シタル者亦同シ

○ 事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役三月ニ處ス但原審ニ於ケル未決勾留

日數中三十日ヲ右本刑ニ算入ス訴訟費用中證人工藤久一ニ支給シタル分ヲ除キ其ノ餘ハ全部被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ第一 昭和十二年九月五日午後十時過頃青森縣南津輕郡竹館村大字廣津桑田フデ方ニ同人ト情交ノ目的ヲ以テ同家内ニ故ナク侵入シ

第二 同日午後十一時頃同所工藤嘉吉方ニ其ノ妻工藤ミヨト情交ノ目的ヲ以テ同家内ニ故ナク侵入シ

第三 同日午後十一時過頃同所長尾與三郎方ニ其ノ長男要次郎ノ妻長尾ナヨト情交ノ目的ヲ以テ右ナヨノ寢室ニ故ナク侵入シ

タルモノニシテ以上ハ犯意繼續ニ出テタルモノトス

法律ニ照スニ被告人ノ所爲ハ刑法第三百十條第五十五條ニ該當スルヲ以テ所定刑中懲役刑ヲ選擇シ其ノ刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役三月ニ處シ同法第二十一條ニ依リ原審ニ於ケル未決拘留日數中三十日ヲ右本刑ニ算入シ訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ヲ適用シ主文掲記ノ如ク被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス

本件控訴事實中被告人カ昭和十二年九月五日午後十一時過頃前記長尾與三郎方寢室ニ於テ其ノ長男要次郎妻長尾ナヨニ對シ情交ヲ求メ拒絶セララルルヤ同女ニ對シ命ハ惜シクナイカト申向ケ脅迫シタル上其ノ背後ヨリ抱締メ強イテ姦淫セントシタルモノカ聲ヲ擧ケ救ヲ求メタル爲メ其ノ目的ヲ遂ケサリシモノナリトノ點ニ付按スルニ記録ヲ查スルニ告訴人長尾ナヨハ被告人ノ右強姦未遂事件ニ付告訴ヲ取消シタルヲ以テ本來同被告事件ニ對スル公訴ハ棄却スヘキモノナルモ右事實ハ判示第三ノ住居侵入罪ト互ニ手段結果ノ關係アルモノトシテ起訴セラレタルモノト認ムルヲ以テ特ニ公訴棄却ノ言渡ヲ爲サス

親告罪ト非親告罪トヨリ成ル牽連犯ノ性質

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人小林龜郎上告趣意書第一點原判決ハ本件起訴事實タル豫審終結決定第三事實ニ付「被告人カ同日午後十一時過頃同所長尾與三郎方寢室ニ於テ其ノ長男要次郎妻長尾ナヨニ對シ情交ヲ求メ拒絕セラシルヤ同女ニ對シ命ハ惜シクハナイカト申向ケ脅迫シタル上其ノ背後ヨリ抱締メ強イテ姦淫セントシタルモノヨカ聲ヲ擧ケ救ヲ求メタル爲其ノ目的ヲ遂ケサリシモノナリトノ點ニ付按スルニ記録ヲ查スルニ告訴人長尾ナヨハ被告人ノ右強姦未遂事件ニ付告訴ヲ取消シタルヲ以テ本來同被告事件ニ對スル公訴ハ棄却スヘキモノナルモ右事實ハ判示第三ノ住居侵入罪ト互ニ手段結果ノ關係アルモノトシテ起訴セラレタルモノト認ムルヲ以テ特ニ公訴棄却ノ言渡ヲ爲サス」ト判示シタリ然レトモ住居侵入罪ト強姦未遂罪トノ連結シタル場合ニ於テハ寧ロ其ノ強姦罪ノ手段タル住居侵入行爲ハ重キ強姦未遂ノ罪ニ吸收セラレルモノニシテ此ノ場合告訴ノ取下アルトキハ當然住居侵入ノ行爲ヲモ消滅ニ歸スルモノトス蓋シ法律カ告訴ヲ俟テ處分スヘキ罪ニ於テ其ノ告訴ヲ取消ヲ認容シ其ノ告訴取消ヲ前提トシテ公訴ヲ棄却スヘキモノト爲シタルハ被害者ノ意思ヲ尊重シタル結果ニ外ナラサレハ右強姦未遂ハ處罰セサルモ其ノ手段タル住居侵入ハ之ヲ處罰スルカ如キハ告訴ヲ取下ヲ認メタル精神ニ違背スルモノトス

然ラハ告訴ノ取消アリタルトキハ當該事件ハ此ノ親告罪中ニ包含セラルヘキ全部ニ對シ公訴棄却ノ言渡ヲ爲スヘキモノトス殊ニ連續犯ニアラサル強姦未遂罪ニ關シテハ之カ裁判ヲ爲ササルヘカラサルニ事茲ニ出テサル原判決ハ法律ノ解釋ヲ誤リタル不法アルモノトスト云フニ在リ

按ズルニ刑法第五十四條第一項後段ガ手段又ハ結果タル行爲ニシテ他ノ罪名ニ觸ルルトキハ其ノ最モ重キ刑ヲ以テ處斷スト規定セルハ單一又ハ繼續犯意ニ基ク二個以上ノ行爲ノ間ニ手段又ハ結果ノ牽連關係存スルトキハ此等ノ行爲ヲ處罰スルニ刑ノ併科又ハ併合加重ノ方法ヲ以テスルコトナク吸收主義ニ則リ最モ重キ罪ニ付定メタル刑ヲ以テ一罪ニ準ジテ處罰スルノ謂ナリ而シテ一罪ニ準ジテ處斷ストハ手段又ハ結果タル行爲ハ公訴提起ノ效力又ハ判決ノ既判力ナル法律的效果問題ニ付テハ之ヲ不可分のニ考察スベシトノ謂ニ過ギスシテ事實問題トシテ之ヲ可分のニ考察スルヲ禁ズルノ謂ト解スベキニ非ズ手段又ハ結果タル行爲ハ各々獨立ノ存在ヲ有シ輕キ罪ガ重キ罪ニ吸收セラレテ融然結合一罪ヲ構成スルモノニ非ズト解スベキ以上重キ罪ガ非親告罪ナレバトテ輕キ親告罪ガ親告性ヲ失フニ至ラザルト同時ニ重キ罪ガ親告罪ナレバトテ輕キ非親告罪ガ親告性ヲ帶ブルニ至ルコトナシ例ヘバ親告罪タル強姦罪ト非親告罪タル住居侵入罪トガ牽連關係ヲ生ズル場合ニ於テ強姦罪ニ對スル告訴ナキカ又ハ告訴アルモ其ノ取消アリタルトキ非親告罪タル住居侵入罪ノミヲ分離シテ訴追科刑スルモ毫モ牽連犯ヲ認メタル立法精神ニ背馳スルモノト謂フベカラズ但ダ一事不再理ノ原則上一旦住居侵入罪ニ付テ科刑

【要旨】

親告罪ト非親告罪トヨリ成ル牽連犯ノ性質

シタル後ニ於テハ別ニ強姦罪ニ付テ之ヲ處罰シ能ハザルノミ而シテ此ノ理ハ夙ニ本院判例ノ趣旨トスル所ナリトス(大正十二年十二月五日第三刑事部判決昭和七年五月十二日第一刑事部判決參照)然ラバ此ノ點ヲ以テスル所論攻撃ハ當ラズ論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事村上常太郎關與

○徵發令違反獸醫師法違反被告事件(昭和十三年(九)第四九一號
同年六月十四日第三刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 賀部久治 辯護人 三好彌六
外一名

【第一審】 田川區裁判所 【第二審】 福岡地方裁判所

○判示事項

徵發令ニ於ケル規避罪——規避罪ト中止犯

○判決要旨

一 徵發令ノ規避ノ罪ハ其ノ犯意力確定的ニ外部ニ徵表セラルルニ因リテ成立スルモノナルヲ以テ馬匹ノ徵發ヲ免ルル意圖ノ下ニ獸醫師ノ虚偽ノ診斷書ヲ添へ警察官署ニ應徵不能證明願書ヲ提出スルトキハ證明書ノ下付ヲ受ケタルト否トニ拘ラス成立スルモノトス【要旨第一】

二 馬匹ノ徵發ヲ免ルル目的ヲ以テ規避ノ犯意ヲ外部ニ表現シタル以上ハ之力遂行ヲ思止ルモ中止犯ヲ以テ目スヘキニ非ス【要旨第二】

【參照】 徵發令第五十一條 徵發ヲ拒ミ或ハ規避シ或ハ漫リニ使役ヲ離レタルモノ及ヒ之ヲ教唆誘導シタルモノハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ三回以上三十回以下ノ罰金ヲ附加ス

刑法施行法第十九條 他ノ法律ニ定メタル主刑ハ第二條ノ例ニ準シ刑法ノ刑ニ對照シテ之ヲ刑法ノ刑名ニ變更ス但シ單ニ禁錮トアルハ之ヲ有期ノ徵役又ハ禁錮ニ變更ス

他ノ法律ノ規定中罰金、停止公權、監視及ヒ附加ノ罰金ニ處ス可キ旨ヲ定メタルモノハ之ヲ廢止ス

徵發令ニ於ケル規避罪 規避罪ト中止犯

同法第二十條 他ノ法律ニ定メタル刑ニ付テハ其期間又ハ金額ヲ變更セズ但シ他ノ法律中特ニ期間又ハ金額ヲ定メサル刑ニ付テハ仍ホ舊刑法總則中期間又ハ金額ニ關スル規定ニ從フ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人久治ヲ禁錮六月被告人茂稔ヲ禁錮二月及罰金二十圓ニ處ス被告人茂稔カ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ二十日間勞務場ニ留置ス訴訟費用中原審ニ於ケル證人奥友太郎ニ支給シタル部分ハ被告人兩名ノ負擔トシ當審ニ於ケル證人奥友太郎ニ支給シタル部分ハ被告人兩名ノ連帶負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人久治ハ荷馬車運送業ヲ營ミ居ルモノニシテ被告人茂稔ハ後藤寺町ニ於テ開業セル獸醫師ナルトコロ

第一 被告人久治ハ昭和十二年四月頃右運送業用ノ馬匹十一頭ヲ所有シ之ヲ後藤寺町役場備附ノ馬籍簿ニ登録シ居タルカ其ノ後同年六月末頃ノ間ニ更ニ馬匹九頭ヲ順次ニ買入レタルモ此ノ部分ニ付テハ右馬籍簿ニ登録スル手續ヲ爲シ居ラサリシトコロ同年七月二十七日日支事變ニ對スル動員ノ爲所轄陸軍官署ヨリ後藤寺町長ニ對シ同年八月二日牒(騶)馬百一頭同年八月四日牒馬六頭ヲ差出スヘキ旨ノ徵發命令アリテ後藤寺町長ハ翌七月二十八日被告人久治ニ對シ前記馬籍簿ノ記載ニ從ヒ其ノ所有馬十一頭ヲ提出スヘキ旨ノ徵發告知書ヲ送達スルヤ被告人久治ハ該徵發ヲ免カル目的ヲ以テ

(一) 同年同月二十九日徵發施行ノ準備トシテ田川郡後藤寺町惠比須神社廣場ニ於テ同町役場ヨリ馬匹ノ下檢査ヲ受ケタル際係員ナル同役場兵事係書記上田要太郎ニ對シ右徵發命令ヲ受ケタル自己所有馬ノ内青山號、蕪月號、

鳥號、成岩號ノ四頭ハ既ニ他ニ賣却シ自己ノ手許ニ存セサル旨不實ノ申立ヲ爲シ同係員ヲシテ馬籍ニ虛偽ノ事項ヲ記載セシメテ除籍處分ヲ受ケテ遂ニ其ノ差出ヲ免カレ

(二) 更ニ右徵發告知書ヲ受ケタル馬匹十一頭ノ内騶馬大草號一頭ノ徵發ヲ免カレント思惟シ同月二十九日夜同郡同町ナル被告人茂稔方ニ到リテ同人ニ對シ徵發ヲ免カルル爲ナルコトノ情ヲ告ケ警察署ノ證明ヲ求ムルニ付必要ナルヲ以テ大草號ノ疾病診査證明書ヲ作成方ヲ依頼シ同人ヲシテ右大草號ノ踏創發病ハ昭和十二年四月中ナルニ拘ラス同年七月十日ナリトシ豫後ハ既ニ全治ニ近キ狀況ナルニ拘ラス不良ニシテ高度ノ跛行ノ爲徵發場所ニ曳行スルコト能ハサル旨虛偽ノ診査證明書(證第五號中ノ診査證明書)ヲ作成セシメテ之ヲ受取り翌三十日馬匹應徵不能證明願書ト共ニ之ヲ後藤寺警察署ニ提出シテ大草號ノ差出ヲ免レントシ以テ右馬匹五頭ノ徵發ヲ規避シ

第二 被告人茂稔ハ

(一) 昭和十二年四月上旬頃ヨリ同年七月中旬頃迄ノ間後藤寺町ノ右久治方ニ到リ騶馬大草號ノ踏創ノ診察ヲ爲シ居リタルニ拘ラス其ノ診察簿ヲ備ヘス

(二) 同年七月二十九日夜後藤寺町ノ肩書住居ニ於テ被告人久治ヨリ右大草號ノ徵發ヲ免カルル爲ナルコトノ情ヲ告ケラレ之ニ要スル診査證明書ヲ作成方依頼ヲ受クルヤ同人ヲシテ右徵發ヲ免カレシムル目的ヲ以テ同人ニ於テ後藤寺警察署ニ應徵不能證明願ノ爲ニ提出スルモノナルコトヲ知り乍ラ即日同所ニ於テ前記第一ノ(一)記載ノ如キ虛偽ノ診査證明書ヲ作成シテ被告人久治ニ交付シ翌三十日久治ヲシテ之ヲ前記第一ノ(二)記載ノ如ク應徵不能證明願書ト共ニ後藤寺警察署ニ提出セシメ以テ同人ト共ニ右騶馬大草號ノ徵發ヲ規避シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人久治ノ判示所爲ハ包括シテ徵發令第五十一條刑法施行法第十九條第二條第二十條刑法第六十條ニ該當スルヲ以テ其ノ所定期限範圍内ニ於テ同被告人ヲ主文ノ刑ニ處スヘク被告人茂稔ノ判示所爲中診療簿ヲ備ヘサル點ハ獸醫師法第十四條第七條ニ徵發規避ノ點ハ徵發令第五十一條刑法施行法第十九條第二條第二十條刑法第六十條第六十五條第一項ニ各該當スルヲ以テ前者ニ付所定期中罰金刑ヲ選擇シ以上ハ刑法第四十五條前段ノ併合罪ナルヲ以テ同法第四十八條ニ則リ之ヲ併科スヘク其ノ所定期罰金額ノ範圍内ニ於テ同被告人ヲ主文ノ刑ニ處スヘク被告人茂稔カ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條第一項第四項ニ則リ二十日間勞役場ニ留置スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項第二百三十八條ニ則リ被告人兩名ヲシテ主文掲記ノ如ク負擔セシムヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ執レモ之ヲ棄却ス

○理 由

各被告人辯護人三好彌六上告趣意書第二點原判決ハ其ノ事實理由ニ於テ(二)被告人久治ハ徵發告知書ヲ受ケタル馬匹十一頭ノ内驢馬大草號一頭ノ徵發ヲ免レント思惟シ八月二十九日夜被告人茂稔方ニ到リ(中略)虚偽ノ診査證明書ヲ作成セシメテ之ヲ受取り翌三十日馬匹應徵不能證明願書ト共ニ之ヲ後藤寺警察署ニ提出シテ大草號ノ差出ヲ免レントシ以テ徵發ヲ規避シ(第二)被告人茂稔ハ(二)七月二十九日夜被告人久治ヨリ右大草號ノ徵發ヲ免カルル爲ナルコトノ情ヲ告ケラレ之ニ要スル診査證明書ノ作成方依頼ヲ受ケ同人ヲシテ右徵發ヲ免カレシムル目的ヲ以テ同人ニ於テ後藤寺署ニ應召不能證明願ノ爲ニ提出スルモノナルコトヲ知り乍ラ(中略)之ヲ提出セシメ以テ同人ト共ニ右驢馬大草號ノ徵發ヲ規避シタルモノナリト判示シアルモ(一)右被告人久治カ被告人茂稔ノ作成ニ係ル大草號診査證明書ヲ當該後藤寺警察署へ提出ナシタルハ直ニ以テ徵發規避ノ手段タルニ非スシテ右當該警察署ヨリ大草號應召不能ノ證明書ノ下付ヲ受クル爲ノ手段タルニ過キス馬匹徵發事務細則第三十三條ノ規定ニ依レハ應召不能ノ證明書下付ヲ受クル爲ニハ必シモ右ノ如キ診査證明書ノ添附ヲ要セス當該警察署ノ診査ニ俟ツ可キモノニシテ被告人久治カ本件ニ於テ右相被告茂稔作成ノ診査證明書ヲ提出シタルハ只斯ノ當該警察署ノ診査參考ノ爲ニ供シタルニ外ナラス故ニ假令之ヲ提出スルモ果シテ當該警察署ノ診査カ是認スルヤ否ヤ提出者ニ於テ豫測シ得可キ限リニ非サルヘク從テ原判決ノ如ク之ヲ以テ直ニ被告人等カ當初ヨリ大草號ノ徵發ヲ免レンカ爲ノ確定シタル唯一ノ目的ノ下ニ爲シタリト斷スヘキモノニ非スシテ寧ロ診査ノ參考材料ニ供シ若シ之ヲ認メラレサル場合ニハ快ク之ニ從フノ意思ノ下ニ爲サレタリト解スヘキヲ至當ナリト相信ス這ハ本件其ノ後ノ事實ニ現ハレタル事跡ニ徵シテ明ナルトコロナリトス(二)今假ニ一步ヲ讓リ當該警察署ヨリ巧ニ應召不能證明書ノ下付ヲ受ケタリトスルモノノミヲ以テ規避ノ手段全部ナリト見ルコトヲ得ヌ又之ノミヲ以テ規避ノ目的ヲ遂ケ得可キモノニモ非ス何トナレハ馬匹徵發事務細則第三十三條ノ規定ニ依レハ右當該警察署ノ應召不能證明書ノ下付ヲ受

明書ノ作成方依頼ヲ受ケ同人ヲシテ右徵發ヲ免カレシムル目的ヲ以テ同人ニ於テ後藤寺署ニ應召不能證明願ノ爲ニ提出スルモノナルコトヲ知り乍ラ(中略)之ヲ提出セシメ以テ同人ト共ニ右驢馬大草號ノ徵發ヲ規避シタルモノナリト判示シアルモ(一)右被告人久治カ被告人茂稔ノ作成ニ係ル大草號診査證明書ヲ當該後藤寺警察署へ提出ナシタルハ直ニ以テ徵發規避ノ手段タルニ非スシテ右當該警察署ヨリ大草號應召不能ノ證明書ノ下付ヲ受クル爲ノ手段タルニ過キス馬匹徵發事務細則第三十三條ノ規定ニ依レハ應召不能ノ證明書下付ヲ受クル爲ニハ必シモ右ノ如キ診査證明書ノ添附ヲ要セス當該警察署ノ診査ニ俟ツ可キモノニシテ被告人久治カ本件ニ於テ右相被告茂稔作成ノ診査證明書ヲ提出シタルハ只斯ノ當該警察署ノ診査參考ノ爲ニ供シタルニ外ナラス故ニ假令之ヲ提出スルモ果シテ當該警察署ノ診査カ是認スルヤ否ヤ提出者ニ於テ豫測シ得可キ限リニ非サルヘク從テ原判決ノ如ク之ヲ以テ直ニ被告人等カ當初ヨリ大草號ノ徵發ヲ免レンカ爲ノ確定シタル唯一ノ目的ノ下ニ爲シタリト斷スヘキモノニ非スシテ寧ロ診査ノ參考材料ニ供シ若シ之ヲ認メラレサル場合ニハ快ク之ニ從フノ意思ノ下ニ爲サレタリト解スヘキヲ至當ナリト相信ス這ハ本件其ノ後ノ事實ニ現ハレタル事跡ニ徵シテ明ナルトコロナリトス(二)今假ニ一步ヲ讓リ當該警察署ヨリ巧ニ應召不能證明書ノ下付ヲ受ケタリトスルモノノミヲ以テ規避ノ手段全部ナリト見ルコトヲ得ヌ又之ノミヲ以テ規避ノ目的ヲ遂ケ得可キモノニモ非ス何トナレハ馬匹徵發事務細則第三十三條ノ規定ニ依レハ右當該警察署ノ應召不能證明書ノ下付ヲ受

ケタリトスルモ更ニ應セサルカ爲ニハ之ヲ直ニ現住地ノ市町村長宛届出ヲ爲シ市町村長ハ又更ニ同三十四條ノ規定ニ依リ夫々ノ手續ヲ履踐スルニ非サレハ徵發ニ應セサルコトヲ得サレハナリ故ニ若シ徵發告知ヲ受ケタル馬匹所有者カ假ニ之ヲ免レンカ爲當該警察署ヨリ應召不能證明書ノ下付ヲ受ケタリトスルモ之ヲ現住地ノ市町村長ニ届出ヲ爲サス其ノ儘任意ニ其ノ徵發ニ係ル馬匹ヲ差出シ以テ徵發セラレタル場合ニ於テモ猶且之ヲ以テ規避ヲ遂ケタルモノナリトシテ罰シ得ヘキヤ蓋シ疑ナキ能ハス彼上(一)(二)ノ點ヨリ觀テ本件ノ如ク應召不能證明書ヲ利用シ徵發ヲ規避スルカ爲ニハ其ノ手段トシテ先ツ當該警察署ヨリ應召不能證明書ノ下付ヲ受ケ亞ニ之ヲ現住地ノ市町村長宛届出ツヘキ二個ノ段階ヲ經サル可ラス故ニ原判決カ被告人等カ右手段タル可キ行爲ノ一段階ニ著手シタルコトノミヲ以テ大草號ノ徵發ヲ免レントシ以テ規避シタリト斷シタルハ矛盾シタル觀方ニシテ實ハ規避セントシテ應召不能證明書下付ヲ願ヒ出タルモノナルニ過キスト觀ル可キモノナリ即チ本件此ノ點ニ關スル事實ハ所謂中止未遂ニシテ規避ノ既遂ニ非ス而シテ本罪ノ未遂ハ之ヲ罰スルノ規定ナキヲ以テ原判決ハ右點ニ關シ擬律錯誤ノ法令違反ト重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アリト確信スト云フニ在レトモ

【要旨】

荷モ馬匹ノ徵發ヲ免ルル意圖ノ下ニ獸醫師ノ虛偽ノ診斷書ヲ添ヘ警察官署ニ馬匹應徵不能證明願書ヲ提出シタルニ於テハ假令之ニ對スル證明書ノ下付カ警察官署ノ診査ノ結果ニ繫ルトハ云ヘ既ニ規避ノ犯意ハ確定的ニ外部ニ徵表セラレタルモノト解スベキヲ以テ原判決ガ右事實ヲ認メテ徵發令第五十一條ノ規避罪ニ問擬シタルハ相當ナリ而シテ同罪ノ成立スルニハ現實ニ徵發ヲ免レ得タルコトヲ要セザルハ勿論應徵不能證明書ノ下付ヲ受ケタルコトヲモ要セザルモノトス然ラバ判示ノ如ク馬匹應徵不能證明書下付願ヲ提出スルノ所爲ニ出デタル以上規避罪ハ完全ニ成立シ爾後其ノ遂行ヲ思止リタリトスルモ規避罪ノ中止ヲ以テ目スベキニ非ズ論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事村上常太郎關與

○衆議院議員選舉法違反被告事件 (昭和十三年(九)第六〇六號 棄却)

(同年六月十四日第三刑事部判決)

【上告人】 被告人 森 昇三郎 辯護人 (堀 倉 正 夫)

【第一審】 松山地方裁判所 外七名

【第二審】 廣島控訴院

○判示事項

選舉事務長選任以前ノ運動費用ノ支出ト罰則

○判決要旨

衆議院議員選舉ニ際シ選舉事務長ヲ選任セザル以前ニ於テハ議員候補者ト雖選舉運動ノ費用ヲ支出スルコト能ハサルモノナレハ其ノ選任以前之カ支出ヲ爲シタルトキハ衆議院議員選舉法第一百一條第一項違反ノ罪ヲ構成スルモノトス

【参照】衆議院議員選舉法第八十八條 議員候補者ハ選舉事務長一人ヲ選任スヘシ但シ議員候補者自ラ選舉事務長ト爲リ又ハ推薦届出者(推薦届出者數人アルトキハ其ノ代表者)議員候補者ノ承諾ヲ得テ選舉事務長ヲ選任シ若ハ自ラ選舉事務長ト爲ルコトヲ妨ケス
議員候補者ノ承諾ヲ得スシテ其ノ推薦ノ届出ヲ爲シタル者ハ前項但書ノ承諾ヲ得ルコトヲ要セス
議員候補者ハ文書ヲ以テ通知スルコトニ依リ選舉事務長ヲ解任スルコトヲ得選舉事務長ヲ選任シタル推薦届出者ニ於テ議員候補者ノ承諾ヲ得タルトキ亦同シ
選舉事務長ハ文書ヲ以テ議員候補者及選任者ニ通知スルコトニ依リ辭任スルコトヲ得

選舉事務長ノ選任者(自ラ選舉事務長ト爲リタル者ヲ含ム)以下之ニ同シ)ハ直ニ其ノ旨ヲ選舉區内警察官署ノ一ニ届出ツヘシ
選舉事務長ニ異動アリタルトキハ前項ノ規定ニ依リ届出ヲ爲シタル者直ニ其ノ届出ヲ爲シタル警察官署ニ其ノ旨ヲ届出ツヘシ
第九十五條ノ規定ニ依リ選舉事務長ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ハ前項ノ例ニ依リ届出ツヘシ其ノ之ヲ罷メタルトキ亦同シ
同法第一百一條 立候補準備ノ爲ニ要スル費用ヲ除クノ外選舉運動ノ費用ハ選舉事務長ニ非サレハ之ヲ支出スルコトヲ得ス但シ議員候補者又ハ選舉委員ハ選舉事務長ノ文書ニ依ル承諾ヲ得テ之ヲ支出スルコトヲ妨ケス
(以下省略)
同法第三百三十四條 第一百一條ノ規定ニ違反シテ選舉運動ノ費用ヲ支出シタル者ハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人森昇三郎、工藤養次郎ヲ各禁錮四月ニ被告人石川眞雄、眞鍋常一郎ヲ各禁錮五月ニ被告人田坂官一ヲ禁錮二月ニ被告人菅義憲ヲ禁錮三月ニ被告人奥本彌章ヲ罰金三百圓ニ被告人宮内弘、酒井十吉ヲ各罰金百五十圓ニ被告人青野藤右衛門ヲ罰金二百圓ニ處スル旨(勞役場留置沒收追徴及訴訟費用負擔省略)ノ判決ヲ爲シタリ

昭和十二年四月三十日施行ノ衆議院議員總選舉ニ際シ被告人森昇三郎ハ同月十五日被告人工藤養次郎ノ推薦届出ニヨリ選舉事務長選任以前ノ運動費用ノ支出ト罰則

リ愛媛縣第二選舉區ヨリ政友會公認候補者トシテ立候補シタルカ其ノ選舉ニ付
第一 被告人森昇三郎ハ

(一) 未タ選舉事務長ヲ選任セサル同月十六日同縣新居郡西條町大字大町ナル原審相被告人戸田由平方ニ於テ被告
人工藤養次郎ニ對シ自己ノ爲選舉運動ノ費用トシテ金八千圓ヲ支出交付シ以テ選舉事務長ノ文書ニ依ル承諾ヲ得
スシテ選舉運動費用ヲ支出シ
(二) 當選ヲ得ル目的ヲ以テ

(1) 同月十六日同所ニ於テ被告人工藤養次郎及豫テ罷黜ナル原審相被告人戸田由平ト共ニ被告人眞鍋常一郎ヨ
リ自己ノ爲越智郡及今治市ニ於テ約三千票ヲ獲得スヘキニ依リ三千五百圓ノ出金アリ度キ旨ノ要求ヲ受クルヤ
後記第二頁頭記載ノ選舉事務ニ關係アル吏員タル工藤養次郎及右戸田由平ト共謀ノ上工藤養次郎ノ手ヨリ眞鍋
常一郎ニ對シ同人カ越智郡及今治市ニ於テ爲ス右選舉運動ノ費用及報酬竝同人ヨリ他ノ選舉運動者ニ供與スヘ
キ選舉運動ノ費用及報酬トシテ金二千圓ヲ供與交付シ

(2) 同月十七日同所ニ於テ戸田由平ト共謀ノ上同人ノ手ヨリ青野藤右衛門ニ對シ同人カ自己ノ爲新居郡中萩村
方面ニ於テ投票取纏運動ヲ爲スコトノ報酬トシテ金百五十圓ヲ供與シ

(3) 同月二十四日頃加藤十郎ヲ使者トシテ新居郡中萩村大字中村堀江品助方ニ遣ハシ同所ニ於テ加藤十郎ノ手
ヲ通シ堀江品助ニ對シ同人カ他ノ有志ト共ニ同郡東部方面ニ於テ自己ノ爲ニ爲ス演說及推薦狀ニ依ル選舉運動
ノ費用及報酬竝同人ヨリ他ノ選舉運動者ニ供與スヘキ選舉運動ノ費用及報酬トシテ金八百圓ヲ供與交付シ

第二 被告人工藤養次郎ハ新居郡神戶村長トシテ右選舉區内ニ於ケル選舉事務ニ關係アル吏員ニシテ又政友會愛媛縣
支部顧問同支部新居郡部會長ニシテ候補者森昇三郎ノ爲選舉事務長ニアラサルモ事實上其ノ選舉ヲ總括主宰シタ

ル者ナルトコロ

(1) 同月十六日前記戸田由平方ニ於テ同人及被告人森昇三郎ト共謀ノ上前記第一ノ(二)ノ(1) 記載ノ事情ニ
依リ被告人眞鍋常一郎ニ對シ同記載ノ趣意ニテ金二千圓ヲ供與交付シ

(中略)

タルモノニシテ右被告人森昇三郎ノ第一ノ(二)ノ所爲ハ犯意繼續ニ係ルモノトス

法律ニ照スニ被告人森昇三郎ノ判示第一ノ(一)ノ所爲ハ衆議院議員選舉法(以下單ニ選舉法ト略記ス) 第一百一條第
一項第百三十四條ニ(一)ノ(1)ノ所爲ハ刑法第六十條第六十五條ヲ適用シ其ノ金錢供與ノ點ハ選舉法第百十二條
第一項第一號ニ金錢交付ノ點ハ同法條第一項第五號ニ同(2)ノ所爲ハ刑法第六十條選舉法第百十二條第一項第一號
ニ(3)ノ所爲ノ金錢供與ノ點ハ選舉法第百十二條第一項第一號金錢交付ノ點ハ同法條第一項第五號ニ該當スルトコ
ロ右二ノ(1)及(3)ハ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸レ(1)(2)(3)ハ犯意繼續ニ係ルヲ以テ刑法第五十
四條第一項前段第五十五條第十條ニ依リ重キ金錢供與罪ノ刑ニ從ヒ禁錮刑ヲ選擇シ之ト(一)ノ罪ハ刑法第四十五條
前段ノ併合罪ナルヲ以テ同法第四十七條第十條ニ依リ重キ(二)ノ罪ノ刑ニ法定ノ加重ヲ爲シ主文ノ刑ヲ量定處斷ス
ヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人森昇三郎辯護人堀合正男、沼倉俊夫上告趣意書第一點原判決ハ法律ノ解釋ヲ誤リタル違法乃至

選舉事務長選任以前ノ運動費用ノ支出ト罰則

重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アリ原判決ハ其ノ理由ニ於テ「第一、被告森昇三郎ハ(一)未タ選舉事務長ヲ選任セサル同月十六日同縣新居郡西條町大字大町ナル原審相被告人戸田由平方ニ於テ被告人工藤養次郎ニ對シ自己ノ爲選舉運動ノ費用トシテ金八千圓ヲ支出交付シ以テ選舉事務長ノ文書ニ依ル承諾ヲ得シテ選舉費用ヲ支出シタルモノ」ト判示シ右原告人ノ判示行爲ハ衆議院議員選舉法第百一條第一項第百三十四條ニ該當スルモノトナシ原告人ニ對シ有罪ノ判決言渡ヲ爲セリ原告人カ判示ノ如ク判示金員ヲ原審相被告人工藤養次郎ニ對シ事務長ノ文書ニ依ル承諾ナクシテ交付シタル事實ハ原判決援用ノ各證據ニヨリ之ヲ認定スルニ十分ナリ然レトモ衆議院議員選舉法第百一條第一項ハ選舉運動ノ爲其ノ費用ヲ合法的ニ支出スル場合ノ規定即チ其ノ具體的ニ確定シタルモノ又ハ應テ確定セラルヘキモノニ對シ事務長自ラ支出セス他人ヲシテ支拂ハシムル場合ニハ事務長ノ文書ニ依ル承諾ヲ要スル旨ノ規定ニシテ將來支出スルコトアルヘキ選舉運動ノ全般的資金タラシムル目的ニテ支出セル場合ニハ何等該規定ノ適用ヲ許ササルモノナリ所謂選舉資金ハ選舉費用トハ其ノ性質ヲ異ニシ前者ハ將來支出スルコトアルヘキ選舉運動費用ノ財源ニシテ衆議院議員選舉法第百一條所定ノ選舉費用ニ該當セス之カ支出ハ選舉運動費用ノ支出ニアラス事務長ノ文書ニ依ル承諾ヲ要セサルコトハ明カナリ從テ右選舉資金ヲ候補者ニ於テ事務長以外ノ者ニ交付シ或ハ寄託スルモ違法ニ非サルコト勿論ナリ原告人ノ支出セル判示金員カ果シテ選舉資金ナリヤ或ハ現實ノ選舉運動費用ナリ

ヤ之ヲ一件記録ニヨリ精査スルニ一、原審相被告人工藤養次郎ハ候補者タル原告人ノ選舉運動ニ付總括主宰シ居リタルコト右事實ハ(イ)原判決理由第二ノ冒頭ニ於ケル判示事實(ロ)原判決援用ニ係ル相被告人工藤養次郎ノ原審公判調書中ノ供述記載(ハ)昭和十三年二月二十八日付ニテ原審裁判所ニ提出セル原告人ノ上申書中一ノ(一)記載(ニ)原告人ニ對スル豫審判事ノ強制處分ニヨル訊問調書中原告人ノ供述記載(第五問答並ニ第六問答)(ホ)原告人ニ對スル豫審第一回訊問調書中ノ供述記載(第十三乃至十五問答)ニヨリ明カナリ二、判示金員ノ使途ニ付原告人ハ相被告人工藤養次郎ニ對シ何等指定シタル事實ナク同相被告人ノ自由裁量ニ委ネタル事實右事實ハ(イ)判示第一ノ(一)事實ニ付原判決ノ援用セル第一審第五回公判調書中ノ原告人ノ供述記載並ニ同上調書中ノ原審相被告人工藤養次郎ノ供述記載(ロ)原告人ニ對スル強制處分ニ依ル豫審判事ノ訊問調書中ノ原告人ノ供述記載(第五問答第六問答第十三乃至第十五問答)(ハ)原告人ニ對スル豫審第一回訊問調書中ノ原告人ノ供述記載(第二問答第七乃至第九問答)(ニ)原審相被告人工藤養次郎ニ對スル豫審第一回訊問調書中ノ原告人ノ供述記載(第十一、第十二問答)ニヨリ其ノ證明十分ナリト信ス三、原告人ハ判示金員交付ニ當リ該金員ノミヲ以テ將來選舉運動ニ要スル全般的總費用ニ充當スル意思ナリシコト右事實ハ原審第四回公判調書中原告人ノ供述トシテ「私ハ右金八千圓ヲ右選舉運動費全部ヲ工藤ノ手ヲ賄ツテ貰フ積リテアリマシタ第二區ノ法定ノ選舉費ハ八千五百圓テアリマシタカラ私ハ工藤へ渡シタ右金

テ右選舉運動費ヲ全部濟マセテ貰フ積リテ夫以外ニハ他ヨリ調金等スル考ハアリマセシタトノ記載ニ徴シ之ヲ認ムルニ足ル等ヲ綜合スレハ原判決判示ノ金八千圓カ選舉資金ナルコト寔ニ明白ニシテ之カ支出ニ付何等事務長ノ承諾ヲ要スヘキ筋合ニアラス然ルニ原判決カ上告人ノ判示金員支出行爲ヲ目シテ衆議院議員選舉法第百一條ニ違反スルモノトナシ同法條並ニ同法第百三十四條ヲ適用處斷シタルハ將來支出スルコトアルヘキ選舉運動費用ノ財源即チ所謂選舉資金ノ支出ニ付テモ同法條ノ適用アリト法律ノ解釋ヲ誤リタル違法アルカ乃至判示金員支出ヲ選舉資金ノ支出ニ非ス具體的ノ選舉運動費用ノ支出ナリト誤認シタルモノニシテ原判決ハ破毀ヲ免レサルモノト思料スト云ヒ」第二點原判決ハ審理不盡ノ違法又ハ理由不備乃至判決ニ示スヘキ判斷ヲ遺脱シタル違法アリ原判決ハ其ノ理由第一ノ(一)ニ於テ上告人カ被告人工藤養次郎ニ對シ自己ノ爲選舉運動ノ費用トシテ金八千圓ヲ支出交付シ以テ事務長ノ文書ニ依ル承諾ヲ得スシテ選舉運動費用ヲ支出シタル事實ヲ確定セリ一、而シテ右判示金八千圓ノ使途ニ付原判決ハ單ニ「自己ノ爲選舉運動ノ費用トシテ」ト漠然ト判示シタルノミニシテ判示金員カ選舉運動費用ノ財源タル所謂選舉資金ナリヤ又ハ使途ノ既ニ具體的ニ確定セル選舉運動費用ナリヤ否ヤ判文上容易ニ之ヲ認ムルコトヲ得ス第一點論述ノ如ク判示金員カ選舉資金ナリヤ選舉運動費用ナリヤハ上告人ノ所爲ノ適法不適法ヲ判斷スヘキ重要ナル事項ナルヲ以テ原判決ハ須ク慎重審理ノ上證據ニヨリ之ヲ確定シ之ヲ判文上ニ判示セサルヘカラス然ルニ原判決ハ何等コノ點ニ付審理

ヲ爲ササルモノニシテ原判決ハ審理不盡ノ違法乃至理由不備又ハ判決ニ示スヘキ重要ナル爭點ニ關スル判斷ヲ遺脱シタル違法アルモノニシテ破毀ヲ免カレサルモノト思料スト云フニ在リ

因テ案ズルニ選舉ニ際シ議員候補者ガ選舉運動ヲ爲サントスルトキハ選舉事務長ヲ選任スベキコト衆議院議員選舉法第八十八條ノ法意ニ照シ明ナリ又立候補準備ノ爲ニ要スル費用ヲ除クノ外選舉運動ノ費用ハ選舉事務長ニ非ザレバ之ヲ支出スルコトヲ得ズ但議員候補者又ハ選舉委員ハ選舉事務長ノ文書ニ依ル承諾ヲ得テ之ヲ支出スルヲ妨ケザルコト同法第百一條第一項ノ規定スル所ナリ故ニ未ダ選舉事務長ヲ選任セザルトキハ假令議員候補者ト雖選舉運動ノ費用ヲ支出スルコト能ハザルモノト解スベキモノトス而シテ右第百一條第一項ハ選舉事務長ノ選任ナキ以前ニ於テハ承諾ヲ爲スベキ相手方ナク其ノ適用ナキ觀アリト雖衆議院議員選舉法ハ選舉運動ノ費用ヲ節約セシメ同時ニ不正競争ヲ避クル爲費用ノ總額ヲ限定シ其ノ超過支出ニ付刑罰並當選無効ノ制裁ヲ以テ莅ムコトトシ其ノ支出ノ責任ヲ選舉事務長ニ負ハシメタルモノナレバ選舉事務長ノ選任ナキ以前ニ於テハ選舉運動ノ費用ヲ支出スルヲ得ザラシメタル趣旨ト解スベク議員候補者ガ之ニ違背シタルトキハ究竟右第百一條第一項ノ趣旨ニ則リ刑罰ヲ以テ莅ムヲ相當ト解スベキモノトス原判決ノ認メタル事實ニ依レバ被告人森昇三郎ハ未ダ選舉事務長ヲ選任セザル四月十六日愛媛縣西條町ナル第一審相被告人戸田由平方ニ於テ被告人工藤養次郎ニ對シ自己ノ爲選舉運動ノ費用トシテ金八千圓ヲ支出交付シ以テ選舉事務長ノ文書ニ依ル承諾ヲ得ズ

【要旨】

選舉事務長選任以前ノ運動費用ノ支出ト罰則

シテ選舉運動費用ヲ支出シタリト云フニ在リテ其ノ引用證據ヨリ之ヲ見レバ右ハ選舉運動ノ費用タルコト洵ニ明ナリ然ラバ被告人ハ選舉事務長ヲ選任シタル後ニ於テ其ノ文書ニ依ル承諾ヲ得テ之ヲ支出スベキモノナルニ其ノ選任ナキ以前ニ於テ之ガ支出交付ヲ爲シタルハ同法第一百條第一項ニ違背シタルニ歸スルモノトス故ニ原判決ハ右違反事實ノ判示トシテ判決ニ示スベキ判斷ヲ遺脱スル所ナク理由備ハラザルナシ又被告事件ニ對スル審理モ十分ニシテ盡サザルモノアルヲ見ズ論旨孰レモ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事西村卯關與

○贈收賄被告事件

(昭和十三年(レ)第六〇四號 破毀免訴)

【上告人】 被告人 深田巳一郎 辯護人 (鍋島徳太郎 外一名)

【第一審】 京都地方裁判所 【第二審】 大阪控訴院

○判示事項

刑事訴訟法第二百八十四條ニ所謂共犯ノ場合ニ於ケル最終行爲ノ意義

○判決要旨

乙カ甲ニ於テ犯シタル連續行爲中ノ一事實ノミニ共犯關係アリト認メラルル場合ニ於テハ乙ニ對スル右犯罪行爲ノ時効期間ノ起算點ハ單ニ其ノ共犯關係ニアリト認メラルル行爲ノ終リタル時ヲ以テスヘク甲ニ對スル右行爲ト連續一罪ヲ爲ス行爲ノ最終ノ行爲ノ終リタル時ヲ以テスヘキモノニアラス

【参照】 刑事訴訟法第二百八十四條 時効ハ犯罪行爲ノ終リタル時ヨリ進行ス
共犯ノ場合ニ於テハ最終ノ行爲ノ終リタル時ヨリ起算ス
テ起算ス

刑事訴訟法第二百八十四條ニ所謂共犯ノ場合ニ於ケル最終行爲ノ意義

同法第二百八十五條 時效ハ公訴ノ提起、公判若ハ豫審ノ處分又ハ第二百五十五條ノ規定ニ依リ爲シタル判事ノ處分ニ因リ中斷ス但シ其ノ手續規定ニ違反シタル爲無効ナルトキハ此ノ限ニ在ラス
共犯ノ一人ニ對シテ爲シタル手續ニ因ル時效ノ中斷ハ他ノ共犯ニ對シ其ノ效力ヲ有ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人澤田巳一郎ヲ罰金百圓ニ處シ原審ニ於ケル未決勾留日數中五十日ヲ一日金二圓ニ折算シテ之ヲ罰金刑ニ算入スヘキ旨ノ判決ヲ爲シタリ
被告人青木精一ハ大正十二年三月六日鐵道局技師ニ任セラレ昭和三年六月二十日大阪鐵道局改良課長ヲ同四年七月二十七日同局保線課長ヲ同六年十二月五日同局保線課長兼改良課長ヲ同八年四月一日同局工務課長ヲ各命セラレ同九年八月十四日依願免官ニ至ル迄其ノ職ニ在リテ右改良課長トシテハ局長ヲ補佐シ同局主管ノ改良工事ニ付計畫設計ヲ爲シ内三萬圓以上ノ工事ニ付テハ本省ニ豫算同ヲ提出シ其ノ認可後豫算書請負人指名調書契約書案等ヲ提出シテ更ニ局長ノ決裁ヲ經タル上見積入札ノ指名契約ノ締結施行監督等ヲ爲シ又三萬圓未滿ノ工事ニ付テハ豫算書請負人指名調書等ヲ提出シテ局長ノ決裁ヲ經タル上見積入札ノ指名契約ノ締結施行監督等ヲ爲ス職務ヲ又同局保線課長トシテハ同局主管ノ線路建造物ノ維持修繕ニ關スル工事ニ付同局工務課長トシテハ右維持修繕ニ關スル工事ノ外改良工事ニ付執レモ局長ヲ補佐シ其ノ決裁ノ下ニ前同様ノ職務ヲ執リ居タル者(中略)被告人關谷正慶ハ大正八年七月鐵道院技師(其ノ後官制改正ニヨリ鐵道局技師トナル)ニ任セラレ昭和四年六月十四日東京鐵道局保線課技術掛長ヲ同六年十二月五日大阪鐵道局改良課工事掛長ヲ同八年四月一日同局工務課改良掛長ヲ命セラレ同十年五月十四日依願免官トナル迄其

ノ職ニ在リテ東京鐵道局保線課技術掛長トシテハ保線課長ノ指揮ヲ受ケ同局主管線路建造物ノ維持修繕ニ關スル工事は付調査測量設計見積入札指名ノ推薦ヲ爲ス等ノ職務ヲ又大阪鐵道局改良課工事掛長又ハ同局工務課改良掛長トシテハ同局主管ノ改良工事ニ付調査設計請負人指名ノ推薦ヲ爲ス等ノ職務ヲ執リ居タル者(中略)被告人澤田巳一郎ハ土木建築請負業者ニシテ鐵道工事ノ請負ニ從事セル者ナルトコロ

(中略)
第二 被告人青木精一ハ

(七) 被告人澤田巳一郎ヨリ同人ヲ將來大阪鐵道局主管ノ工事ニ付見積入札ニ指名セラレタキ趣旨ノ下ニ供與セラルル情ヲ知り乍ラ大阪市ナル當時ノ被告人方ニ於テ昭和七年八月頃大阪三越百貨店發行ノ額面五十圓ノ商品券一枚ノ交付ヲ受ケ

(中略)
第五、被告人關谷正慶ハ

(五) 被告人澤田巳一郎ヨリ將來同人ヲ大阪鐵道局主管ノ改良工事ニ付見積入札ニ指名方推薦アリタキ趣旨ノ下ニ供與セラルル情ヲ知り乍ラ昭和七年八月中旬頃神戸市ナル其ノ當時ノ被告人方ニ於テ大阪三越百貨店發行ノ額面五十圓ノ商品券一枚ノ交付ヲ受ケ

(中略)
第十一 被告人澤田巳一郎ハ被告人青木精一、關谷正慶ニ對シ前記第二ノ(七)第五ノ(五)各記載ノ趣旨ニ於テ同

刑事訴訟法第二百八十四條ニ所謂共犯ノ場合ニ於ケル最終行爲ノ意義

記載ノ如ク商品券ヲ贈與シ以テ公務員ノ職務ニ關シ賄賂ヲ交付シタルモノナリ

而シテ各被告人ノ判示所爲ハ夫々犯意繼續ニ出テタルモノトス
法律ニ照スニ被告人澤田巳一郎ノ所爲ハ刑法第九十八條第一項第五十五條ニ該當スルヲ以テ同被告人ニ對シ罰金刑ヲ選擇シタル上其ノ罰金刑ノ範圍内ニ於テ主文第一項記載ノ如ク其ノ刑ヲ量刑處斷シ且同法第二十一條ヲ適用シ原告ニ於ケル未決勾留日數中五十日ヲ一日金二圓ニ折算シテ之ヲ右罰金刑ニ算入スヘキモノトス

尙本件公訴事實中被告人澤田巳一郎カ昭和八年十二月頃被告人青木精一ニ額面五十圓ノ商品券ヲ又被告人關谷正慶ニ同九年八月下旬頃額面百圓同年十二月下旬頃額面二百圓ノ各商品券ヲ贈賄シ被告人青木精一及關谷正慶ニ於テ之ヲ收受シタリトノ點ハ孰レモ之ヲ認ムヘキ犯罪ノ證明ナキヲ以テ無罪タルヘキトコロ右ハ同被告人等ノ判示認定ノ犯罪事實ト連續一罪ノ關係ニ於テ公訴ノ提起アリタルモノナルヲ以テ特ニ主文ニ於テ無罪ノ言渡ヲ爲サス

○主 文

原判決中被告人澤田巳一郎ニ關スル部分ヲ破毀ス

被告人澤田巳一郎ヲ免訴ス

○理 由

被告人澤田巳一郎辯護人鍋島德太郎上告趣意書第一點原審判決ハ時効完成セル事實ニ對シ有罪判決ヲ言渡シ以テ不當ニ法律ヲ適用シタル違法アリ原審判決ハ被告澤田巳一郎ヲ罰金百圓ニ處シ其ノ理由トシテ收賄者被告人青木精一ニ對シ判決書第二ノ(七)ニ於テ「被告人澤田巳一郎ヨリ同ノ將來大阪

鐵道局主管ノ工事ニ付見積入札ニ指名セラレタキ趣旨ノ下ニ供與セラルル情ヲ知リナカラ前同所ニ於テ昭和七年八月頃大阪三越百貨店發行ノ額面五十圓ノ商品券一枚ノ交付ヲ受ケ」又收賄者被告人關谷正慶ニ對シ判決書第五ノ(五)ニ於テ「被告人澤田巳一郎ヨリ將來同人ヲ大阪鐵道局主管ノ改良工事ニ付見積入札ニ指名方推薦アリタキ趣旨ノ下ニ供與セラルル情ヲ知リナカラ昭和七年八月中旬頃前同所ニ於テ大阪三越百貨店發行ノ額面五十圓ノ商品券一枚ノ交付ヲ受ケ」ト各判示シ上告人被告澤田巳一郎ニ對シ判決書第十一ニ於テ「被告人澤田巳一郎ハ被告人青木精一、關谷正慶ニ對シ前記第二ノ(七)第五ノ(五)各記載ノ趣旨ニ於テ同記載ノ如ク商品券ヲ贈與シ以テ公務員ノ職務ニ關シ賄賂ヲ交付シ」ト判示シ法律ノ適用ニ付テハ被告人青木精一、關谷正慶ニ對シ賄賂收受ノ點ハ各刑法第九十七條第一項前段第五十五條ニ該當シ被告人澤田巳一郎ノ賄賂交付ノ點ハ刑法第九十八條第一項第五十五條ニ該當シト各夫々法條ヲ適用シ「尙本件公訴事實中被告人澤田巳一郎カ昭和八年十二月頃被告人青木精一ニ額面五十圓ノ商品券ヲ又被告人關谷正慶ニ同九年八月月上旬頃額面百圓同年十二月下旬頃額面二百圓ノ各商品券ヲ贈賄シ被告人青木精一及關谷正慶ニ於テ之ヲ收受シタリトノ點ハ何レモ之ヲ認ムヘキ犯罪ノ證明ナキヲ以テ無罪タルヘキトコロ右ハ同被告人等ノ判示認定ノ犯罪事實ト連續一罪ノ關係ニ於テ公訴事實ノ提起アリタルモノナルヲ以テ特ニ主文ニ於テ無罪ノ言渡ヲ爲サス」ト判示シタリ以上被告人澤田巳一郎ノ犯罪事實ハ青木精一、關谷正慶ノ兩人ニ對シ昭和七年八月頃各金五十圓ノ商

品券ヲ交付シタルモノナリト認定セラレタリ而シテ被告人澤田巳一郎ニ對スル起訴狀記載ノ事實ハ右青木精一、關谷正慶ニ對スル右昭和七年八月ニ各金五十圓ヲ交付シタル以外犯意繼續シテ昭和八年十月二月被告人青木精一ニ額面五十圓ノ商品券又關谷正慶ニ同九年八月上旬頃額面百圓同年十二月下旬頃額面二百圓ノ各商品券ヲ贈賄シタリト云フニ在リシモ右判決認定ノ昭和七年八月頃ノ賄賂交付ノ事實以外(即チ八年及九年分)ハ全部孰レモ之ヲ認ムヘキ犯罪ノ證明ナキヲ以テ無罪タルヘキモ判示認定ノ犯罪事實ト連續一罪ノ關係ニ於テ公訴ノ提起アリタルヲ以テ特ニ主文ニ於テ無罪ノ言渡ヲ爲サスト謂フニ在リテ被告人澤田巳一郎ニ對スル判示認定ノ事實ハ實ニ右昭和七年八月頃ノ青木、關谷ノ兩人ニ對スル各賄賂交付罪ニ止ルモノナルコトハ明ナル處ナリ而シテ被告人澤田巳一郎ニ對スル起訴ノ日時ハ昭和十一年六月二十五日ナルコトハ一件記録中ノ同人ニ對スル豫審請求書ニ明記セラレタルコトナリ然ラハ青木、關谷兩人ニ對シテ賄賂ヲ交付シタルハ昭和七年八月頃ナルヲ以テ其ノ行爲ヨリ三ヶ年ヲ經過シタル本件起訴前ノ昭和十年八月ヲ以テ既ニ時効完成セルモノト謂ハサルヘカラス(刑事訴訟法第二百八十一條第五號)上告人澤田巳一郎ニ對スル起訴事實ハ昭和七年以降昭和九年ニ到ル間ニ於ケル數個ノ事實ヲ連續一罪トシテ起訴セラレタルモノニシテ從ツテ七年以降ノ事實カ一應起訴アリタリト認ムヘキモノナルモ原審カ有罪ヲ認定シタルハ昭和七年八月ノ犯罪事實ノミニシテ他ノ犯罪事實ヲ犯罪ノ證明ナキヲ以テ無罪ナリト認定スル以上右昭和七年八月以降犯罪ナキヲ以テ連續ノ關係ナ

キニ歸シ而シテ右犯罪ハ三年ノ時効ニヨリ消滅スヘキモノナルコト極メテ明ナル處ナリ然ラハ上告人澤田巳一郎ニ對シ無罪ノ判決ヲ言渡ササルヘカラスナルニ原審カ上告人ニ有罪ノ判決ヲ言渡シタルハ不當ニ法律ヲ適用シタル違法アルモノト謂ハサルヘカラス原審カ上告人ニ對シ有罪判決ヲ言渡シタル根據何レニ在リヤ其ノ理由ヲ發見スルニ苦シムモ或ハ收賄者タル青木、關谷ト贈賄者タル澤田巳一郎トハ共犯關係ニアリトシテ刑事訴訟法第二百八十四條「時効ハ犯罪行爲ノ終リタル時ヨリ進行ス共犯ノ場合ニ於テハ最終ノ行爲ノ終リタル時ヨリ總テノ共犯ニ對シテ時効ノ期間ヲ起算ス」トノ法條ニ照シ贈賄者タル青木、關谷ト上告人澤田巳一郎トヲ共犯ト認定シ收賄者カ數年間ニ於ケル連續犯ノ關係ニ在リテ最終ノ犯罪ヨリ起算シ未タ時効完成セサルモノアル爲上告人ノ贈賄モ亦時効完成セスト謂フニ在リトセハ之亦甚シキ不當ト謂ハサルヘカラス贈賄罪ハ對立的共犯ニシテ絶對的必要的共犯ニアラス即チ賄賂提供罪ハ收賄者ナキ場合ニ於テ賄賂提供罪ノミ犯罪ヲ構成スルモノナル點ヨリ考覈セハ共犯者タル贈賄者ト收賄者トノ時効進行カ同一ニ進行シ同一ノ時期ニ完成スヘキモノナリト認ムヘキモノニアラサルヘシ故ニ贈賄罪ハ三年ニシテ時効完成シ收賄罪ハ五年以上ニシテ時効完成スト謂ハサルヘカラス若シ刑事訴訟法第二百八十四條第二項ノ共犯ノ場合ニ於テ最終ノ行爲ノ終リタル時ヨリ總テノ共犯ニ對シ時効ノ期間ヲ起算ストノ法條ヲ本件贈賄罪ノ如キ場合ニ適用ストセハ贈賄罪ハ收賄罪ヨリ短期間ニ時効完成スヘキモノナルニ不拘收賄罪ノ時効完成セサル間ハ遂ニ時効ノ完成スルコト

ナキニ歸スルモノト謂ハサルヘカラス果シテ然ラハ時効制度ヲ設ケタル法ノ精神ハ没却セラレルモノト謂ハサルヘカラス從ツテ假令ハ十五年以前ニ贈賄シタル者ニ對シ收賄者カ其ノ後引續キ十五ケ年間他ノ贈賄者ヨリ收賄シテ連續犯トシテ起訴セラレタル場合ハ連續犯タル收賄者ト共犯ナリトシテ十五ケ年前ノ贈賄者ノ時効カ完成セサルモノト謂ハサルヘカラスニ歸スルカ如キハ益々以テ時効制度ノ精神ニ背反スルモノト謂ハサルヘカラス如斯理アルコトナカルヘシ蓋シ連續犯ハ同一行爲ヲ數回反覆スルニ因リテ成立スルモノナレハ連續犯ヲ構成スル數個ノ行爲中ノ一ノミニ共謀加工シタル者ノ行爲ハ單一ノ犯罪ヲ構成シ連續犯ヲ以テ之ヲ論スルコトヲ得サルヤ洵ニ疑ヲ容レサルトコロト謂ハサルヘカラス又連續犯ハ同一人ノ數個ノ犯罪ニシテ人ト人トノ關係ニアラサルコトハ論ヲ俟タス故ニ本件青木、關谷ノ收賄者カ時効完成セストスルモ收賄者ノ數個ノ犯罪中昭和七年八月只一ノミニ關係アル贈賄者タル上告人ハ單一ノ犯罪ヲ構成其ノ犯罪行爲ノ終リタル時ヨリ單獨ニ時効期間ハ進行シ昭和七年八月ヨリ三ケ年ヲ經過シタル昭和十年八月時効完成シタルモノニシテ而シテ上告人ニ對スル起訴ハ昭和十一年六月二十五日ナルコトハ前掲ノ如クナルヲ以テ起訴以前既ニ時効完成セルモノト謂ハサルヘカラス敍上ノ如クニシテ上告人ニ對スル起訴事實ハ時効完成セルヲ以テ上告人ニ對シ無罪ノ判決ヲ言渡ササルヘカラサルニ原審判決ハ有罪ノ判決ヲ爲シタルハ法律ヲ不當ニ適用シタルノ違法アリ到底破毀ヲ免レサルモノトスト云ヒ」同辯護人足立進三郎上告趣意書第一點原判決ハ其ノ理由第十一ニ於テ

「被告人澤田巳一郎ハ被告人青木精一ニ對シ昭和七年八月頃將來大阪鐵道局主權ノ改良工事ニ付見積入札ニ指名セラレタキ趣旨ノ下ニ大阪三越百貨店發行ノ額面五十圓ノ商品券一枚ヲ交付シ又被告人關谷正慶ニ對シ昭和七年八月中旬頃大阪鐵道局主管ノ改良工事ニ付見積入札ニ指名方推薦アリタキ趣旨ノ下ニ大阪三越百貨店發行ノ額面五十圓ノ商品券一枚ヲ交付シ依リテ以テ公務員ノ職務ニ關シ贈賄ヲ爲シタル」旨ノ事實ヲ認定シ被告人澤田巳一郎ヲ罰金百圓ニ處シタリ而シテ澤田被告人ニ對スル公訴事實中ノ他ノ部分ニ付テハ「被告人澤田巳一郎カ昭和八年十二月頃被告人青木精一ニ額面五十圓ノ商品券ヲ又被告人關谷正慶ニ同九年八月上旬頃額面百圓同年十二月下旬頃額面二百圓ノ各商品券ヲ贈賄シ被告人青木精一及關谷正慶ニ於テ之ヲ收受シタリトノ點ハ孰レモ之ヲ認ムヘキ犯罪ノ證明ナキヲ以テ無罪タルヘキトコロ右ハ同被告人等ノ判示認定ノ犯罪事實ト連續一罪ノ關係ニ於テ公訴ノ提起アリタルモノナルヲ以テ特ニ注文ニ於テ無罪ノ言渡ヲ爲サス」ト判示シ且前記認定事實ニ對シテハ刑法第百九十八條第一項第五十五條ヲ適用セラレタリ判示ノ如ク前記有罪認定ノ行爲ト無罪認定ノ行爲トハ連續一罪トシテ起訴セラレタリト雖後者カ犯罪行爲ニアラサル限リ刑法上ノ連續關係ヲ有セサルコトハ辯ヲ俟タス從テ前者即チ原判決認定事實ハ兩個共ニ起訴前ニ於テ時効完成ヲ了セルコトモ亦明白ナル所ナリト然ルニ原判決ハ時効ヲ無視シ該行爲ニ對シテ免訴ノ裁判ヲ爲ササリシハ違法ナリト云ハサルヲ得ス原判決カ其ノ認定事實ニ對シテ免訴ノ裁判ヲ爲ササリシ所以ノモノハ蓋シ刑事訴訟法第二

百八十五條ニ依リ公訴ノ提起アリタル時時効ヲ中斷シタリト云フ見解ニ基クモノナラント推測ス公訴提起ノ手續ヨリスレハ形式上同上ノ適用ヲ受クルハ當然ナリト雖一、原判決認定ノ事實ハ兩個共昭和七年八月中ノ行爲ニ屬シ昭和十一年六月本件公訴提起ノ時ニ於テハ既ニ贈賄三年ノ時効完成セルヲ以テ起訴セラルヘキニアラサルナリ二、其ノ起訴ノ適法ナル所以ノモノハ一ニ後ノ昭和八年九月ニ互ル贈賄事實(原判決無罪判定)ト連續一罪ヲ爲スモノト看做シタル爲時効ノ適用ヲ受ケサルモノト認めラレタルカ故ナランモ刑法第五十五條ハ「連續シタル數個ノ行爲ニシテ同一ノ罪名ニ觸ルルトキハ一罪トシテ處斷ス」ト規定スルモノニシテ其ノ法意ハ第五十四條ノ「其ノ最モ重キ刑ヲ以テ處斷ス」ト云フ規定ト齊シク科刑上一罪ト看做スト云フニ過キスシテ其ノ犯罪行爲カ性質上一罪ヲ形成スト云フ法意ニアラサルコトハ明文上甚タ明ナル所ナリトス從テ科刑處斷ヲ爲スニ方リ後ノ行爲カ犯罪ニアラスト認定セラレタル場合ニ於テハ前ノ行爲カ後ノ行爲(犯罪ニアラサル)ト連續一罪ヲ形成スルモノト認定スルヲ得サルヘシ三、續テ公訴提起ノ時ニ於ケル手續ニ就キテ考察スルニ連續セル數個ノ犯罪行爲ニ對スル時効ノ適用ハ縱令最終ノ行爲ニ對スル期間ノ經過ニ依リテ計算セラルルモノナリトスルモ最初ノ時効完成セル行爲カ有罪ト判定セラレ後ノ行爲カ無罪トナリタル場合ニ於テハ此ノ連續系統ハ中斷セラルルヲ以テ換言スレハ犯罪ニアラサル行爲ト連續體ヲ形成スル能ハサルヲ以テ前ノ行爲ニ對スル時効ハ後ノ犯罪ナラサル行爲ニ依リテ影響セラルル理アルヘカラス從テ前ノ犯罪行爲ハ獨立シ

テ時効ノ進行ヲ完ウスルヲ得サルヘカラサルナリ即チ刑事訴訟法第二百八十五條ノ適用ハ後ノ連續行爲カ犯罪ナル場合ニ於テノミ之アリト雖然ラサル場合ニ於テハ時効中斷ノ效力發生スルニ由ナシト思料ス結局原判決ノ判示スル如ク連續一罪ノ關係ニ於テ公訴ノ提起アリタリトスルモコハ手續上ノ形式ニ止マリ實體上一罪ニアラス且公訴提起ニ於テ犯罪ニアラサル行爲ヲ犯罪ナルカ如ク誤認シ從テ又他ノ犯罪行爲ト連續一體ヲ爲ス如ク誤信シタル事實カ原審公判ニ於テ明白トナリタル以上原判決認定ノ行爲ハ公訴提起當時ヨリ獨立ノ存在ヲ爲セルモノトシテ法律ノ保護適用ヲ受ケサルヘカラサルコトハ法理上當然ノ歸結ト云ハサルヲ得サルナリ然ルニ原判決カ其ノ認定事實ニ對シ時効完成ノ故ヲ以テ免訴ノ言渡ヲ爲ササリシハ違法ナリト云ハサルヲ得スト云ヒ「追加上告趣意書第三點本件ノ公訴事實ハ被告人澤田巳一郎カ犯意ヲ繼續シテ第一、大阪鐵道局工務課長青木精一ニ對シ一、昭和七年八月金五十圓ノ商品券一枚ノ供與ヲ爲シ第二、昭和八年十二月頃額面百圓ノ商品券一枚ノ供與ヲ爲シ三、昭和九年十二月頃額面二百圓ノ商品券一枚ノ供與ヲ爲シタリト云フニ在リ而シテ原判決ニ於テハ右第一ノ一及第二ノ一ヲ有罪ナリトシ第一ノ二及第二ノ二、三ハ皆無罪ナリト認定セラレタリ此ノ認定ニ從ヘハ公訴事實中ノ犯罪ハ僅カニ最初ノ行爲ニ止マルヲ以テ被告人カ行爲當時ニ於テ犯罪意思ヲ繼續シテ各行爲ヲ行ヒタリトノ觀測ハ全ク破壞セラレ

タルモノニシテ犯罪意思ノ繼續シ居タル事實ハ存セサルモノト決定セサルヲ得サルヘシ論者或ハ曰ハ
ン公訴提起當時ハ犯意繼續シタル數個ノ犯罪アリト認メタルモノナルヲ以テ公訴提起ノ手續上ノ效力
ヲ發生スヘク從テ時効ノ適用判決ノ言渡等ニ於テモ連續一罪トシテノ取扱ヲ受クルハ當然ノ結果ナラ
ント然レトモ此ノ論ハ法律ノ文字ニ囚ハレタル空論ト云フヘシ刑法第五十五條ハ數個ノ犯罪行為ノ現
存スルヲ前提トシ未タ其ノ間ニ犯罪ニアラサル行為ノ介入スルヲ想像セサルナリ又刑事訴訟法第二百
八十五條ノ公訴提起ニ付キテモ素ヨリ犯罪ノ行為ノ現存ヲ前提トスルモノナルコトハ同法第三百十四
條ノ時効完成シタルトキニ免訴ノ言渡ヲ爲スヘシトノ規定ニ照スモ明ナリ例之公訴提起ノ際ニ於テハ
三個ノ犯罪行為カ連續存在セリト認メタルモ判決ニ於テ後ノ二個カ犯罪ニアラサルコトヲ判定シタル
トキハ公訴事實ノ犯罪ハ一個タリシ事實ハ之ヲ認メサルヲ得サルヘシ從テ公訴自體モ亦連續犯罪ノ存
在ヲ主張スルヲ得サルニ至ルヘシ果シテ然ラハ其ノ公訴事實中ノ犯罪行為ハ他ノ犯罪ニアラサル行為
ト連續一罪タルノ空想ニ累セラルルコトナク法律ニ從テ其ノ時効ノ進行ヲ許サルヘキハ當然ノ結論ナ
リト思料ス若シ又檢事カ公訴ヲ提起スル際自己ノ見解ヲ以テ犯罪行為ナリト認メタリトスルモ其ノ犯
罪ノ存否ハ法律上判決ニ依リテ確定セラルヘキモノナリ檢事ハ訴ヲ提起シテ裁判ヲ求ムル權能アリト
云フニ過キスシテ事實ヲ確定スル權限ヲ有セサルヲ以テ公訴提起ハ事實ニ對スル確定力ヲ有セリト斷
スルヲ得サルヘシ從テ公訴事實ノ眞實ハ判決ヲ待チテ始メテ決定セラルルヲ以テ公訴事實ヨリ發生ス

ル權利拘束時効等ニ關スル效力モ亦該確定判決ニ依リテ決定セラルルヲ當然ナリト結論セサルヲ得ス
又或ハ數個ノ連續シタル犯罪行為アリト推測シタル場合ニ於ケル時効ノ適用ニ就テ考フルニ最終ノ行
爲ニ對スル時効ノ經過ニ依リテ連續全體ノ時効完成ヲ認ムル法意ナリト解スルヲ通例トス然レトモ其
ノ個々ノ行為ニ就テ觀察スレハ時効ハ犯罪行為ノ終リタル時ヨリ進行スルヲ以テ各個ノ行為ヲ連續體
ヨリ分離スルトキハ既ニ時効ノ完成シタルモノアルコトモ同時ニ之ヲ認メサルヲ得サルヘシ唯其ノ効
力ヲ發生セサル所以ノモノハ連續行為ト認メラレタルカ故ニ外ナラス而シテ其ノ連續一體ヲ認メラル
ル所以ノモノハ各個ノ行為カ皆均シク法律上ノ犯罪行為ナルカ故ニ外ナラス若シ是等ノ行為中ノ最終
ノ行為カ犯罪ニアラサル場合ニ於テハ連續系統ヲ形成セサルカ故ニ其ノ以前ノ犯罪行為ハ之ト分離シ
テ其ノ行為ノ終リタル時ヨリ起算シ時効ヲ完成セシムルヲ得ヘキハ言ヲ俟タサル所ナリトス尙又次テ
考フヘキ一事アリ既ニ時効ヲ完成セル一ノ犯罪行為ニ對シ錯誤又ハ他ノ理由ニ依リ其ノ後ニ行ハレタ
ル他ノ一行爲ヲ目シテ同一罪名ニ觸ルル犯罪行為ト做シ連續犯トシテ公訴ヲ提起シタル場合アリト假
想センカ形式的手續ニ依リテ眞實ノ犯罪行為ハ法律ノ適用ト保護トヲ受クルヲ得スシテ永久ニ時効ノ
完成ヲ見サルノ不幸ニ遭遇スヘシ此ノ如ク法意ニ背反スル結果ヲ生スルハ訴訟手續ノ形式上ノ效力ヲ
以テ實體上ノ效力ヲ律セントスルノ誤解ニ出テタルモノニシテ全ク法律ノ解釋ヲ誤リタルカ故ナリト
思考ス公訴提起ノ效力ハ判決ニ依リ確定セラレタル事實條件ニ依リテ發生スヘク公訴提起者タル檢事

一個ノ見解ノミニヨリテ法律上與ヘラレタル時効ノ利益ヲ奪フヘキニアラサルナリ原判決カ其ノ認定事實ノ行爲カ既ニ時効ヲ完成セルニモ不拘免訴ノ判決ヲ爲サス他ノ犯罪ナラサル行爲ト連續一罪ヲ爲セル如ク解シ罰金百圓ノ刑ヲ言渡シタルハ法律ノ解釋ヲ誤リタル結果ニ外ナラス即チ原判決ハ此ノ點ニ於テ違法アリト思料スト云フニ在リ

原判決ハ被告人ニ對スル豫審終結決定ノ事實即チ被告人カ意思繼續ノ上原審相被告人青木精一ニ對シ昭和七年八月頃及昭和八年十二月頃ノ二回ニ互リ賄賂ヲ交付シ尙原審相被告人關谷正慶ニ對シ昭和七年八月中旬頃昭和九年八月上旬頃及同年十二月下旬頃ノ三回ニ互リ賄賂ヲ交付シタルモノトセル事實中右兩者ニ對スル各昭和七年八月頃ノ贈賄事實ノミヲ有罪トシ之ヲ連續ノ意思ニ出タルモノト認メ其ノ他ノ事實ニ付テハ證明十分ナラストシテ罪ヲ認メサリシモノナルコト所論ノ如シ而モ右有罪部分ハ收賄者タル右原審相被告人トノ關係ニ於テ所謂必要の共犯ノ關係ニ在ルモ此ノ部分ヲ外ニシテハ記錄上右原審相被告人ト共犯關係ヲ認メ得サルトコロナリ而シテ刑事訴訟法第二百八十四條第二項ニ所謂最終ノ行爲トハ共犯者間ニ共通シタル最終行爲ヲ指斥スルモノナルヲ以テ假令原審相被告人ニ對シテハ右共犯關係ニ在ル收賄行爲ノ外尙之ト連續關係ニ在ル數個ノ行爲アル爲其ノ時効期間ノ起算點ハ其ノ連續行爲ノ最終ノ時ヲ以テスルモノトスルモ被告人ノ行爲ニ對スル其ノ起算點ハ右ノ如ク單ニ共犯關係ニ在リト認メラルル部分ノ最終ノ行爲ノ終リタル時ヲ標準トスヘキモノト謂フヘク而モ贈賄ノ罪ハ

【要旨】

三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處セラルヘキモノナレハ其ノ公訴ノ時効ハ刑事訴訟法第二百八十一條同法第二百八十四條ニ依リ三年ヲ經過スルニヨリテ完成スルモノナルコト明ナルカ故ニ前示被告人ニ對スル連續ノ罪ノ時効ハ其ノ最後ノ行爲ノ終リタル時期即チ昭和七年八月頃ヨリ起算シ三年ヲ經過シタル昭和十年八月頃ヲ以テ完成スルモノト謂ハサルヘカラス然ルニ本件記錄ヲ查スルニ被告人ニ對シ右犯罪ニ關スル豫審請求アリタルハ昭和十一年六月二十五日(原審相被告人青木精一ニ對スル分ハ昭和十一年六月十日同關谷正慶ニ對スル分ハ昭和十一年六月七日)ナルコト明カナレハ右犯罪ノ時効ハ本件公訴提起前既ニ完成セルコト明カナリ從テ原判決ハ須ク之ニ對シ免訴ノ言渡ヲ爲スヘキモノナルニ拘ラス玆ニ出テサリシハ違法ニシテ論旨ハ理由アルモノトス依テ原判決中被告人澤田巳一郎ニ關スル部分ハ破毀ヲ免レサルモノトス(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)以上説明ノ如クナルヲ以テ被告人澤田巳一郎ノ賄賂ヲ交付シタリトノ公訴事實ハ既ニ時効完成セルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十七條第四百四十八條第四百五十五條第三百六十三條第四號ニ依リ原判決ヲ破毀シ被告人ニ對シ免訴ノ言渡ヲ爲スヘキモノトス

檢事正木亮關與

○誣告被告事件(昭和十三年(レ)第六一號 棄却)

〔昭和十三年(レ)第六一號 棄却〕

〔上告人〕 被告人 吉川 儀平 辯護人 根本仙三郎

〔第一審〕 東京區裁判所 〔第二審〕 東京刑事地方裁判所

○判示事項

誣告罪ノ成立

○判決要旨

書面ニ依ル誣告罪ノ成立スルニハ搜查權ヲ有スル官吏又ハ其ノ補助機關タル官吏ニ對シ虚偽ノ申告ヲ爲シ其ノ申告力同人等ノ閱覽シ得ヘキ状態ニ置カレタルヲ以テ足り必スシモ當該官吏ニ於テ之ヲ接受スルノ要ナキモノトス

〔參照〕 刑法第七十二條 人ヲシテ刑事又ハ懲戒ノ處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ虚偽ノ申告ヲ爲シタル者ハ第六十九條ノ例ニ同シ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役二月ニ處スル旨ノ判決ヲ爲シタリ
被告人ハ昭和十一年十一月二十七日施行セラレタル東京市區會議員選舉ニ際シ同市江戸川區ヨリ立候補シタルモ得票僅少ニシテ落選シ供託金ヲ没收セラレタルモノナルトコロ斯ル慘敗ノ憂目ヲ見ルニ至リタルハ畢竟同區ヨリ立候補シテ當選シタル東京電燈株式會社小松川出張所事故係小田島事田口權太郎及同人ノ應援ヲ爲シタル同出張所員等カ演說會等ニ於テ被告人ハ前科者ナルニヨリ投票スルモ無駄ナル旨等ノ惡口ヲ流布シタル爲之ニ禍サレタルモノナリト輕信シ痛ク之ヲ憤慨シタル結果右田口等ヲシテ刑事上ノ處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ同年十二月七日頃同市江戸川區逆井一丁目十一番地自宅ニ於テ卷紙ニ毛筆ヲ使用シ「小田島權太郎ハ右選舉ニ際シ岡本平三郎ニ買収金約百十圓ヲ交付シ同人ヲシテ東電従業員及外部有權者ヲ買収シタリ而シテ東電事故係小侯、安田、志賀ノ三名及同營業係藏淵、渡邊、長谷川ノ三名ハ夫々右小田島ヨリ金十圓乃至二十圓ニテ買収セラレタル」旨虚偽ノ事實ヲ記載シ宛名人ヲ東京地方檢事局小松川方面係檢事トシタル上申書一通(昭和十二年押第一三二七號ノ一)ヲ作成シ嚴封ノ上同日午後七時頃小松川警察署長官舎郵便受函ニ投入シ因テ前記田口外七名ヲ誣告シタルモノナリ
法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ各刑法第七十二條第六十九條ニ該當スルトコロ右ハ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルル場合ナルヲ以テ同法第五十四條第一項前段第十條ニ則リ最モ犯情重シト認ムル前記田口權太郎ニ對スル誣告罪ノ刑ニ從フヘキトコロ尙犯罪ノ情狀憫諒スヘキモノアルヲ以テ同法第六十六條第七十一條第六十八條第三號ニ則リ酌量減輕ヲ爲シタル刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役二月ニ處スヘキモノトス

○主 文

誣告罪ノ成立

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理由

辯護人根本仙三郎上告趣意書第一點原判決ハ理由不備ノ不法アリ原判決ハ被告人ニ對スル犯罪事實トシテ「被告人カ……田口等ヲシテ刑事上ノ處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ同年十二月七日……虛偽ノ事實ヲ記載シ宛名人ヲ東京地方検事局検事トシタル上申書一通ヲ作成シ嚴封ノ上同日午後七時頃小松川警察署長官舎郵便受函ニ投入シ因テ前記田口外七名ヲ誣告シタル事實ヲ判示シタリ然レトモ誣告罪ハ虛偽ノ事實ヲ檢事又ハ司法警察官ニ申告スルニヨリ成立スルモノナルヲ以テ本件ノ如ク單ニ官舎郵便受函ニ申告書ヲ投入シタル事實ノミニテハ誣告ノ事實完成シタルモノニ非ス少クトモ其ノ申告書カ捜査權アル官廳ニ到達スルカ又ハ其ノ官吏ノ手ニ接受シタルヲ必要トス從テ本件判示事實ハ唯小松川署長ノ住宅構外ニアル受函ニ投入シタルノミニシテ右小松川警察署ニ到達シタルモノニモ非ス又小松川署長ノ手ニ接受セラレタルモノニモ非ス從テ其ノ事實上ノ關係ニ於テハ申告書ヲ發送シタル文ノ狀態ニ在ルモノトス蓋シ右受函内ニ投入スルモ他人カ持去リ又ハ事故ニヨリ其ノ宛名人タル檢事ノ手許ニ達スルヤ否ヤ不定ニシテ之ヲ到達シタルモノト看做シ得ヘキニ非ス從テ誣告罪ノ成立スル判示事實トシテハ更ニ右小松川署長又ハ檢事ノ手ニ接受セラレタル事實ヲ記載セサルヘカラサルモノトス從テ原判決ノ判示事實ハ未タ誣告罪ヲ成立セサルモノニシテ因テ誣告ヲ爲シタルモノト認定セルハ理由不備

ノ不法アリト謂フヘク原判決ハ破毀ヲ免レサルモノトスト云フニ在レトモ

【要旨】

書面ヲ以テ人ヲ誣告スル犯罪ノ成立スルニハ捜査權ヲ有スル官吏又ハ其ノ補助機關タル官吏ニ對シ虛偽ノ申告ヲ爲シ其ノ申告カ同人等ノ閱覽シ得ベキ狀態ニ置カレタルヲ以テ足レリト爲シ必ズシモ當該官吏ニ於テ之ヲ接受スルヲ要セザルモノトス。蓋シ、虛偽ノ申告ハ、發送シタルノミヲ以テ完成シタリトセズ、必ズヤ其ノ到達ヲ要スルモ、到達ハ其ノ者ニ於テ現實ニ接受シタルコトヲ要セズ、閱覽シ得ベキ狀態ニ置カレタル時モ亦到達シタルモノト同一視スベキモノナレバナリ。而シテ原判示ヲ見ルニ、被告人ハ東京地方検事局小松川方面検事宛ノ判示上申書一通ヲ小松川警察署長官舎郵便受函ニ投入シタルモノニシテ、即チ宛名人タル檢事ノ補助機關タル警察署長ノ官舎ノ郵便受函ニ投入シタルモノニ係リ、既ニ該書面カ右官舎ノ郵便受函ニ入レラレタル以上、何時ニテモ檢事ノ補助機關タル右警察署長ノ閱覽シ得ベキ狀態ニ置カレタルモノナレバ、原判決ハ誣告罪ノ成立ニ缺クル所ナク論旨理由ナシ。第六點原判決ハ法則ヲ適用セサル不法アルカ又ハ刑ノ量定ニ於テ著シク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由アリ本件被告人ハ判示事實ノ如ク田口權太郎等ニ刑事ノ處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ誣告シタル事實ニシテ本件ハ右誣告ノ事件ニ付テハ田口權太郎等ハ警察官ヨリ取調ヲ受ケタルノ外何等ノ處分ヲ受ケス從テ之ニ對スル裁判及其ノ確定ナキ以前ニ於テ被告人ハ誣告ノ事實ヲ自白シタルモノナルコトハ訴訟記録ニヨリ明瞭ナル所ナリトス而シテ刑法第七十三條ニハ「前條ノ罪ヲ犯シタル者申告シタル事件ノ裁判確定前自白シタル時ハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得」ト規定シテ誣告罪ニ於テ被害者ノ裁判ニ至ラサル時ニ於テ自白スル時ハ特ニ刑ノ減輕又ハ免除ヲ爲シ得ヘキコトヲ明ニ

誣告罪ノ成立

セリ從テ本件被告人ノ自白ハ此ノ條文ニ該當スルモノナルヲ以テ被告人ニ對シテ本件法條ヲ適用シテ刑ノ減輕又ハ免除ヲ爲スヲ得ルヤ論ナキ所ナリトス而シテ本件被告人ハ上告理由第五點ニ於テ詳細縷述シタルカ如ク被告人ハ區會議員トシテ立候補シテ慘敗シ其ノ原因ハ全ク同候補者田口權太郎一派ノ惡口中傷ト信シ憤慨ノ餘前後ノ思慮ナク反射的ニ報復ノ意ヲ以テ已ムヲ得ス不實ノ申立ヲ爲シタルモノニシテ大ニ同情スヘキトコロアリ又其ノ申告ハ事實ニ反スルモ少クトモ田口權太郎一派ニ於テ選舉違反ノ事例ナカリシコトヲ斷言シ得サル所アリ又被告人ハ單ニ報復ノ爲官憲ノ取調ヲ受ケシムル文ノ意ニ出テ被害者ニ科刑ヲ加ヘントスルノ目的ニ非ス而モ前非ヲ悔悟シ改悛シ居リテ被害者モ處罰ヲ欲セサル旨上申シ居リテ申告ノ内容タル事實モ輕微ノモノニシテ本件ハ客觀的ニ見ルモ主觀的ニ考察スルモ被告人ニ科刑ヲ加フルノ必要ヲ見サルモノトス左スレハ本件ハ刑法第七十三條ヲ適用シテ刑ノ免除ヲ爲スヘキヲ相當トス然ルニ原判決カ右法條ヲ適用セスシテ懲役二月ニ處シタルハ不法ニ右法條ヲ適用セサルモノト云フヘク又右刑ノ量定ハ全ク不當ノモノナリト謂フヘシ從テ此ノ點ニ於テ原判決ハ破毀セラルヘキモノト思料スト云フニ在レトモ

記錄ニ徵スレバ被告人ハ原判決ノ如ク田口權太郎外七名ニ對シ刑事ノ處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ虛偽ノ申告ヲ爲シタルモノニシテ而モ被告人ハ其ノ事件訴追前捜査官ニ對シ其ノ誣告ヲ自白シタルモノナレバ刑法第七十三條ニ所謂事件ノ裁判確定前自白シタルモノニ該當スルモノトス然レドモ同條ニ依リ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトハ一ニ原審ノ自由裁量ニ任セラレタルモノナレバ原審カ其ノ犯情ニ鑑ミ減輕又ハ免除ヲ爲ササレバトテ之ヲ違法ナリト謂フヲ得ズ而シテ減輕又ハ免除ヲ爲サザル以上同條ノ適用アルヘキコトヲ判示スルノ要ナケレバ論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
 檢事村上常太郎關與

○強盜殺人死體遺棄被告事件 (昭和十三年(れ)第六〇五號 同年六月十七日第三刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 矢尾 延 市 辯護人 (塚崎直義 島内龍起)
 【第一審】 安濃津地方裁判所 【第二審】 名古屋控訴院

○判示事項

殺人罪ト死體遺棄罪

○判決要旨

人ヲ殺害シタル後罪迹掩蔽ノ目的ヲ以テ死體ヲ其ノ儘地中ニ埋メ又ハ之ヲ支解折割スルトキハ殺人ノ罪ト死體遺棄又ハ損壞罪トノ併合關係ヲ生スルモノトス

【參照】 刑法第九十條 死體、遺骨、遺髮又ハ棺内ニ藏置シタル物ヲ損壞、遺棄又ハ領得
 殺人罪ト死體遺棄罪

シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス
 同法第九十九條 人ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ三年以上ノ懲役ニ處ス
 同法第二百四十條 強盗人ヲ傷シタルトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處ス死ニ致
 シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス
 同法第五十四條 一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸レ又ハ犯罪ノ手段若クハ結果タ
 ル行爲ニシテ他ノ罪名ニ觸レルトキハ其最モ重キ刑ヲ以テ處斷ス
 第四十九條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ死刑ニ處ス押收ニ係ル證第四號ノスコツ
 プ一挺ハ之ヲ沒收ス訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ
 被告人ハ豫テヨリ肩書住居ニ於テ司法代書人(其ノ後名稱ヲ司法書士ト變更セラル)ノ業務ニ從事シ來レルモノナル
 トコロ昭和八年頃ヨリ當時同市立町ニ居住セル芝原かと(慶應二年生)ヨリ同人ト其ノ粹宗次郎間ノ訴訟事件ニ關シ
 書類ノ代書ヲ依頼セラレ茲ニ同女ヲ知ルニ至リタルカ同家ハ右母子二人家族ナルモ宗次郎カ所謂不肖ノ子ニシテ親子
 間ノ折合惡シク到底同棲ニ堪ヘ難ク而モ附近ニハ信賴スヘキ近親者モ存セサルヲ以テ右かとハ寧ロ其ノ所有ノ家屋並
 宅地ヲ賣却處分シ他所ニ轉住センコトヲ企圖シ被告人ニ對シ之カ相談ヲ爲シタルヨリ被告人ハ昭和九年九月頃右かと
 所有ノ不動産ヲ八千餘圓ニ賣却ノ周旋ヲ爲シタル上自宅ノ娘婿ニ當ル和歌山市北田邊町ニ居住スル熊本清造ニ其ノ
 世話方ヲ依頼シ同月下旬頃かとヲ私ニ同市ニ向ケ出發セシメタルカ其ノ際かとニ於テ右賣上金中金三千五百圓ノミヲ
 持參スルコトトシ其ノ殘額金中諸雜費ヲ控除シタル殘約金四千三百七十圓ハ被告人ニ保管ヲ託シ置キタルトコロ被告

人ハかとノ不在中即チ其ノ後約一年間内ニ於テ右受託金中大部分ヲ自己ノ遊興費ニ費消シタルヨリ之カ發覺ヲ虞レ昭
 和十年十月上旬前記宗次郎カ津市内ニ於テ死亡シタルニ拘ラス其ノ事實ヲモ故ラかとニ知ラシメス其ノ歸郷ヲ阻止シ
 居リタル折柄同月二十二日偶かとカ約一年振ニテ津市ニ歸來シ被告人ノ前記居宅ニ宿泊スルニ至リタルヨリ被告人ハ
 早晚右受託金費消ノ事實發覺スルモノト考ヘ焦慮スル内翌二十三日夜ハかとニ於テ被告人宅ニ階表六疊座敷ニ被告人
 モ亦同二階裏八疊室ニ各就寢シタルカ就寢後被告人ハ右かとハ尙二千圓位ノ現金ヲ所持シ來リ居ルモノト察知シ又若
 シ同女カ死亡セハ自己カ未タ費消セスシテ 現在尙保管中ノ一部受託金ノ返還ハ勿論既ニ費消シタル受託金ノ辨濟ヲ免
 レ得ルノミナラス更ニ同女ノ右所持金等ヲモ容易ニ獲得シ得ヘシト思惟シ茲ニ同女ヲ殺害シテ所持ノ金品ヲ強奪シ併
 セテ右費消金ノ辨濟並受託金ノ返還ヲ免レンコトヲ決意シ同夜半ナル翌二十四日午前一時頃前記かとノ寢室ニ赴キ折
 柄熟睡中ノ同女ニ對シ突如右手ヲ其ノ咽喉部ニ當テ左手ヲ其ノ後頸部ニ當テ前後ヨリ兩手ヲ以テ數分間該部分ヲ 交扼
 強壓シ因テ間モ無ク同女ヲ窒息死ニ致シテ之ヲ殺害シ以テ債權者タル同女ヲシテ前記寄託金ノ返還並寄託費消金ノ辨
 濟ノ各請求ヲ不能ナラシメテ因テ以テ財産上不法ノ利益ヲ得次テ一旦自己ノ寢床ニ戻リタルモ同女カ蘇生センコトヲ
 慮リ同日午前三時前後頃再ヒかとノ寢室ニ赴キ其ノ絶命セルヲ確カメタル上其ノ場ニ於テ同女所持ノ現金二千二百六
 十一圓五十錢(證第六號)百圓紙幣十四枚十圓紙幣五枚ハ其ノ一部)加藤とよ名義預金殘高五十圓存スルかとノ郵便
 貯金通帳一冊(證第三十三號)ヲ強奪シ更ニ後記ノ如ク右かとノ死體ヲ階下ニ運搬セントスルニ際シ同女ノ指ニ箆メ
 居リタル金指輪(證第十一號)ヲ強取シタル上箆上ノ犯跡ヲ蔽ハシカ爲同日午後一、二時頃スコツプ(證第四號)ヲ
 用ヒ自宅裏物置地中ニ深サ約二尺縱橫凡ソ二、三尺ノ穴ヲ掘リかとノ死體ヲ二階ヨリ運ヒ下シテ該穴ニ埋沒シ以テ之
 ヲ遺棄シタルモノナリ
 法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中強盜殺人ノ點ハ刑法第二百四十條後段ニ死體遺棄ノ點ハ同法第九十條ニ各該當シ

右ハ同法第四十五條前段ノ併合罪ナルトコロ強盜殺人罪ニ付テハ所定刑中死刑ヲ選擇スルヲ相當ト認メ同法第四十六條第一項本文ヲ適用シテ他ノ主刑ヲ科セス被告人ヲ死刑ニ處スヘク押收ニ係ル證第四號ノスコツブ一挺ハ本件死體遺棄ノ犯行ノ用ニ供シタル物ニシテ被告人以外ノ者ニ屬セサルヲ以テ同法第四十九條第一項第十九條第一項第二號第二項ニ從ヒ之ヲ沒收スヘク訴訟費用ハ同法第二百三十七條第一項ニ則リ被告人ヲシテ其ノ全部ヲ負擔セシムヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人塚崎直義、島内龍起上告趣意書第一點(第九十條適用ノ當否)原審ハ被告人カ殺人ノ犯跡ヲ蔽ハンカ爲ニ芝原かとノ死體ヲ地中ニ埋没シタリトノ事實ニ付死體遺棄罪トシテノ刑責ヲ問ヒタルモ右ハ單ニ強盜殺人罪ノ外死體遺棄罪ヲ構成スヘキモノニアラスト思料ス理由左ノ如シ(イ)殺人ノ刑責中ニハ死體遺棄ノ事實ヲ豫定ス凡ソ殺人ハ人ノ生命ニ對スル攻撃ナリ人ノ生命ニ對スル攻撃ハ即チ人ノ身體ニ對スル攻撃ニ外ナラス仍テ殺人ハ人ノ身體ニ對スル攻撃ニ外ナラサレハ殺人ト傷害トハ分量ノ相違ニシテ性質ノ相違ニアラス此ノ故ニ殺人ノ前階段タル傷害ハ傷害罪トシテノ問責ヲ受クルコトナシ殺人ノ刑責中ニハ傷害ノ事實ヲ豫定スレハナリ右ノ理ハ殺人ト死體遺棄(損壞)トノ關係ニ付亦同様ナリ死體遺棄(損壞)ハ人ノ身體ニ對スル攻撃タルコトニ於テ殺人ト其ノ性質ヲ同フス殺人

カ人ノ生命即チ身體ヲ滅亡セシムルノ犯罪ナルニ於テモ死體遺棄(損壞)ハ殺人ヲ頂點トシテ低次ノ價値ヲ有スル後行段階タルノミ故ニ殺人ノ刑責中ニハ死體遺棄(損壞)ノ事實ヲ豫定スルモノトコトヲ得(ロ)御院ハ嘗テ「殺人罪ハ生命ナル個人的法益ニ對スル犯罪ナルニ反シ死體遺棄罪ハ死體ニ對スル一般宗教的感情ヲ害スル公益犯罪ニシテ二者其ノ性質ヲ異ニスルモノナルカ故ニ人ヲ殺害シタル上死體ヲ雜木林ノ裡ニ隱匿シタルカ如キニ至リテハ殺人罪ノ外ニ死體遺棄罪ヲ構成ス」ト判示セラレタルカ如シ然レトモ(其ノ一)殺人罪ハ一面ニ於テ生命ナル個人的法益ニ對スル犯罪ナリト云フコトヲ得ヘキモ他面ニ於テ殺人罪ハ社會ノ安寧秩序ヲ脅カス重大ナル公益犯罪タルコト疑ナシ其ノ公益犯罪トシテノ重大サニ至リテハ單ナル宗教的感情ヲ害スル犯罪ノ比ニアラス(其ノ二)死體遺棄罪ハ死體ニ對スル一般宗教的感情ヲ害スル犯罪ナレトモ死體ニ對スル畏敬ハ結局死者ニ對スル畏敬ニ外ナラス死者ニ對スル畏敬ハ結局生前ノ人ニ對スル畏敬ノ繼續ニ外ナラス殺人ハ人ニ對スル畏敬ノ念ノ全面的否定ナリ此ノ意味ニ於テ殺人ト死體遺棄罪トハ其ノ本質ヲ異ニスルモノニアラス然ラハ畏敬ノ念ヲ全面的ニ否定シタルニ付刑責ヲ負フ者ニ對シ更ニ畏敬ノ念ヲ一部否定シタリトテ其ノ責任ヲ追加セントスルハ心得難シ(ハ)殺人犯人死體ヲ遺棄スルハ放任行爲ナリ凡ソ自宅内ニ於テ人ヲ殺害シタル場合犯人ハ其ノ死體ヲ現狀ノ儘居室内ニ安置シ若ハ更ニ葬式ヲ行フコトヲ得ルモノナリヤ犯人逃亡若クハ自首セサル限り不可能ナルヘシ而シテ法ハ逃亡若クハ自首ヲ義務トシテ犯人ニ強要スルコトナ

シ此ノ點ヨリ推及スルトキハ犯人死體ヲ現狀ノ儘居宅内ニ安置シ若クハ葬式ヲ行フコトハ法律カ義務トシテ犯人ニ要求スルトコロニアラサルヲ知ル故ニ犯人其ノ死體ヲ移轉シ之ヲ他ニ放置スルコトハ權利行爲ニハアラストスレハ之ヲ放任行爲ト解セサルヘカラス仍テ殺人犯人犯跡ヲ蔽ハシカ爲ニ死體ヲ遺棄スルモ罪トナラス(ニ)殺人犯人ニ死體ヲ遺棄スヘカラスト期待スルコト不可能ナリ居宅内ニ於ケル殺人犯人ニ對シ死體ヲ現場ノ儘居宅内ニ安置スヘシ又ハ葬式ヲ行フヘシ死體ヲ現場座敷ヨリ他ニ移スヘカラストスルハ難キヲ求ムルニ似タリ法ハ不能ヲ以テ責メス此ノ意味ニ於テ殺人犯人死體ヲ遺棄スル行爲ニ付テハ刑責ヲ問フヘカラサルモノト解セラル(ホ)刑罰權衡ノ問題殺人後犯跡ヲ蔽ハシカ爲ニ被殺者ノ死體ヲ地中ニ埋没シタル場合殺人罪ノ外死體遺棄罪ヲ構成スルモノトスレハ(其ノ一)殺人ノ目的ヲ以テ海上遠泳中ノ人ヲ殺害スル場合ノ擬律如何死體ノ海中ニ漂流スルコトニ付認識アルヘキコト疑ナカルヘシ然レトモ此ノ場合殺人罪ノ外ニ死體遺棄罪ヲ以テ問擬スルコトヲ得ヘキヤ死體遺棄罪成立セストスレハ當初ノ事例ニ比較シ刑罰ノ權衡實際問題トシテ甚タ不當ニアラスヤ(其ノ二)或ハ又殺人ノ目的ヲ以テ人ヲ熔鑪爐中ニ突落シタル場合ノ擬律如何死體ノ燒棄セラルルコトニ付認識アルヘキコト當然ナリ然レトモ此ノ場合殺人罪ノ外ニ死體遺棄罪ヲ以テ問擬スルコトヲ得ヘキヤ尤モ右二例ノ場合ト當初ノ事例トハ法條ノ適用上不平衡ノ發生當然ニシテ止ムヲ得ストノ論アランモ斯ノ如キ不平衡ハ寧ロ死體遺棄罪ノ構成ヲ否定スルコトニヨリ救済シ得ルニアラスヤト云フニ在レ

トモ

【要旨】

殺人罪ト死體遺棄罪トハ、一ガ生命ナル個人的法益ニ對スル私益罪タルニ反シ、他ガ死體ニ對スル一般宗教的感情ヲ害スル公益罪ニシテ、其ノ性質ヲ異ニスルモノナルコトハ本院判例ノ屢次繰返シ來リタル所ナリトス。サレバ人ヲ殺害シテ死體ヲ其ノ儘ニ放置スルガ如キ場合ハ、所論ノ如ク期待不可能性ノ理ヲ以テ之ヲ不問ニ付スベキニ似タリト雖モ、犯罪掩蔽ノ目的ヲ以テ死體ヲ其ノ儘地中深く埋没シ又ハ之ヲ支解折割スルガ如キニ至リテハ、吾人ノ宗教的信念ヲ甚ク傷クルモノト謂フベク、之ヲ死體遺棄又ハ損壞ノ別個ノ犯罪ニ問フモ、毫モ國民感想ニ背馳セザル所ナルノミナラズ祖先ヲ崇敬シ祭祀ヲ尊重スル我が國古有ノ淳風美俗ノ上ヨリセバ寧ロ之ヲ要求スルモノト謂ハサルベカラズ。蓋シ本院判例ガ夙ニ殺人ニ續ク死體遺棄又ハ損壞ヲ不問ニ付スベカラズト爲ス所以モ亦此ノ點ニ存スルナルベシ。然ラバ原判決ガ本件ニ付被告人ニ強盜殺人ノ外、死體遺棄罪ノ成立ヲ認メ之ヲ各法條ニ問擬シタルハ相當ニシテ毫モ所論ノ如キ違法アルモノト謂フベカラズ。論旨ハ理由ナシ。

第二點(第四十五條適用ノ當否)原審ハ強盜殺人罪ト死體遺棄罪トヲ併合罪トシテ處斷シタリ人ヲ殺害シタル上犯跡ヲ蔽ハシカ爲ニ死體ヲ地中ニ埋没スル行爲カ殺人罪ノ外尙死體遺棄罪ヲ構成スルモノトスルモ右ハ寧ロ牽連犯トシテ處斷スヘキモノニハアラサルカ法典カ併合罪ニ關スル規定ノ外牽連犯連續犯等ニ付規定ヲ設ケタルハ刑罰ノ權衡ヲ保持セントスルノ考慮ニ出ツ即チ或行爲カ法條ノ適用ニ際シ數個ノ處罰規定(異質的若クハ同質的)ニ該當スル場合常ニ之ヲ數個ノ犯罪ナリトシテ刑ヲ併科シ又ハ刑ヲ加重スヘシトスルハ社會觀念上穩當ヲ缺ク場合アリ詳言スレハ

殺人罪ト死體遺棄罪

(其ノ一) 技術的ナル法典ノ形式的擬律ニ從フモ社會的評價ニ從フモ齊シク數個ノ犯罪ナリト思料セラルル場合アリ之併合罪ニシテ原則トシテ刑ヲ併科シ又ハ刑ヲ加重セラルヘシ(其ノ二) 技術的ナル法典ノ形式的擬律ニ從ヘハ數個ノ犯罪ナリトノ結果ヲ得ルモ之ヲ實質的ナル社會的評價ニ照ストキハ單ニ一個ノ犯罪ナリトシテ處遇スヘキヲ妥當トスル場合アリ之牽連犯連續犯ニ關スル規定ヲ生スル理由ニシテ要ハ技術的ナル法典ノ形式的擬律ニヨル科刑ノ過重ヲ實質的ナル價值判斷ヲ以テ匡正セントスルノ考慮ニ基ク法典ニ「犯罪ノ手段若クハ結果タル行爲ニシテ他ノ罪名ニ觸ルルトキハ其ノ最モ重キ刑ヲ以テ處斷ス」ト言ヒ御院カ「刑法第五十四條ニ規定スル手段結果ノ關係ハ之ヲ抽象的ニ觀察シ或ル種ノ罪ハ他ノ種ノ罪ノ一般ノ手段又ハ結果タリ得ルヤ否ヤヲ標準トシテ之ヲ定ムヘキモノ」ト判定セラレ又「刑法第五十四條第一項後段ニ所謂犯罪ノ手段タル行爲トハ或ル犯罪ノ構成要素ニ屬セスシテ而モ行爲ノ性質上普通ニ其ノ犯罪ノ實行手段トシテ用キラルルモノヲ指摘ス」ト判示セラレタル根本趣旨ハ前敘私見ニ異ナル所ナカルヘシト思料ス故ニ「犯罪ノ手段若クハ結果タル行爲」トハ或犯罪ノ實行ニ關聯シ其ノ犯罪ノ前行若クハ後行行爲ニシテ或犯罪ヲ實行シ又ハ實行セントスル限リ社會通念上其ノ發生止ムヲ得サルヘキ關係ニ在リテ之ヲ數個ノ犯罪トシテ各別ニ處罰スルコトハ甚シク不當ナリト思料セラルヘキ場合ヲ指シタルモノト解ス又犯人ノ主觀ニ於テ手段結果ノ關係ヲ以テ相牽連セシメタルコトハ要件ニアラサルヘシ蓋シ牽連犯ニ於ケル手段結果ノ牽連ハ前行行爲ト後行行爲トノ間ニ存スル社會通念上一アレハ他ノ現出止ムヲ得サルヘシトノ客觀的關係ニシテ主觀的關係ニアラサレハナリ尙社會通念上彼アレハ此ノ現出スルコト止ムヲ得サルヘキ關係ト云フ以上ハ其ノ關係ノ認定ハ具體的ナルヘク抽象的ナルヘカラス此ノ見地ニ立ツトキハ或一定種類ノ犯罪ト他ノ一定種類ノ犯罪トノ間ニハ常ニ牽連犯タルノ關係アリト云フコトハ否定セサルヘカラサルニ至ルヘシ要之牽連犯ノ認定ハ正當防衛事由ノ認定ノ如ク具體的個別的ノモノナラサルヘカラスト思料セラル轉シテ本件事案ハ被告人ハ自宅内ニ於テ芝原かとヲ殺害シテ其ノ所持ノ金品ヲ強取シタル上死體ヲ

地中ニ埋没シタリト云フニ在ルヲ以テ法條ノ適用ニ付強盜殺人罪ノ外死體遺棄罪ヲ構成スルモノト假定スルモ強盜殺人罪ト死體遺棄罪トハ之ヲ牽連犯トシテ處斷スルヲ正當ナリト信ス蓋シ自宅内ニ於テ人ヲ殺シタル者死體ヲ他ニ移シ之ヲ遺棄スルハ人情ノ止ムヲ得サルコト死體ヲ現狀ノ儘居宅内ニ安置スヘシ又ハ葬式ヲ行フヘシト要求スルハ不能ヲ以テ人ヲ責ムルモノト言フヘシ即チ社會的評價ニ從ヘハ死體遺棄ハ居宅内ニ行ハレタル殺人ノ不可避の結果ニシテ殺人行爲トハ連續不可分ノ關係ニ在リ實質的ニ之ヲ觀察スルトキハ死體遺棄ハ寧ろ殺人行爲ニ包含セラレタル一結果ナリト見ルコトヲ得ヘシ然ラハ本件強盜殺人ト死體遺棄トハ牽連犯ニシテ併合罪ニアラス仍テ之ヲ併合罪トシタル原審判決ハ違法ナリト信ス尙刑罰權衡上ノ問題トシテモ之ヲ牽連犯ト觀ルヲ妥當トスルコト上告理由第一點(ホ)ノ事例御參照ト云フニ在レトモ

本院判例特ニ明治四十二年十二月二十日ノ判決ガ牽連犯ヲ解シテ「刑法第五十四條ニ所謂犯罪ノ手段トハ或犯罪ノ性質上其ノ手段トシテ普通ニ用ヒラルベキ行爲ヲ謂ヒ、又犯罪ノ結果トハ或犯罪ヨリ生ズル當然ノ結果ヲ指シタルモノト爲シタル以來、之ヲ判例トシテ遵守シ來レルコト所論ノ如クナルヲ以テ、苟クモ二個以上ノ行爲ノ間ニ客觀的ニ手段又ハ結果ノ關係ダニ存スルニ於テハ、牽連犯ノ成立ヲ認メ得ルガ如シ。然レドモ、抑々現行法ガ牽連犯ヲ規定スルニ至リタル立法理由ハ罪數論ニ於ケル行爲標準說乃至結果標準說ヲ以テスレバ當然數罪ト解セラルベキモノヲ、特ニ行爲者ノ犯意ノ點ニ顧ミテ之ヲ一罪トシテ取扱ハシムルノ趣旨ニ出デタルモノト解スベキガ故ニ、其ノ所謂「手段トシテ普通ニ用ヒラレ」又ハ「犯罪ヨリ生ズル當然ノ結果」ナル語裡ニハ、行爲者ニ於テ手段又ハ結果トシテ牽連セシムルノ意思アルコトヲ豫定セルモノト解スルヲ相當トス。現ニ明治四十二年十二月二十日ノ判決ガ「數個ノ犯罪ガ手段結果ノ關係アリヤ否ヲ判定スルニハ單ニ犯人ノ意思ノミヲ標準トナスベキモノニ非ズ」ト曰ヘルガ如キ、之ヲ證シテ餘アリ。果シテ然ラバ、殺人罪ニ續ク死體遺棄罪ヲ不問ニ付スベカラザルモノナルコト、前第一點說示ノ如クナ

ルノミナラズ、假ニ此等二罪ガ客觀的ニ手段又ハ結果トシテ牽連性ヲ有スルモノナリトスルモ、被告人ニ於テ此等二罪ヲ當初ヨリ相牽連セシムル意思アリタルコトヲ認メ難キ本件ノ如キニ在リテハ、強盜殺人及死體遺棄ノ二罪ノ成立ヲ認メ、之ヲ刑法第四十五條前段ノ併合罪ヲ以テ間擬スルハ當然ノ事理ニシテ、此ノ措置ニ出デタル原判決ニハ毫モ所論ノ如キ違法アルヲ認メズ。論旨ハ理由ナシ。(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事村上常太郎關與

○虚偽診断書作成被告事件(昭和十三年(九)第六二二號 棄却)

(同年六月十八日第五刑事部判決)

【上告人】 被告人 山崎 隆利 辯護人 土屋忠右衛門

【第一審】 松戸區裁判所 【第二審】 千葉地方裁判所

○判示事項

死亡日時ト死亡診断書ノ虚偽記載

○判決要旨

醫師公務所ニ提出スヘキ死亡診断書ニ故意ニ不實ノ記載ヲ爲シタルトキハ其ノ記載事項力死亡日時ニ關スル場合ニ於テモ刑法第六十條ノ罪ヲ構成スルモノトス

【参照】 刑法第六十條 醫師公務所ニ提出ス可キ診断書、檢案書又ハ死亡證書ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金十圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ一圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

第一 被告人山崎隆利ハ醫師ナル處肩書住居ニ於テ昭和十二年九月四日午後五時半頃後記ノ如ク被告人渡邊ヨリ懇請サレ同人カ松戸警察署流山第二駐在所ニ提出スヘキ同人ノ長男渡邊三郎ノ死亡診断書(昭和十三年領第四號)ヲ作成スルニ際リ右三郎ノ死亡日時カ同年九月四日午後三時三十分ナルコトヲ知悉シ居リタルニ拘ラス故ラ死亡年月日時ヲ昭和十二年九月三日午後三時三十分ト記載シタル死亡診断書ノ原稿ヲ作成シ父山崎宇吉ヲシテ該原稿ニ基キ死亡診断書ヲ清書セシメ自己名下ニ自ラ捺印シ以テ公務所ニ提出スヘキ死亡診断書ニ虚偽ノ記載ヲ爲シ

第二 被告人渡邊二郎ハ其ノ長男三郎(昭和十二年九月二日生)カ昭和十二年九月四日午後三時半ニ死亡シタルカ翌五日ハ居村民ニ於テ葬式ヲ嫌忌スル所謂友引日ニ當リ又六日以後ニ葬儀ヲ爲ストキハ死體ノ腐爛スルニ至ルヘキヲ死亡日時ト死亡診断書ノ虚偽記載

虞レ死亡當日中ニ三郎ヲ葬送セント企テ同日午後五時半頃被告人山崎隆利方ニ到リ同人ニ對シ前記事情ヲ打開ケ四日ニ三郎ノ葬式ヲ爲シ得ル如キ死亡診斷書ヲ作成サレタキ旨懇請シ其ノ際同人ノ妻ヨリ受取リタル死亡診斷書(昭和十三年領第四號)カ前記ノ如ク被告人山崎ニ於テ虚偽ノ記載ヲ爲シタルモノナルコトヲ知悉シ乍ラ其ノ情ヲ秘シテ同日松戸警察署流山第二駐在所巡査押田俊ニ之ヲ提出行使シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人山崎隆利ノ判示所爲ハ刑法第六十條ニ該當スルヲ以テ所定刑中罰金刑ヲ選擇處斷スヘク尙犯罪ノ情狀洵ニ憫諒スヘキモノアルヲ以テ同法第六十六條第七十一條第六十八條第四號ニ從ヒ酌量減輕ヲ爲シタル罰金額範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金十圓ニ處シ同法第十八條ニ則リ右罰金不完納ノ場合ニ於ケル勞役場留置ノ期間ヲ定ムヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人土屋忠右衛門上告趣意書第一點原判決ハ被告人カ渡邊三郎ノ死亡診斷書ヲ作成スルニ際シ同人家昭和十二年九月四日午後三時三十分死亡シタルニ拘ラス故ラニ昭和十二年九月三日午後三時三十分死亡シタル旨記載シ以テ虚偽ノ死亡診斷書ヲ作成シタルモノナリト認定シ之ニ刑法第六十條ヲ適用シタリ然レトモ同條ノ適用ヲ受クヘキ虚偽診斷書タルニハ診斷カ故ラニ虚偽ニ表示セラルルコトヲ要ス即死因タル病名ヲ偽リ他殺ヲ自殺トシ他殺又ハ自殺ヲ自然轉歸ノ死亡トシ若ハ病名ノ如何ヲ問ハス

健康者ヲ非健康者トスル如ク診斷ノ内容其ノモノニ虚偽ノ記載アル場合ナリ而シテ死亡ノ日時ノ如キハ死亡診斷ノ内容ヲ形成スルモノニ非スシテ臨床中ノ死亡以外ハ皆看護者ノ報告ヲ聞クニ過キサレモノナルカ故ニ其ノ記載カ眞實ニ符合セサルコトアルモ同條ヲ適用スヘキ限ニ非ス單ニ死亡日時ノ記載相違ニ止マル場合ハ警察犯處罰令第二條第二十一號ニ規定スル所ノ官公署ニ對シ不實ノ申述ヲ爲シタルモノニ該當スルモノトス故ニ假ニ原判示ノ如キ事實トスレハ被告人ハ勾留又ハ科料ノ刑ハ之ヲ免ルルヲ得スト雖之ニ對シテ刑法第六十條ヲ適用シタルハ失當ニシテ原判決ハ法律ノ解釋適用ヲ誤リタル違法アルモノニシテ破毀セラルヘキモノト思料スト謂ヒ「第二點原判決ハ被告人及渡邊二郎カ檢事廷ニ於ケル聽取書ノ記載ヲ採用シテ被告人ノ有罪事實ヲ認定シタリ然レトモ警察及檢事廷ニ於ケル聽取書ノ記載ハ被告人ノ眞意ニ反スル供述ニシテ公訴事實認定ノ資料ト爲スニ足ラサルモノトス本件眞相ハ被告人ノ用務多忙中ニ渡邊二郎ヨリ三郎ノ死亡診斷書作成ヲ依頼セラレタル爲藥包紙ニ鉛筆ニテ要項ヲ記載シ被告人ノ妻秀子ヲシテ被告人ノ父山崎宇吉ニ清書ヲ依頼セシメ清書後秀子ハ之ニ捺印シテ直チニ渡邊二郎ニ手交シタルモノニシテ其ノ要項中死亡日ノ下ヘ昭和十二年九月四日午後三時三十分ト記載スルニ當リ九月四日ノ四ノ字ト午後三時三十分ノ上ノ三ノ字ト横ニ竝ヒタル爲父宇吉カ清書ニ際シ五十四歳ノ老年ナル爲左右見紛ラシテ日ノ方ニ三ヲ書キ死亡日九月三日ノ診斷書カ出來タルモノナルヘシト云フニ在リトス然ルニ被告人ハ警察及檢事廷ニテハ清書後自分カ目ヲ通サスシテ交付シ

死亡日時ト死亡診斷書ノ虚偽記載

タトシテハ父ヤ妻カ罪人ニナルト言ハレタル爲已ムヲ得ス被告人カ無實ノ罪ヲ負フ心算ニテ聽取書記載ノ如ク申立テタリト云フニ在ルカ故ニ眞實ヲ陳述シタルモノニ非ス此ノ事タルヤ原審ニ於ケル被告人及證人渡邊房次郎ノ供述第一審證人岡本銀之助山崎秀子山崎宇吉ノ供述竝ニ原審ニテ辯護人ヨリ提出シテ記録ニ添付シアル所ノ藥包紙記載診斷書要項ノ草稿模本ヲ對照通覽スレハ自ラ明カナリトス殊ニ三寸二分角ノ藥包紙一枚ニ鉛筆ニテ要項全部ヲ記載シタル有様ヲ見ルニ紙面狹キ爲文字小サク且鉛筆故明瞭ヲ缺ク嫌アリテ五十四歳ノ老人ナル父宇吉カ三ノ字ト四ノ字トノ竝ヘアルヲ見誤リテ彼此誤寫シタルコトヲ首肯スルニ十分ナリトス又死後二十四時間以上ヲ經過シタル屍體ハ死後強直解ケテ柔軟ニ返リ死斑生シ死後數時間ノ屍體カ強直アリテ死斑ナキニ比較シテ檢視ノ經驗アル者ニハ彼此ノ差一目瞭然ニシテ到底之ヲ滿過シ得ルモノニ非ス殊ニ被告人ハ醫師ナリ如何ニ愚昧輕卒ナリトスルモ該診斷書カ駐在所巡査ニ提出セラレ屍體ヲ巡査カ檢視スルモノナルコトヲ知リナカラ自己ノ地位名譽ヲ賭シテ不能ナル欺瞞ヲ企ツル筈ナシ更ニ又本件診斷書ハ渡邊二郎カ前日一旦駐在所巡査ニ差出シテ拒マレテ持歸リ自宅机ノ抽斗ニ入レ置キタルヲ翌日二郎ノ不在中駐在所巡査カ自ら進ンテ二郎ノ父房次郎ヲシテ提出セシメタルモノニシテ強テ死灰ヲ再燃セシメタル觀アル事態ナルノミナラス意見書中ニモ「被告人ハ同業先輩ヲ凌駕シ人氣ヲ博セントノ政策下ニ敢行シタルモノ」トシテ偏頗ニ流レ被告人ニ對シ徒ラニ根據ナキ無實ノ誹謗ヲ加フルニ依テ觀ルモ亦以テ本件取調ノ經緯ヲ物語ルト共ニ被告人

カ公判ニ於テ警察檢事廷ト異ル供述ヲ爲スハ不當ニ罪責ヲ免レントスル陋劣ナル心情ヨリ出ツルニ非サルコトヲ推知スルニ足ルモノト思料ス被告人ハ岩手醫學專門學校在學中ハ模範生トシテ代表トナリ卒業後母校ヨリ教授候補トシテ囑目セラレ目下ハ博士論文執筆中ニシテ人ト爲リ濃厚ニシテ酒ヲ飲ム能ハス煙草ヲ嗜マス學ト業トノミニ專念シテ社交ニ拙ナル爲此ノ災ヲ招キタリト謂フモ過言ニ非サル有様ナリ之ヲ要スルニ原判決ハ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルモノナルヲ以テ破毀セラレヘキモノト思料スト謂ヒ」同追加上告趣意書第三點原判決ハ本件診斷書カ松戸警察署流山第二駐在所ニ提出スヘキモノナリト認定シタリ依テ明治三十一年十月二十六日千葉縣令第五十號死産又ハ生産兒死亡届出ノ件ヲ見ルニ「死産又ハ生産兒生誕後三ヶ月以内ニ死亡シタル者アルトキハ埋火葬前警察官署ニ届出ツヘシ」トアルノミニシテ死亡診斷書ヲ提出スヘキコトヲ規定セスシテ單ニ届出ツヘキコトヲ命スルニ過キス從テ其ノ届出ハ口頭又ハ書面何レヲ以テスルモ可ナル趣旨ニシテ現ニ口頭ニテ届出ツルヲ多シトス口頭届出ニ際シテ死亡診斷書ヲ示スコトアルモツハ口頭供述ヲ補フカ又ハ警察官カ口頭供述ヲ確ムル爲ニ之カ一覽ヲ求ムルニ由ルモノニシテ決シテ警察官ニ提出スル趣旨ニ非ス元來右届出ハ墮胎嬰兒殺ノ弊風ヲ防遏スル爲警察官ニ檢視ノ機會ヲ與フルヲ目的トスルモノナルヲ以テ單ニ縣令該當死亡者アルコトヲ遲滞ナク届出ツレハ足ルハ當然ノコトナリトス故ニ本件診斷書ハ警察官署ニ提出スヘキモノニ非サルニ拘ラス原判決ニ於テ警察官ノ證言ヲ採用シテ警察官

署ニ提出スヘキモノナリト認定シ刑法第六十條ヲ適用シタルハ法令ノ解釋適用ヲ誤リタルモノニシテ破毀セララルヘキモノト思料スト謂フニ在リ

仍テ案スルニ原判示事實ハ原判決擧示ノ證據ニ依リテ優ニ之ヲ證明スルニ足り所論診斷書カ警察官署ニ提出セララルヘキモノナル事實モ固ヨリ之ヲ認ムルニ十分ニシテ又所論被告人ノ供述カ所論ノ如キ事情ニ因ル眞實ニ反スルモノナル事實ハ之ヲ肯定スヘキ證據アルコトナク記錄ヲ精査檢討スルモ原判決ニ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フヘキ顯著ナル事由アルヲ見ス而シテ刑法第六十條ハ公務所ニ提出スヘキ診斷書死亡證書等ニ醫師カ故意ニ虛偽ノ記載ヲ爲シタル行爲ヲ處罰スル事ヲ規定シ因テ以テ人ノ疾病死亡等ニ關スル虛偽ノ記載ヲ禁止セントスル趣旨ニシテ其ノ虛偽ノ記載ニハ事實ニ關スルト判斷ニ關スルトヲ問ハス汎ク其ノ記載事項ノ不實ナルモノヲ包含スルモノナルカ故ニ苟モ醫師ニシテ故意ニ前示診斷書等ニ不實ノ記載ヲ爲シタルトキハ其ノ記載事項カ死亡ノ日時ニ關スル場合ニ於テモ同條ニ所謂虛偽ノ記載ヲ爲シタルモノニ該當スルモノニシテ之ヲ所論ノ如キ病名死因等ノ點ニ付不實ノ記載ヲ爲シタル場合ノミニ限局スヘキ理由アルコトナシ然リ而シテ原判示事實ニ依レハ被告人ハ醫師ナルトコロ判示日判示場所ニ於テ原審相被告人渡邊二郎ノ懇請ニ因リ同人カ判示警察署流山第二駐在所ニ提出スヘキ同人ノ長男三郎ノ死亡診斷書ヲ作成スルニ際リ其ノ死亡日時カ昭和十二年九月四日午後三時三十分ナルコトヲ知悉シナカラ故ラニ死亡日時ヲ同月三日午後三時三十分ト記載セル死亡

【要旨】

診斷書ノ原稿ヲ作成シ山崎宇吉ヲシテ之ヲ清書セシメ被告人名下ニ自ラ捺印シ以テ公務所ニ提出スヘキ死亡診斷書ニ虛偽ノ記載ヲ爲シタルモノナルカ故ニ被告人ノ所爲ハ原判決問擬ノ如ク前示刑法第六十條ノ罪ヲ構成スルコト明白ニシテ所論ノ如ク警察犯處罰令第二條第二十一號ヲ以テ律スヘキモノニ非サレハ原判決ハ洵ニ正當ニシテ所論ノ如ク法令ノ解釋適用ヲ誤リタル等ノ違法アルモノニアラス論旨孰レモ理由ナシ
以上ノ理由ニ據リ刑事訴訟法第四百四十六條ニ從ヒテ主文ノ通り判決ス
檢事三田勝關與

業務上横領横領被告事件 (昭和十三年(九)第六〇九號 棄却)

(昭和十三年六月二十日第二刑事部判決)

【上告人】 被告人 赤司 良一 辯護人

成富信夫 岩永金次郎 永原三郎 斐原三彦

共同被告人アル事件ノ證人ノ宣誓

○判示事項

共同被告人アル事件ノ證人ノ宣誓

○判決要旨

共同被告人アル事件ノ證人ト雖其ノ現ニ供述スヘキ事項カ一被告人單獨ノ公訴事實ニ限定セラレ他ノ共同被告人ノ公訴事實ニ關係ナキ場合ニ於テハ證人ノ宣誓ハ前者ニ對スル關係ニ於テ之ヲ爲スヲ以テ足ルモノトス

【參照】刑事訴訟法第八十六條 左ニ掲クル者ハ證言ヲ拒ムコトヲ得

一 被告人ノ配偶者、四親等内ノ血族若ハ三親等内ノ姻族又ハ被告人ト此等ノ親族關係アリタル者

二 被告人ノ後見人、後見監督人又ハ保佐人

三 被告人ヲ後見人、後見監督人又ハ保佐人ト爲ス者

共同被告人ノ一人又ハ數人ニ對シ前項ノ關係アル者ト雖他ノ共同被告人ノミニ關スル事項ニ付テハ證言ヲ拒ムコトヲ得ス

同法第九十五條 證人ニ對シテハ先ツ其ノ人違ナキカ否及第八十六條第一項ニ規定スル關係アル者ナリヤ否ヲ取調フヘシ

第八十六條第一項ニ規定スル關係アル者ニハ證言ヲ拒ムコトヲ得ル旨ヲ告グヘシ

同法第九十六條 證人ニハ宣誓ヲ爲サシムヘシ但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役一年六月ニ處ス但シ原審ニ於ケル未決勾留日數中二百六十日ヲ右本刑ニ算入ス訴訟費用中豫審ニ於ケル證人三好清、大隈松次、永沼勝、江頭惣一、古賀七三、平川謙次郎、大坪喜六、城野嘉四郎、中座勇作、平川榮、八谷松次、藤渡太市、西村文作、藤田茂十、江頭源作、雪肥後象、津留崎卯八、轟木九一郎、仁田藤太郎、鷺谷順辨、垣永廣次當審ニ於ケル證人八谷松次、森伊作ニ支給シタル分ハ被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ第一 大正十四年以來朝鮮忠清南道公州郡牛城面及同道扶餘郡窺岩面等ニ於テ水田ノ開發事業經營ノ目的ヲ以テ水利組合ノ設立ヲ發起シ自ラ其ノ委員長ト爲リテ組合員(地區内土地所有者)讓出ノ設立費ノ保管共ノ他組合設立ニ關スル事務一切ヲ擔當シ傍ラ單獨ニテ土地賣買周旋ノ業務ニモ從事シ居リタル者ナルトコロ

(一) 昭和四年四月頃ヨリ同年十一月頃ニ至ル迄ノ間平川榮、垣永大吉及八谷松次ノ三名ヨリ前示窺岩面所在ノ土地買入ノ周旋方ヲ依頼セラレテ之カ買入資金ノ交付ヲ受ケ業務上保管中内金六千四百圓ヲ其ノ頃擅ニ肩書自宅其ノ他ニ於テ自己ノ生活費並居村ニ於ケル豆津競馬場設置費等ニ費消横領シ

(二) 昭和六年七、八月頃前示窺岩面水利組合ノ組合員タル大坪喜六外數名ヨリ同組合設立費トシテ合計金二千五百圓ヲ共同被告人アル事件ノ證人ノ宣誓

百圓ノ交付ヲ受ケ業務上保管中内金二千圓ヲ其ノ頃擅ニ佐賀縣三養基郡上峰村青松寺ニ於テ同寺維持講會ニ對スル自己ノ債務ノ辨濟ニ充當シテ横領シ

第二 昭和五年十一月八日三好清外十四名ト共ニ連帶シテ古賀七三ヨリ前示親岩面所在金川ノ私設堤防築造費ニ充ツル爲借入レ其ノ共有ニ係ル金一萬圓ヲ自ラ保管中同日頃ヨリ同年末ニ至ル迄ノ間ニ擅ニ肩書自宅其ノ他ニ於テ自己ノ生活費並前示豆津競馬場設置費等ニ費消横領シ

第三 大正十二年五月頃ヨリ佐賀縣三養基郡鳥栖町大字藤木長福寺維持講會ノ擔當人トナリ更ニ同十三年頃以降前示青松寺維持講會ノ擔當人ヲモ兼ネ該講會ノ爲各講會ノ保管其ノ他講會事務一切ヲ處理シ居リタルモノナルトコロ

(一) 昭和二年頃ヨリ同三年二月頃迄ノ間數回ニ互リ前示長福寺維持講會ノ爲其ノ業務上保管ニ係ル當籤者後掛金預リ金及滿會拂戻積立金中ヨリ合計金七千四百四十三圓十二錢ヲ擅ニ前示牛城面等ニ於ケル土地買入並水利組合設立費等ニ費消横領シ

(二) 昭和六年八、九月頃ヨリ同七年頃迄ノ間數十回ニ互リ前示青松寺維持講會ノ爲前同様其ノ業務上保管ニ係ル當籤者後掛金預リ金及滿會拂戻積立金中ヨリ合計金一萬百三十一圓九十錢ヲ擅ニ肩書自宅其ノ他ニ於テ自己ノ生活費並前示豆津競馬場設置費等ニ費消横領シタルモノナリ

而シテ敍上被告人ノ所爲ハ犯意繼續ニ出テタルモノトス

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中業務上横領ノ點ハ各刑法第二百五十三條ニ單純横領ノ點ハ各同法第二百五十二條ニ該當スルトコロ以上ハ連續犯ナルヲ以テ同法第五十五條第十條ニ則リ結局重キ業務上横領ノ一罪トシ其ノ所定期刑範圍内ニ於テ主文ノ刑ヲ量定シ同法第二十一條ニ則リ原審ニ於ケル未決拘留日數中二百六十日ノ本刑通算ヲ爲シ訴訟費用中主文特記ノ各證人ニ支給シタル分ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ從ヒ被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス

ス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人成富信夫同岩永金次郎同永原三郎同甲斐熊彦上告趣意書第三點原判決ハ第一事實ノ證據トシテ「證人平川榮ニ對スル豫審訊問調書」ヲ援用シタリ然ルニ同豫審調書ヲ閱スルニ「被告人赤司良一ニ對スル詐欺業務横領背任被告事件ニ付昭和十一年五月二十一日佐賀地方裁判所ニ於テ豫審判事代理判事福原清賢ハ裁判所書記坂本善次立會ノ上右證人ニ對シ訊問スルコト左ノ如シ云々」〔記錄四五四〇丁〕ト記載シアリ豫審判事代理判事ハ右證人ニ對シ被告人赤司良一トノ關係ニ於テノミ宣誓セシメ訊問シタルモノニシテ右被告人ト共犯關係アリトシテ同時ニ起訴セラレタル中尾榮三郎トノ關係ニ於テ宣誓ヲ爲サシメシテ訊問シタルハ違法ニシテ右證人調書ハ無効ナリトス然ルニ之ヲ採テ本件斷罪ノ資料ニ供シタル原判決ハ探證ノ法則ニ違背シ破毀スヘキモノト信スト云フニアレトモ

【要旨】

共同被告人アル事件ノ證人トシテ訊問セラルル場合ニ證人ノ現ニ供述スヘキ事項カ乙被告人ト共犯關係ナキ甲被告人單獨ノ公訴事實ニ限定セル場合ニ於テハ甲被告人ニ對スル關係ニ於テ宣誓ヲ爲サシムルヲ以テ足り乙被告人ニ對スル關係ニ於テ之ヲ爲サシムルヲ要セス蓋シ敍上公訴事實ニ關スル限リ乙

共同被告人アル事件ノ證人ノ宣誓

被告人ノ之ト全然關係ナキモノナルカ故ニ刑事訴訟法第八十六條第八十八條第九十五條第九十六條第二百一條第二百二條等ノ規定ノ趣旨ニ徵スルモ乙被告人ニ對スル關係ニ於テ證人ノ身分關係ヲ調査シ宣誓ノ要否ヲ決スルカ如キハ全ク無用ノ手續ナルコト明カナレハナリ記録ヲ查スルニ證人平川榮ハ第一審相被告人中尾榮三郎ニ對スル公訴事實ト全然關係ナキ被告人赤司良一單獨ノ犯罪事實即チ豫審請求書第三事實ニ付テノ訊問ヲ受ケタルモノナルコト明白ナレハ同證人ニ對シ被告人赤司良一ニ對スル關係ニ於テ宣誓ヲ爲サシメタル以上第一審相被告人中尾榮三郎トノ關係ニ於テ宣誓ヲ爲サシメサリシトテ右證人訊問手續ニ違法アリト謂フヲ得ス從ツテ該證人訊問調書ヲ罪證ニ供スルモ所論違法ナク論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事正木亮關與

○異議申立却下決定ニ對スル抗告事件(昭和十三年(つ)第一一號 却下)

【抗告人】 異議申立人 徳野喜作

【原 審】 名古屋控訴院

○判示事項

恩赦令及減刑令ニ依ル檢事ノ判決原本附記ト刑事訴訟法第五百六十二條ノ異議

○決定要旨

恩赦令及減刑令ニ依リ刑ノ執行著手前檢事力變更セラレタル刑期ヲ確定判決原本ニ附記シ且其ノ通達ヲ爲シタルコトニ對シテハ刑事訴訟法第五百六十二條ノ異議申立ヲ許ササルモノトス

【參照】 恩赦令第六條 減刑ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ對シ勅令ヲ以テ罪若ハ刑ノ種類ヲ定メ之ヲ行ヒ又ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル特定ノ者ニ對シ之ヲ行フ

同法第十八條 大赦、特赦、減刑又ハ復權アリタルトキハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事ハ判決ノ原本ニ其ノ旨ヲ附記スヘシ

昭和十三年勅令第七十六號減刑令第一條 昭和十三年二月十一日前左ニ掲クル罪ニ因リ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ其ノ刑ノ執行前、執行猶豫中、執行中、執行恩赦令及減刑令ニ依ル檢事ノ判決原本附記ト刑事訴訟法第五百六十二條ノ異議

停止中又ハ假出獄中ノモノハ本令ニ依リ其ノ刑ヲ減輕ス但シ其ノ執行ヲ通ルル者ハ此ノ限ニ在ラス

一 刑法第七十七條乃至第七十九條ノ罪

二 刑法第九十五條及第九十六條ノ罪

三 刑法第百六條及第百七條ノ罪

四 陸軍刑法第二十五條、第二十六條及三十條ノ罪並ニ其ノ未遂罪及豫備又ハ陰謀ノ罪

五 陸軍刑法第百三條ノ罪

六 海軍刑法第二十條、第二十一條及第二十五條ノ罪並ニ其ノ未遂罪及豫備又ハ陰謀ノ罪

七 海軍刑法第百四條ノ罪

八 治安警察法違反ノ罪但シ風俗ニ關スルモノヲ除ク

九 新聞紙法違反ノ罪但シ風俗ニ關スルモノヲ除ク

十 出版法違反ノ罪但シ風俗ニ關スルモノヲ除ク

十一 諸願令違反ノ罪

十二 衆議院議員選舉法違反ノ罪及法令ヲ以テ組織シタル議會ノ議員ノ選舉ニ關シ同法ノ罰則ヲ準用スル法令違反ノ罪但シ衆議院議員選舉法第百十二條ノ罪及法令ヲ以テ組織シタル議會ノ議員ノ選舉ニ關シ同法條ヲ準用スル法令違反ノ罪ヲ除ク

十三 前號本文ニ掲クル罪ト性質ヲ同シクスル舊法ノ罪

十四 朝鮮、臺灣、關東州又ハ南洋群島ニ行ハルル法令ノ罪ニシテ第一號乃至第十一號及第十二號本文ニ掲クル罪ト性質ヲ同シクスルモノ

同第六條 有期ノ懲役又ハ禁錮ニ付テハ左ノ例ニ依リ刑期ヲ變更ス

一 刑ノ執行ヲ始メタル者ニ付テハ刑期ノ四分ノ一ヲ減ス

二 刑ノ執行ヲ始メタル者ニ付テハ殘刑期ノ二分ノ一ヲ減ス但シ刑ノ執行力刑期ノ二分ノ一ニ至ラサル者ニ付テハ前號ノ例ニ依ル

三 昭和十三年二月十一日ニ於テ七十歳以上ノ者及犯時十六歳未滿ノ者ニ付テハ前二號ノ例ニ依ラス刑期ノ三分ノ一ヲ減ス

短期ト長期トヲ定メテ言渡シタル刑ニ付テハ短期及長期ニ付前項ノ例ニ依ル但シ犯時十六歳以上ノ者ニシテ短期ヲ經過シタル者ニ付テハ長期ニ付前項第二號ノ例ニ依ル

前二項ノ計算ヲ爲スニ當リ年、月又ハ日ノ端數ヲ生ズルトキハ一年ハ之ヲ十二月、一月ハ之ヲ三十日トシ日ノ端數ハ之ヲ除棄ス

刑事訴訟法第五百六十二條 裁判ノ執行ヲ受クル者又ハ其ノ法定代理人、保佐人若ハ夫執行ニ關シ檢事ノ爲シタル處分ヲ不當トスルトキハ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

裁判所構成法第百四十條 司法事務取扱ノ方法ニ對スル抗告殊ニ或ル事務ノ取扱方ニ對シ又ハ取扱ノ延滞若ハ拒絕ニ對スル抗告ハ此ノ編ニ掲ケタル司法行政ノ職務及監督權ニ依リ之ヲ處分ス

恩赦令及減刑令ニ依ル檢事ノ判決原本附記ト刑事訴訟法第五百六十二條ノ異議

四九九 (一五)

○ 事實

恩赦令及減刑令ニ依ル檢事ノ判決原本附記ト刑事訴訟法第五百六十二條ノ異議

四九九 (一五)

事實關係ハ決定理由ニ説示スル所ノ如シ

○主 文

原決定ヲ取消ス

本件異議申立ハ之ヲ却下ス

○理 由

本件抗告ノ要旨ハ原決定ヲ廢棄ス抗告人ニ對スル名古屋控訴院第二刑事部ニ於テ昭和十三年二月十日言渡シタル縣會議員選舉違反被告事件ノ判決原本ニ同院檢事カ恩赦令第十八條ニ基キ昭和十三年勅令第七十六號ノ減刑令ニ依ル減刑ヲ記載スルニ當リ抗告人ノ刑期ハ四月二十二日ニ變更シタル旨ノ附記ハ之ヲ刑期三月二十二日ニ變更シタル旨ノ附記ト爲スヘキモノトス抗告人ニ對スル右刑ノ執行ヲ爲スヘキモノニアラストノ決定アランコトヲ求ムト謂ヒ其ノ理由トシテ原決定摘示ノ異議申立理由一項ヨリ十項迄ハ之ヲ本抗告理由一項ヨリ十項迄ノ理由トシテ之ヲ援用ス十一、原審ハ減刑令ハ宣告刑中將來執行ヲ受ケ又ハ受クルコトアルヘキ執行未了ナル部分ノ刑ヲ減刑ノ對象ト爲シ專ラ將來執行ニ因リテ受ケ又ハ受クルコトアルヘキ不利益ヲ基準トシテ之ヲ減輕スル法意ナリト判斷シ其ノ資料トシテ今次ノ減刑令第一條中ニ既ニ執行ヲ終リタル者ニ對シテハ其ノ刑ヲ減輕セサルヲ以テ(中略)併セ考フレハ減刑令ハ云々ト判示シテ原審ハ減刑ヲ以テ刑ノ執行ノミニ局限シテ刑期ノ變更ヲ主眼トセサルモ

ノノ如ク又勅令ニ依ル減刑ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外將來ニ向テ刑ヲ變更ストアリテ特ニ減刑令第一條ヲ以テ刑ノ執行済ナルモノヲ除外セサルニ於テハ執行済ノモノモ亦其ノ減刑ヲ受ク可キモノナレハ此ノ除外セラレタルノ一事ヲ以テ減刑ノ本旨ヲ解釋スルハ失當ナリ況ンヤ抗告人ハ未タ刑ノ執行ヲ受ケサルモノナル處右執行済ノモノニ對シ減刑ナキノ理由ヲ以テ既ニ執行ヲ受ケタリト看做ス可キモノニ對シテハ減刑ノ對象タラストノ文意ナルカ如キモ減刑令ノ主法タル恩赦令ニ依レハ「將來ニ向ツテ」減刑、大赦、特赦ノ效力發生スヘキ事ヲ數個所ニ散見シ得ルナリ即チ專ラ將來ニ對スル效力ナルコトハ抗告人モ之ヲ認ムルモノナルハ既ニ執行ヲ受ケタルモノハ減刑ノ利益ハ其ノ刑期ヲ變更セラルノ一點ノミニシテ執行ヲ減輕セラルルノ利益ナキヲ以テ之ヲ除外シタリトスルモ敢テ不思議ニアラス抗告人ハ其ノ刑期ノ變更ニ依リ將來刑期ノ長短ニ依リ權利ノ得喪ヲ生スル場合ノ利益ト現實ノ刑ノ執行ヲ受クル要ナキト二者ノ利益ヲ受ク可キ者ナルヲ以テ彼ノ刑ノ執行済ノモノト同一ニ論スルヲ得ス即チ原決定ノ如ク宣告刑中將來執行ヲ受ケ又ハ受クルコトアル執行未了ナル部分ノ刑ノ減輕ヲ對象ト爲スト判斷シタルハ減刑令ノ主眼カ專ラ刑ノ變更ニアリテ執行ハ其ノ伴隨事項タルコトヲ忘却シタル論難ヲ免レサルモノト思料ス十二、所謂減刑令第六條第一項ノ刑期トハ如何ノ問題ニ付原審ハ然リ而シテ未決勾留日數ヲ本刑ニ算入スル言渡アリタル時ハ其ノ裁判確定ト同時ニ其ノ算入日數ニ付刑ノ執行アリタルト同一ノ效果ヲ生スルモノナルヲ以テ減刑令第六條第一項第一號ニ所謂減

刑期トハ未決勾留日數ヲ本刑ニ算入スル言渡ヲ受ケタル者ニ付テハ裁判確定ト同時ニ執行アリタルト同一ノ效果ヲ生シ右算入日數ヲ本刑ヨリ控除シタル殘餘ノ刑期ヲ指稱シ同號ニ依ル減刑ハ此ノ刑期ヲ基準トシテ之ヲ算定スヘキモノナリト判斷シタル處未決勾留日數ノ算入ハ其ノ執行ノ方法ニ關スルモノナル旨夙ニ御院ニ於テ判示セラレタル處ナルモ其ノ判決確定ト同時ニ執行シタリト同一ノ效果ヲ生シタル旨ノ判示ヲ聞カス若シ果シテ原審決定カ正當ナリトスレハ刑期ハ曆ニ從フ可キニ依リ月ノ大小ニ依リ日數ヲ異ニスヘク假令ハ五、六、七、八、九ノ五月ハ日數百五十三日ナリ又一、二、三、四、五ノ五月ハ日數百五十一日ナリ抗告人ノ如キ五月ノ刑期者ニ判決確定ト同時ニ未決通算日數百二十日ヲ執行シタリト同一ノ效果ヲ生セシムルニハソモ何月何日ヲ以テ效力發生ノ日ヲ起算スヘキヤ被告人ハ二月十日判決確定シタルヲ以テ判決確定ト同時ニ執行ノ效果ヲ生シタルモノト解セントスルニ於テハ過去ノ日月ニ遡ツテ當テ箴メサレハ計算シ能ハス而モ刑期ハ裁判確定ノ日ヨリ起算スヘキヲ以テ過去ノ日月ニ遡及スルハ當ラス又裁判確定スト雖モ拘禁セラレサル日數ハ刑期ニ算入セサルヲ以テ右未決勾留日數ハ判決確定後ノ將來ニ於テ拘禁セラレタル後ヨリ算入セサル可カラス然シテ拘禁セラルル場合ハ實刑ヲ科セラルヲ以テ未決勾留日數ノ算入ナキモノナリ未決勾留日數ノ通算ナキモノハ(一)裁判確定シ(二)拘禁セラレ(三)拘禁ノ日ヨリ全刑期ヲ起算スヘク通算アルモノハ右(一)(二)(三)ハ同様ナルモ只(四)其ノ全刑期ノ最終日ヨリ遡ツテ本刑ニ算入スヘキ日數ヲ控除シタル日ヲ

以テ執行ヲ終了シタルモノト解スルヲ最モ正當ト思料ス斯クノ如ク算定スルニ於テハ刑期カ曆ニ從ヒ算入ノ日數ニ依ル場合ニ最モ正確ナル計算ニシテ判決ニ於テ未決勾留日數ヲ算入スヘキ宣告ハ斯クノ如キ事態ニ於テ執行ノ方法ヲ定メタルモノト解ス實際上ニ於テモ明治四十一年九月司法省訓令第七號假出獄及假出場ニ關スル取扱手續第四條第七號ニ抗告人ノ意見ト同一ノ方法ニ依リ算入シ居ル事態ニ徴シテモ明白ナリト思料ス故ニ本年二月十日ニ裁判確定シ翌十一日ニ恩赦ノ減刑令公布セラレ事實上拘禁セラレサル事態ニ於テハ未タ刑期ニ算入スヘキノ適應期ニ到達セス即チ執行上ノ問題ニ蓬著セサル時期ニ於テ本刑ヨリ未決勾留日數ヲ控除スヘキ事由ナク隨ツテ右刑期ノ文辭ハ刑法上多數使用セラレアル所謂宣告上ノ刑期ト同一ニ解スルヲ最モ正當ナルモノト思料ス若シ原審ノ如ク強テ未決勾留日數通算ヲ以テ判決確定ト同時ニ執行ヲ爲シタルモノト同一ノ效果ヲ生スト解スルニ於テハ抗告人ハ二月十日ニ於テ右效果發生シ減刑令第六條第一項第二號ノ既ニ刑ノ執行ヲ始メタルモノト同一ニ解スヘキ筋合ナリ然レトモ此ノ點ニ付テハ原審モ亦之ヲ否定シ居リ未タ刑ノ執行ヲ始メサルモノニ該當セシメアリ左レハ刑期五月ノ四分ノ一ヲ減刑スルニ何等ノ躊躇ヲ要セサル處ナルニ種々ノ局限ヲ試ミ彼此矛盾セル解釋ヲ爲シ居ルハ遺憾ナリ十三 減刑令ニ依ル利益均衡上ニ付抗告人ハ申立書第六項ニ於テ未決勾留日數通算ハ特別ノ不利益ヲ受クル旨ヲ申立テタル處其ノ例ハ等シク禁錮五月ノ刑ヲ受ケタルモ(一)未決通算ナキモノ減刑一月八日間(二)未決通算百二十日アルモノ同八日間(三)百二十日實

刑終了者同十五日間ニシテ右(二)例タル抗告人ハ最モ不利益ナル旨陳述シタル處原審ハ申立人主張ノ如キ算定ヲナストキハ減刑ノ結果殘刑期ト同一ニ看ルヘキ範圍ヲ超ユルコトトナリ彼此權衡ヲ失シ未決勾留日數ノ算入ヲ受ケタルモノハ既ニ執行ヲ受ケタルモノニ比シ却テ不當ノ利益ヲ受クルコトトナルヘシト判示シタルモ遺憾ナカラ未決通算ナキモノニ比シ通算アルモノカ不利益ナルコトハ一モ言及セス片手落ノ判斷ナリ減刑令第六條第一項第一號ノ未タ執行ヲ始メサルモノニ對シテハ四分ノ一ヲ減刑スルヲ以テ假ニ禁錮四月ナルモノハ一月ヲ減刑セラル同條第一項第二號執行ヲ始メタルモノハ殘期ノ二分ノ一ヲ減刑セラル假ニ禁錮四月ニシテ既ニ二箇月一日ヲ經過シタルモノハ等シク一月ヲ減刑セラル是レ右兩者間ニ公平ナル減刑ノ一致點ナリ若シ禁錮四月ニシテ未決通算二月アルモノハ原審決定ニ從ヘハ減刑十五日トナル是レ果シテ公平ナルヤ否ヤ識者ヲ俟ツテ後判斷スヘキニアラス假令執行ヲ受ケタル者カ權衡上ノ不利益ナルコト原審決定ノ如クナレハトテ該不利益ヲ標準トシテ利益ヲ享受シ得ヘキモノヲ減刑引下ケテ爲スヘキニアラス實ニ減刑ハ廣大ナル御徳ヲ蒼生ニ及ホシ給フ恩典ナルカ故ニ行刑當局ハ之ニ心ヲ致シ廣狹二義ニ互ル場合ハ最モ廣義ニ解シテ以テ彌カ上ニモ聖徳ヲ顯ハスニ努力スヘキモノト拜察スルヲ以テ原審ハ此ノ點ニ於テモ減刑令ノ精神ヲ曲解スルモノト思料ス十四、減刑ハ刑期ノ變更ニテ執行上ノ減刑ハ其ノ附隨タル旨ノ抗告人ノ主張ニ付申立書ニ於テ辯護士法及公證人法等ヲ援用シタルニ對シ原審ハ恩赦令第十一條ニ依リ刑ノ言渡ニ基ク既成ノ效果ハ恩赦ニ因リ

變更セラルコトナキヲ以テ未決勾留日數ヲ算入シタル上其ノ殘期ニ付減刑ヲ受クルカ爲メ未決勾留日數ノ算入ナキモノニ比シ資格ノ喪失ニ付特ニ不利益ヲ受クトノ主張ハ抗告人ノ誤解ニ出テタルモノト判示サレタリ然レトモ曾テ辯護士タル者カ一旦長期ノ刑ニ處セラレテ其ノ資格ヲ喪ヒタルモ減刑令ニ依リ一年以下ノ刑ニ處セラレタル爲メ更ニ復活シタル旨ヲ主張シタルコトナク原審ハ抗告人ノ主張セサルモノニ對シ漫ニ誤解ナリト判斷スルハ其ノ謂ハレナシ抗告人ノ主張ハ一年以上ノ禁錮刑ニ處セラレタルモノハ辯護士タルノ資格ヲ有セス然レトモ減刑セラレテ一年ヨリ以下ニ變更セラルニ於テハ其ノ資格ヲ新ニ享クル趣旨ヲ主張スルモノナリ恩赦令第十條ニヨレハ復權ハ將來ニ向テ資格ヲ回復ストアリ若シ右條項ヨリハ次條ノ既成ノ效果ハ……復權ニ因リ變更セストノ規定カ強力ナリトスレハ第十條ハ空文ニ歸スヘシ又同令第八條ニ依リ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル者ニ對シテハ刑ノ言渡ノ效力ヲ失ハシムル特赦若クハ刑ヲ變更スル減刑ヲ行ハレタル場合ニ刑ノ言渡カ效力ヲ失ヒタルニ拘ラス尙ホ且ツ第十一條ノ既成ノ效果ハ特赦……ニ因リ變更セラルコトナシト爲サハ是レ亦死文ニ歸スヘシ即チ右第十一條ノ趣旨ハ過去ノ效果ハ返還スヘキニアラサルコトヲ規定シタルニ止マリ將來ノ利益ハ凡テ享受セシムル趣旨ナリ然ラサレハ恩赦ノ目的ヲ達成シ得ヘカラス設例辯護士タル資格ヲ有セサルニ至リタルモノ之ヲ回復スルニハ復權令アリ然レトモ一年未滿ニ刑期ヲ變更セラレタル時ハ更ラニ新ナル資格ヲ享有スルニ何等ノ妨ケナク過去ニ於テ一旦一年以上ニ處セラレタルノ一事ヲ以テ終生

辯護士タルノ資格ヲ得サル旨ノ原審決定コソ誤解セルモノナリ十五 本件ニ付減刑令第六條第一項ノ刑期ノ文辭ノ解釋ハ重要ナル爭點ト思料スル處原審ハ刑法第二十八條中ノ刑期トハ未決勾留日數算入ノ言渡ヲ受ケタル者ニ付テハ本刑ヨリ右算入日數ヲ控除シタル殘餘ノ刑期ヲ指稱スルモノナルコトハ實務上古クヨリ準據セラルル解釋ニシテ異論ヲ見サルトコロニシテト判示セリ是レ受刑者ノ利益ナルカ故ニ敢テ強辯セス然レトモ古クヨリ刑ノ執行ヲ掌ル當局ニ於テ受刑者ノ利益ノ爲メニ之ヲ解釋スルニ拘ラス今人タル原審ハ却ツテ減刑令第六條第一項ノ刑期ノ文辭ヲ受刑者ノ不利益ニ解釋セラレタルハ甚タ遺憾ニ堪ヘサルナリ此ノ點ニ於テモ原審決定ハ今次ノ減刑令ヲ他ノ勅令ト同様ニ狹義ニ解釋セラレタルヲ以テ減刑令ノ御趣旨ニ添ハサルノ憾アルモノナリ原決定ハ恩赦令ノ規定ヲ以テ一般的ニ減刑又ハ特赦ノ效力ヲ定メタルニ過キスト輕々シク之ヲ取扱ヒ結局被告人ニ對スル減刑ハ今次ノ減刑令ニ依リテ之ヲ決スヘキ旨ヲ判示セラレタルモ減刑ノ原則ヲ定メタルハ實ニ恩赦令ノミニシテ之ヲ以テ金科玉條トナササレハ他ニ依據スル法典ナシ若シ此ノ法典ニシテ不備アラハ昭和二年勅令第十號ノ如ク改正セラレヘキ筈ナリ然ルニ今次ニハ絶テ斯カル改正ナキヲ以テ依然トシテ原則トシテ最モ依據スヘキ法典ナリトス即チ同令ニ依レハ勅令ニ依ル減刑ハ將來ニ向ツテ其ノ刑ヲ變更ストアリ今次ノ減刑令第六條第一項ニ依リテモ其ノ刑期ヲ變更ストアリテ恩赦令第七條ノ主旨ニ則リタリ原審決定ハ減刑令第六條第一項第一號ノ刑期ノ文辭ニ付紋上ノ說示スルトコロノ解釋ハ右恩赦令ノ規定ト矛盾スルモ

ノニアラスト稱スルモ尙ホ且ツ減刑令正文ノ解釋ヲ狹義ニ解釋スルハ事實ナリ若シ廣狹ノ相違ヲ以テ矛盾ト爲スカ如キハ明カニ原決定ハ矛盾セルモノナルコト以上ノ抗告ノ理由ニ縷述スルカ如シ刑期ノ短縮ニ依リ資格ノ得喪ニ影響アル諸種ノ設例ハ要スルニ減刑ハ單ニ刑ノ執行上ノ問題ニ止マラスシテ其ノ刑期ノ變更カ主眼ナリトノ強調ニ對スル例證ト實情ヲ陳述セルモノニシテ必スシモ被告人ハ本末顛倒ノ論ヲ試ムルニアラス衷心ヨリ減刑ノ御德ヲ仰カント欲スルノ至情ヨリ發シタル異議又ハ抗告ニテ抗告センカ爲メノ抗告ニアラス以上抗告スル次第ナルカ本件ハ從前ニ參考資料アルヤ否ヤ之ヲ知ラス又無學ノ徒ニシテ措辭適當ナラス其ノ文字モ亦亂雜ニ流レ甚タ恐縮ニ堪ヘサル次第ナルモ被告人ノ住所ハ原裁判所トハ遠隔ノ地ニシテ即時抗告ノ期間嚴守ニ對シ多大ノ困難アリ爲メニ奔馬ノ如キ不體裁ヲ以テ急々作成セル次第ナルヲ以テ何卒御諒察ヲ乞ヒ奉ル願クハ被告人ノ趣旨ヲ御汲取リアリテ適當ニ廣ク國民一般ニ於テ眞ニ首肯シ受刑者ノ利益ヲ御考察アル御寛大ナル御決定ヲ仰キ度ク茲ニ抗告スル次第ナリト云フニ在リ

案スルニ本件ハ名古屋控訴院ニ於テ抗告人等ニ對スル縣會議員選舉罰則違反被告事件ニ付昭和十三年二月十日抗告人ヲ禁錮五月ニ處ス未決勾留日數中百二十日ヲ右刑ニ算入スル旨言渡シタル確定判決ニ對シ同院檢事カ同年勅令第七十六號減刑令第六條第一項第一號ニ依リ刑期變更ヲ算定シ恩赦令第十八條ノ規定ニ則リテ之ヲ判決原本ニ附記シ且抗告人ニ通達シタル處分ニ對シ抗告人ハ刑期算定ニ不當ア

リトシ刑事訴訟法第五百六十二條ノ異議申立トシテ同院ニ對シ之カ是正ヲ求メタルトコロ同院ハ右異議ヲ適法ト認メ審理ノ末右檢事ノ刑期算定處分ハ正當ナリトノ理由ニ據リテ右申立ヲ理由ナシトシテ却下シ抗告人ハ之ニ對シ本院ニ即時抗告ヲ申立テタルモノニシテ未タ刑ノ執行ニ著手セサルモノナルコト一件記録ニ徴シテ明白ナリ仍テ職權ヲ以テ審究スルニ刑事訴訟法第五百六十二條ニハ裁判ノ執行ヲ受クル者執行ニ關シ檢事ノ爲シタル處分ヲ不當トスルトキハ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得ト規定スルカ故ニ右異議ノ申立ハ裁判ノ執行ニ關シテ檢事ノ爲シタル處分ヲ不當トスル場合ニ限リテ之ヲ爲シ得ルモノナルコト明白ニシテ其ノ所謂裁判ノ執行ニ關スル檢事ノ處分トハ檢事カ刑事訴訟法ノ規定ニ基キテ爲ス裁判ノ執行ニ關スル處分ヲ指稱スルモノナルコト勿論ナリ而シテ恩赦ニ依ル減刑アリタル場合ニ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事カ判決原本ニ變更セラレタル刑期ヲ附記スルハ恩赦令第十八條ニ從ヒテ檢事ノ爲スヘキ恩赦ノ奉行タル行爲ナルカ故ニ該附記自體カ裁判ノ執行ニアラサルハ勿論該附記ニ關スル檢事ノ通達モ檢事カ刑事訴訟法ニ從ヒテ爲スヘキ裁判ノ執行ニ關スル處分ト謂フヘカラサルコト疑ヲ容レサルトコロナリ從ツテ之ニ對シテ不服ヲ申立テントスルニハ裁判所構成法第四百十條所定ノ司法事務取扱方法ニ關スル抗告ヲ以テスルハ格別刑事訴訟法第五百六十二條ノ異議ニ依リテ之カ是正ヲ求メントスルハ不適法ニシテ許スヘカラサルモノトス然リ而シテ本件異議ハ前敍ノ如ク抗告人等ニ對スル縣會議員選舉罰則違反被告事件ニ付昭和十三年二月十日名古屋

【要旨】

屋控訴院カ言渡シタル確定判決ノ原本ニ恩赦令第十八條ノ規定ニ則リ昭和十三年勅令第七十六號減刑令ニ依リテ檢事ノ爲シタル附記及之ニ關スル通達ヲ不當トスルニアルカ故ニ前示理由ニ鑑ミテ之ヲ許スヘカラサルモノナルニ拘ラス原院カ右刑期變更ノ算定ハ恩赦令及減刑令ニ基ク處分ナレトモ同時ニ裁判執行ノ前提ヲ爲ス處分ナレハ刑事訴訟法第五百六十二條ニ所謂執行ニ關スル檢事ノ處分ニ該當シ之ヲ不當トスルトキハ同條ニ依リ異議申立ヲ爲シ得ヘシト解シ之ヲ適法ナリト斷シ進ンテ本案理由ニ付審理決定ヲ爲シタルハ失當ナルカ故ニ原決定ヲ取消シ異議申立ヲ不適法トシテ却下スヘキモノトス以上ノ理由ニ據リテ主文ノ如ク決定ス

檢事三田勝關與

○町會議員選舉罰則違反被告事件 (昭和十三年(れ)第六九五號)

同年六月二十八日第三刑事部判決

棄却)

【上告人】 被告人 幸野三平 辯護人 〔姫野高雄〕

【第一審】 大分區裁判所 【第二審】 大分地方裁判所

○ 判示事項

區長代理者辭任届ノ效力發生時期

○ 判決要旨

町村制第六十八條ニ依リ選任セラレタル區長代理者ノ辭任届ハ町村役場ニ提出セラレタル時ヲ以テ其ノ效力ヲ生スルモノトス

【參照】 町村制第六十八條 町村ハ處務便宜ノ爲區ヲ劃シ區長及其ノ代理者一人ヲ置クコトヲ得

區長及其ノ代理者ハ名譽職トス町村公民中選舉權ヲ有スル者ヨリ町村長ノ推薦ニ依リ町村會之ヲ定ム此ノ場合ニ於テハ第六十三條第二項乃至第五項ノ規定ヲ準用ス

○ 事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金二十圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金一圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置ス被告人ニ對シ衆議院議員選舉法第三百七十七條第一項ノ規定ヲ適用セス訴訟費用ハ被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ大分縣北海郡郡坂ノ市町大字市區ノ區長代理トシテ選舉事務ニ關係アル吏員ナル處昭和十二年九月九日施行ノ同町町會議員選舉ニ議員候補者トシテ立候補シ同月一日肩書自宅ヨリ同區内ノ選舉人安達松太郎外三十六名ニ對シ自己ニ投票方依頼ノ挨拶狀合計三十七通ヲ郵送シ翌二日右松太郎等方ニ到達セシメ以テ其ノ關係區域内ニ於ケル選舉運動ヲ爲シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示行爲ハ町村制第三十六條ノ二第三十七條衆議院議員選舉法第九十九條第二項第三百一十一條ニ該當スルヲ以テ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金二十圓ニ處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條ニ則リ金一圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置シ尙情狀ニ因リ被告人ニ對シ町村制第三十七條衆議院議員選舉法第三百三十七條第三項ニ從ヒ同條第一項ヲ適用セサルコトヲ宣告シ訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ則リ被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス

○ 主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○ 理 由

辯護人姫野渡上告趣意書原判決ハ被告人ハ北海郡郡坂ノ市町大字市區區長代理者ナル處昭和十二年九月九日施行ノ同町町會議員選舉ニ際シ候補者ニ立チ同月一日同區内自宅ニ於テ同區選舉人安達松太郎外三十六名ニ對シ投票依頼ノ挨拶狀合計三十七通ヲ郵送翌二日右各人方ニ到着セシメ以テ選舉運動ヲ爲シタリトノ趣旨ヲ以テ被告人ノ行爲ヲ有罪ト認定シタリ然レ共被告人カ區長代理ノ辭表ヲ區長白石

區長代理者辭任届ノ效力發生時期

政彦ニ提出シタルハ昭和十二年九月二日午前八時頃ニシテ一方被告人カ區内ノ有権者ニ對シ立候補ノ挨拶狀ヲ差出シタルハ前日ノ九月一日午後七時頃ニシテ其ノ各有権者ニ配達セラレタルハ翌九月二日午前十時頃ナルヲ以テ挨拶狀ノ配達セラレタル時ニ於テハ已ニ被告人ハ區長代理ヲ辭任シ居リタルモノナリ從テ被告人ノ本件行爲ハ區長代理在任中其ノ區内ニ於テ選舉運動ヲ爲シタルモノト謂フ能ハス然ルニ原判決カ被告人ノ本件行爲ヲ區長代理在任中ノ區内ニ於ケル選舉運動ト認メ有罪ヲ以テ論シタルハ(一)區長代理ノ辭任ハ辭表カ町役場ニ提出セラレタル時始メテ效力ヲ生シ區長ノ手許ニ提出シタルノミニテハ未タ其ノ效力發生セス(二)本件挨拶狀ニ依ル區内有権者ニ對スル選舉運動ノ行爲ハ之ヲ差出シタル時完了スルモノナルヲ以テ被告人ノ區長代理辭任ノ效力カ區長ニ辭表ヲ提出シタル時ニ於テ發生シ挨拶狀ノ配達ハ其ノ後ニ爲サレタリトスルモ毫モ罪ノ成否ニ關係スル處ナシトノ見解ニ基クモノナランモ斯カル解釋ハ法ノ曲解ニシテ吾人ノ首肯スル能ハサル處ナリ何トナレハ區長ハ其ノ區内ニ於ケル町村ノ事務ヲ擔當スル職務權限ヲ有スルコトハ町村制ニ明記スル處ナルヲ以テ區長代理ノ辭表ヲ受理スル權限モ當然包含セラレルモノト見ルヘク然ル時ハ被告人ノ區長代理辭任ノ效力ハ其ノ辭表ヲ區長ニ提出シタル前陳昭和十二年九月二日午前八時ニ發生シタルモノト斷セサルヘカラサルハ勿論ナリト謂フヘク又本件ノ如キ挨拶狀ニ依ル區内有権者ニ對スル選舉運動カ問題トナル場合ハ單ニ挨拶狀カ發送セラレタリト云フニ留マラス其ノ到達アリテ始メテ區内有権者ニ對スル選舉運動ハ完

了シタルモノト謂ヒ得ヘケレハナリ以上ノ次第ナルニヨリ原判決ハ法ノ解釋適用ヲ誤リタル違法アルヲ免レスト信スト云フニ在レトモ

【要旨】

町村制第六十八條ニ依リ選任セラレタル區長代理者ノ辭任届ハ町村役場ニ提出セラレタル時ヲ以テ其ノ效力ヲ生ズルモノニシテ該辭任届ガ單ニ區長ニ手交セラレタルノミニテハ未ダ辭任ノ效果ヲ發生セザルモノトス原判示事實ニ依レバ被告人ハ判示坂ノ市町大字市市區ノ區長代理ナリシトコロ昭和十二年九月九日施行ノ同町町會議員選舉ニ立候補シ同月一日自宅ヨリ同區内ノ選舉人安達松太郎外三十六名ニ對シ自己ニ投票方依頼ノ挨拶狀合計三十七通ヲ郵送シ翌二日右松太郎等ニ夫々到達セシメタリト謂フニ在ルトコロ本件記録ニ徵スレバ被告人ガ其ノ區長代理者辭任ノ届書ヲ右坂ノ市町役場ニ提出シタルハ同年九月三日ナルコトヲ認ムルニ足ルヲ以テ假令所論ノ如ク其ノ以前ニ該届書ガ右市區區長ニ手交サレタル事實アリトスルモ被告人ノ前示選舉運動ハ區長代理者在任中ノ所爲ナルコト明カナリトス然ラバ被告人ハ選舉事務ニ關係アル吏員タル區長代理者トシテ其ノ關係區域内ニ於ケル選舉運動ヲ爲シタルモノニ外ナラザルヲ以テ該被告人ノ所爲ガ町村制第三十六條ノ二、第三十七條、衆議院議員選舉法第九十九條第二項、第三百一十一條ニ該當スルコト勿論ナリ辯護人ハ區長ハ其ノ區内ニ於ケル町村ノ事務ヲ擔當スル職務權限ヲ有スルヲ以テ區長代理者ノ辭表ヲ受理スル權限ヲモ當然有スルモノナル旨論ズレドモ町村ノ區長ハ當然ノ職務權限トシテ町村長ニ屬スル事務ヲ常時補助處理シ得ルモノ

ニハアラズ町村長ノ命ヲ承ケタル事項ニシテ其ノ區内ニ關スルモノニ付テノミ之ヲ補助スル職務權限ヲ有スルニ過ギザルモノナルコトハ町村制第八十一條ノ解釋上疑ナキトコロナルヲ以テ右辯護人ノ所論ハ當ラザルモノトス。論旨理由ナシ。(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)
以上ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事村上常太郎關與

○縣會議員選舉罰則違反被告事件(昭和十三年(九)第六六九號
同年六月二十九日第五刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 鳥居健藏 辯護人 中谷義衛

【第一審】 和歌山區裁判所 【第二審】 和歌山地方裁判所

○判示事項

投票立會人ノ義務

○判決要旨

縣會議員選舉ニ於ケル投票立會人ハ投票管理者ヲシテ成規ノ時限ニ先チテ投票所ヲ閉鎖スル力如キ事ナク投票管理ノ事務ヲ適正ニ執行セシムル爲投票管理者ニ必要ナル注意ヲ與フル等適當ノ措置ヲ講スヘキ義務アルモノトス

【参照】 府縣制第十六條 議員候補者ハ各投票區ニ於ケル選舉人名簿ニ登録セラレタル者ノ中ヨリ本人ノ承諾ヲ得テ投票立會人一人ヲ定メ選舉ノ期日前二日目マデニ投票管理者ニ届出ツルコトヲ得但シ議員候補者死亡シ又ハ議員候補者タルコトヲ辭シタルトキハ其ノ届出テタル投票立會人ハ其ノ職ヲ失フ

前項ノ規定ニ依ル投票立會人三人ニ達セサルトキ若ハ三人ニ達セサルニ至リタルトキ又ハ投票立會人ニシテ參會スル者投票所ヲ開クヘキ時刻ニ至リ三人ニ達セサルトキ若ハ其ノ後三人ニ達セサルニ至リタルトキハ投票管理者ハ其ノ投票區ニ於ケル選舉人名簿ニ登録セラレタル者ノ中ヨリ三人ニ達スルマテノ投票立會人ヲ選任シ直ニ之ヲ本人ニ通知シ投票ニ立會ハシムヘシ

投票立會人ハ名譽職トス

投票立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得ス

同法第十九條 投票ノ拒否ハ投票立會人ノ意見ヲ聽キ投票管理者之ヲ決定スヘシ

前項ノ決定ヲ受ケタル選舉人不服アルトキハ投票管理者ハ假ニ投票ヲ爲サシムヘキ

投票立會人ノ義務

前項ノ投票ハ選舉人ヲシテ之ヲ封筒ニ入レ封緘シ表面ニ自ラ其ノ氏名ヲ記載シ投票
函セシムヘシ

投票立會人ニ於テ異議アル選舉人ニ對シテモ亦前二項ニ同シ

同法第二十條 投票管理者ハ投票録ヲ作り投票ニ關スル顛末ヲ記載シ二人以上ノ投票立會人ト共ニ之ニ署名スヘシ

同法第二十一條 投票管理者ハ其ノ指定シタル投票立會人ト共ニ町村ノ投票區ニ於テハ投票ノ翌日マテニ市ノ投票區ニ於テハ投票ノ當日投票函、投票録及選舉人名簿ヲ選舉長ニ送致スヘシ

同法第四十條 府縣會議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉ニ關スル罰則ヲ準用ス

衆議院議員選舉法第二百二十八條 立會人正當ノ事故ナクシテ本法ニ定メタル義務ヲ缺クトキハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金二十圓ニ處ス罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ被告人ヲ二十日間勞務役場ニ留置ス被告人ニ對シ衆議院議員選舉法第三十七條第一項ヲ適用セサル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人健藏ハ昭和十二年八月五日施行セラレタル和歌山縣海草郡區ニ於ケル和歌山縣縣會議員補缺選舉ニ付投票所ヲ同郡紀伊村尋常高等小學校トシ投票時間ヲ同日午前七時ヨリ午後六時迄ト定メラレタル投票立會人トシテ同日投票

所ニ臨席立會中投票管理者同村村長辻本治良右衛門ノ代理者同村助役宮本哲夫カ立會ノ勞ヲ厭ヒ投票時間ヲ故ラニ短縮セシメントシ午前九時頃投票所備付ノ柱時計ノ分針ヲ約二十分廻轉進行セシメ正時ヨリ早クシ置キタル事實ヲ目撃知悉シナカラ情ヲ知ラサル投票管理者辻本村村長ニ該事實ヲ告知スル等同管理者ヲシテ選舉ノ執行ヲ適正ニ行ハシムル措置ヲ採ラス爲ニ同管理者ヲシテ該柱時計カ午後六時ヲ示スヤ直ニ投票所ヲ閉鎖セシメ因テ正規時間ニ先ヅコト約二十分前ニ閉鎖スルニ至ラシメ投票立會人トシテ適正ナル投票施行ヲ監視スル義務ヲ正當ノ事故ナクシテ缺キタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ所爲ハ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第二百二十八條ニ該當スルヲ以テ被告人ヲ罰金二十圓ニ處スヘク右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條ニ則リ被告人ヲ二十日間勞務役場ニ留置スヘク情狀ニ因リ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第三百三十七條第三項ニ則リ同法條第一項ヲ適用セサルモノトス

○主文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理由

辯護人中谷義衛上告趣意書第一點原判決ハ重大ナル事實誤認アルコトヲ疑フニ足ル可キ顯著ナル事由及證據不備ノ違法アリ原判決ハ上告申立人等カ「昭和十二年八月五日施行セラレタル和歌山縣海草郡區ニ於ケル和歌山縣會議員補缺選舉ニ付投票所ヲ同郡紀伊村尋常高等小學校トシ投票時間ヲ同日午前七時ヨリ午後六時迄ト定メラレタル投票ノ投票立會人トシテ同日投票所ニ臨席立會中投票管理者同村村長辻本治良右衛門ノ代理者同村助役宮本哲夫カ立會ノ勞ヲ厭ヒ投票時間ヲ故ラニ短縮セシメムト

シテ午前九時頃投票所備付ノ柱時計ノ分針ヲ約二十分間廻轉進行セシメ正時ヨリ早メ置キタル事實ヲ目撃シ乍ラ情ヲ知ラサル投票管理者辻本村長ニ該事實ヲ告知スル等同管理者ヲシテ選舉執行ヲ適正ニ行ハシムルノ措置ヲ採ラス爲メニ同管理者ヲシテ該柱時計カ午後六時ヲ示スヤ直チニ投票所ヲ閉鎖セシメ因テ正規時間ニ先ツト約二十分前ニ閉鎖スルニ到ラシメ投票立會人トシテ適正ナル投票施行ヲ監視スルノ義務ヲ正當ノ事故ナクシテ缺キタルモノナリトノ事實ヲ認定シタルモ一、右二十分ノ時間カ正時ヨリ早シトノ事實認定ハ右判決引用ノ證據ニ於テ却ツテ不明ナリ即チ原判決證據引用ニハ原審法廷ニ於テ被告人西岡昇ハ「午前中同助役ハ投票所ノ掛時計ノ分針ヲ四十五分位進マセタルコトハ氣付キタルカ其ノ後ソレハ餘リ進マセ過キルトテ十分位戻シタリ」(註三十五分進メタル事トナル)旨上告申立人健藏ハ「約四十分進マセタル」旨被告人宮本哲夫原審第一回公判調書ニ於テ「其ノ日ノ午前九時五分頃自分ハ其ノ時計ヲ九時三十五分ニ進メ又十分戻シ結局二十分進メタリ」トノ各供述ハ被告人昇ハ三十五分同建藏ハ四十分被告人哲夫ハ二十分ト各相違ス右ノ如ク各數字のニ明カニ相違スル供述ヲ證據ニ供シテ何レカ正確ニシテ之ヲ證據ニ供スルヤノ何等ノ説明ヲ爲サズ漫然二十分正確時ヨリ早クシ置キタル事實ヲ認定セルハ明カニ重大ナル事實誤認又ハ證據不備ノ違法在リ二、右判示記載ノ證據及記録全體ニ於テ右時計カ正確ニ時刻ヲ示ス可キモノタルヤ或ハ然ラスシテ多少ノ進ミ又ハ遅レテ時刻ヲ示ス不正確ノモノナルヤ何等判示セサルノミナラス之ヲ取調ヘタル形跡ナク其ノ當時時

計ノ鑑定ヲ證據トスヘキモノナリ果シテ然ラハ原判決ハ何ヲ基準ニシテ二十分ノ時間ヲ計算シタルヤ只漠然二十分早ク投票所ヲ閉鎖セリト謂フニ似タリ勿論事實誤認アル事充分ニシテ證據不備ナリ被上ノ事由ニヨリ原判決ハ結局破毀ヲ免レサルモノナリト謂ヒ」第二點原判決ハ法律ノ適用ヲ誤リタル違法在リ原判決ハ本件事實理由ニ於テ上告申立人健藏ノ所爲ヲ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第二百二十八條(以下選舉法ト略稱ス)ニ該當スト判示セルモ右選舉法第二百二十八條ニハ「立會人正當ノ事故ナクシテ本法ニ定メタル義務ヲ缺クトキ」ニ限り處罰スヘキモノニシテ原判決ハ本法ニ定メタル義務即チ選舉法第何條ニ定メタル義務ヲ缺クヤ判示セス不明ニシテ加之直チニ選舉法第二百二十八條ヲ適用スルカ如キハ法律ノ適用ヲ誤リタル違法在リテ破毀セラルヘキモノト信ス殊ニ本件上告申立人カ立會人タル選舉ハ縣會議員選舉ニシテ府縣制第二章第一款以下ニハ府縣會議員選舉中立會人ノ規程明定セラレ其ノ義務ヲ明カニ爲シ居レリ府縣制第三十九條ニハ選舉法第十章及第十一章並第四百四十四條第二項第四百四十二條及第四百十七條ノ規定並ニ府縣制第四十條ニテ選舉法ノ罰則カ準用セラルルト選舉法第八、九、十章ハ府縣制施行令第二十條ニテ準用セラル可キモノアルノミ選舉法第二百二十八條ノ所謂「本法ニ定メタル義務」ハ府縣制ノ準用ナキ投票立會人ニ及ハサルハ明カニ法ノ不備ナルカ故ニ原判決ハ之カ明示ヲ避ケタルニ非スヤ果シテ然ラハ一層法ノ適用ヲ誤リタル違法明瞭ナリト謂ハサル可カラス第一審判決ニハ「府縣制第十六條所定ノ義務ヲ盡サス」ト明示シ原審判決ニハ之ヲ明示セス府縣

制第十六條ハ府縣會議員選舉ノ罰則タル選舉法第二百二十八條ニ該當スルモノトシテ準用セル規定存セサルニ於テオヤト謂ヒ」第三點原判決ハ選舉法第二百二十八條ノ精神ヲ誤解シテ適用シタル違法アルノミナラス重大ナル事實誤認アル事ヲ疑フニ足ル可キ顯著ナル事由アリ本件上告申立人ハ約二十分時計ヲ進メタル爲メ之ヲ知悉シ乍ラ情ヲ知ラサル投票管理者ニ告知セス投票所ヲ閉鎖シテ立會人ノ義務ヲ缺キタリト謂フニ在リ然レトモ投票立會人タル上告申立人ハ投票所閉鎖ノ權限ナシ選舉法第三十二條ニハ「投票所ヲ閉ツヘキ時刻ニ至リタル時ハ投票管理者ハ其ノ旨ヲ告ケテ投票所ノ入口ヲ閉鎖シ」ト規定シ投票管理者之カ責任者ナリ而シテ右法條ニ閉ツ可キ時刻トハ投票管理者カ通常人ノ注意ヲ以テ其ノ時刻ヲ計リテ決定スヘキモノニシテ尠クトモ自己カ信用シ得ヘキ時計ヲ持テテ之ヲ定ムルヲ常トシ「古キ不正確ナル村役場備付ノ時計」ニノミ信賴シテ爲スヘキニ非ス投票管理者ト云フカ如キ重大責任者カ其ノ始末書ニ依ルモ投票開始二十分後緊急用トモ見ヘサル縣道工事寄附金起債許可申請書ヲ縣廳地方課ニ持行クカ如キ又自宅ニテ晝食ヲ喫シ私用タル六女靜代ノ病氣ヲ松村病院ニ見舞ニ行クカ如キ状態ニテ眞ニ管理者トシテ緊張セル管理者ニ非スト雖通常ノ義務ヲ果シ居ルヤ宮本助役トノ差異ハ遠ク距レルモノアリヤ疑フ府縣制第三十一條ニハ「投票ノ拒否ハ投票立會人ノ意見ヲ應キ投票管理者之ヲ決定スヘシ」ト在リ宮本寅一ニ對スル檢事聽取書中ニ「前略自分ハ重田巡查ヤ村長ニ右ノ次第ヲ話シタルモ結局投票所ノ時計カ六時ヲ示シタルニ因リ投票ハ閉セラレタリトノ事ニテ投票スル事出

來サリキ」トノ記載ニ視ルモ投票管理人ハ投票立會人ノ意見ヲ聽キ居ラサル失當在リ被告人健藏ノ原審法廷ニ於ケル供述「前略唯助役ニ對シテハアノ時計ヲ其ノ儘ニシテ置イテハイカスト云フ趣旨ノコトヲ注意シタルコト前後三回アリタルモ」ト供述シ又同人ハ檢事局聽取書ニ「宮本助役ハ時計ノ分針ヲ一時間程廻シタ時夫レハ一寸ヒド過キルジャナイカト云ヒマシタノテ宮本助役モソウテアルト悟ツタモノカ十分程針ヲ戻シタ」云々又同人檢事局第二回聽取書ニ「前略一回ト又午後六時ノ投票場閉鎖前ニ二回ト注意シマシタカ選舉管理人ナル村長其ノ他ノ立會人モ更ニ耳ヲ傾ケス」ト供述シ居レリ右注意セル趣旨ノ供述ハ西岡昇等ニ於テモ檢事聽取書ニ明カニ記載セラレ居レリ即チ被告人健藏ハ立會人トシテ宮本投票管理人ニ注意反省ヲ求メ居レリ之ニテ立會人トシテノ義務ハ充分盡シ居ル事ハ道德上法律上極メテ明瞭ナリ或ハ云ハン投票所及投票函閉鎖ヲ拒ミ府縣制第三十四條ノ投票録ニ願末ヲ記載スヘキモノナリトモ考ヘラルルニ非サレトモ這ハ何レモ投票管理者ノ爲ス可キモノニシテ投票立會人ノ爲スヘキモノニ非ス投票所ヲ閉鎖スルトキハ適法不適法ニ拘ハラズ投票立會人ハ立會フ可キコト及投票ヲ監視スヘキコト不能ニシテ投票所ヲ正規ノ時間ヨリ早ク閉鎖セシメタル違法アリトセハ他ノ罰條ニテ問擬スルナラハ格別斷シテ立會人ノ義務違反ニ該當スヘキモノニ非ス殊ニ投票管理者ニ重大ナル責任アルニ拘ラス之ヲ問擬スル處無ク府縣制第十六條ノ投票管理者ノ公選立會人タル被告人健藏等ニ投票管理者ノ怠慢又ハ注意義務ヲ怠リテ正確ナル投票所閉鎖ノ責ヲ持セシムルカ如キハ失當モ甚

タシク被告人健藏ハ助役タル宮本哲夫カ村長タル投票管理者代理ニ對シ三回モ其ノ非ヲ注意スレハ立會人トシテノ責ヲ果シ選舉法第二百二十八條ノ「本法ニ定メタル義務ヲ缺キタルモノ」ニ非ス選舉法及府縣制ハ投票立會人ニ右ノ如キ場合ニ宮本管理者ニ如何ナル手段ヲ執ル可キカヲ明定セサル以上右ノ口頭ヲ以テ三回モ注意反省ヲ與フルヲ以テ足レリトスルヲ常識トシ適切トス右ノ如ク原判決ハ選舉法第二百二十八條ノ精神ヲ誤解シ適用シタル違法アルノミナラス重大ナル事實誤認アリテ原判決ハ破毀サル可キモノナリ今日ノ選舉ノ實際ハ候補者カ投票立會人ヲ依頼スルハ戸別訪問ナリト法ノ脅威ヲ感シツツ内交渉シ各方面ニテ謝絶セラレツツ在リテ實際選舉法運用ノ上ニモ投票ヲ行使セシムル上ニモ煩雜ナル事限無シ本件被告人ノ如キハ投票管理者ノ選任セルモノニシテソレカ一日ヲ休業シテ早朝午前七時ヨリ午後六時迄疲勞シテ得タルモノハ前科者タラントスル結果ニ外ナラス選舉法ハ血モ涙モナキ冷酷無情ノモノナルカ天ヲ恨ミ制度ヲ恨ム被告人健藏ハ村會議員トシテ善良ナル農民ニシテ村政ニモ縣政ニモ盡瘁セル滅私奉公ノ良民ナリ敢テ判官各位ノ御明鑑ヲ乞ヒ奉ルト云フニ在リ

仍テ案スルニ原判示事實ハ原判決舉示ノ證據ニ依リテ之ヲ證明スルニ十分ニシテ所謂柱時計ノ分針ヲ正時ヨリ約二十分進メ置キタル事實モ之ヲ認定スルニ足リ所論ノ如キ證據不備ノ違法アルコトナク又所論ノ如ク被告人カ時計ノ點ニ付投票管理者等ニ注意ヲ與ヘタル事實ハ原判決ノ認定セサルトコロニシテ原判決引用證據中被告人ノ原審法廷ニ於ケル所論同趣旨ノ供述部分ハ原審ノ措信セサルモノナル

【要旨】

コト明ナリ尙記録ヲ精査検討スルモ原判決ニ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルヲ見ス而シテ府縣制カ其ノ第十六條ニ於テ府縣會議員選舉ニ於ケル投票立會人ナルモノヲ定メタル所以ハ之ヲシテ投票所ニ臨ミテ投票管理者ノ投票管理事務ヲ監視シ依テ以テ其ノ事務ノ執行ヲ適正ナラシメ選舉ノ自由公正ヲ期セントスル趣旨ナルカ故ニ投票立會人ハ管ニ府縣制カ明文ヲ以テ規定シタル投票ノ拒否ニ付投票管理者ニ意見ヲ述ヘ又ハ投票録ニ署名スル等ノ義務アルノミナラス投票管理者ヲシテ苟クモ成規ノ時限ニ先チテ投票所ヲ閉鎖スルカ如キ事ナク投票管理ノ事務ヲ適正ニ執行セシムル爲時宜ニ應シ投票管理者ニ必要ナル注意ヲ與フル等適當ノ措置ヲ講スヘキ義務アルコト固ヨリ當然ニシテ所論ノ如ク投票立會人ニ投票所閉鎖ノ權限ナキ理由ヲ以テ右義務ヲ免ルルコトヲ得ス又縱令所論ノ如ク投票管理者ニ於テ投票ノ拒否ニ付投票立會人ノ意見ヲ聽カサリシトスルモ之ヲ以テ投票立會人ノ責任阻却ノ原由トナスニ足ラスサレハ府縣制ニ定メタル投票立會人ニシテ正當ノ事故ナクシテ前示義務ヲ缺キタル場合ニハ府縣制第四十條ニ依リテ準用セラルル衆議院議員選舉法第二百二十八條ヲ以テ律セララルヘキコト疑フ容レス何トナレハ同條ニ所謂本法ニ定メタル立會人ノ義務トハ府縣制ニ於ケル投票立會人ニ付テハ同制ニ定メタル投票立會人ノ義務ヲ指稱スルモノナルコト其ノ準用ノ法意ニ照シテ明白ナレハナリ翻ツテ原判決ヲ看ルニ其ノ判示事實ニ依レハ被告人ハ判示日施行セラレタル判示縣會議員選舉ニ際シ投票時間ヲ午前七時ヨリ午後六時迄ト定メラレタル投票ノ投票立會人トシ

ヲ判示投票所ニ臨席立會中投票管理者ナル村長辻本治良右衛門ノ代理者宮本哲夫カ投票所備付ノ柱時計ノ分針ヲ約二十分廻轉進行セシメ正時ヨリ早メ置キタルコトヲ知悉シナカラ情ヲ知ラサル投票管理者辻本村長ニ該事實ヲ告知スル等同管理者ヲシテ選舉ノ執行ヲ適正ナラシムル措置ヲ執ラサリシ爲同管理者ヲシテ該柱時計カ午後六時ヲ示スヤ直ニ投票所ヲ閉鎖セシメ因テ成規ノ時間ノ約二十分前ニ閉鎖スルニ至ラシメ投票立會人トシテ適正ナル投票施行ヲ監視スル義務ヲ正當ノ事故ナクシテ缺キタルモノナルカ故ニ前敍ノ理由ニ據リ被告人ノ所爲ハ府縣制第四十條ヲ以テ準用セラルル衆議院議員選舉法第二百二十八條ノ罪ヲ構成スルコト明白ナリサレハ原判決ハ正當ニシテ所論ノ如ク法律ノ適用ヲ誤リ衆議院議員選舉法第二百二十八條ノ精神ヲ誤解シタル等ノ違法存スルコトナシ論旨執レモ理由ナシ以上ノ理由ニ則リ刑事訴訟法第四百四十六條ニ從ヒテ主文ノ如ク判決ス

檢事三田勝關與

○衆議院議員選舉法違反市會議員選舉法違反被告事件竝之ニ附帶スル
宮澤清作ニ對スル當選無効訴訟事件(昭和十三年(九)第五三九號 同年六月二十四日第三刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 關 内 勇 外一名 辯護人 佐藤名長 佐藤政長 佐藤重治 野田重司 野田重男 外四名
附帶當選無効訴訟被告 宮澤清作

【第一審】 仙臺地方裁判所 【第二審】 宮城控訴院

○判示事項

衆議院議員選舉法第三百三十六條ニ規定セル當選無効ノ性質——右第三百三十六條ニ選任及監督ノ意義——右選任又ハ監督ニ付相當ノ注意

衆議院議員選舉法第三百三十六條ニ規定セル當選無効ノ性質 右第三百三十六條ニ選任及監督ノ意義 右選任又ハ監督ニ付相當ノ注意ヲ爲シタリヤ否ヲ定ム

ヲ爲シタリヤ否ヲ定ムル標準

○判決要旨

- 一 當選人ニハ選舉事務長ヲ選任又ハ監督スルニ付相當ノ注意ヲ爲スヘキ義務アリテ此ノ義務ニ違反スルコトニ因リ當選無効ノ法律上ノ效果ヲ生スルモノトス【要旨第一】
- 二 衆議院議員選舉法第三百三十六條但書ニ選任及監督ニ付相當ノ注意ヲ爲シタリトハ選任又ハ監督ノ何レニ付テモ過失ナキノ意ナリトス【要旨第二】
- 三 右選任又ハ監督ニ付相當ノ注意ヲ爲シタリヤ否ハ客觀的注意義務ニ依リテ決スヘク主觀的注意能力ヲ以テ判スヘキモノニ非ス【要旨第三】

【參照】衆議院議員選舉法第三百三十六條

當選人其ノ選舉ニ關シ本章ニ掲ケル罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ當選ヲ無効トス選舉事務長又ハ選舉事務長ニ非スシテ事實上選舉運動ヲ總括主宰シタル者第三百十二條乃至第三百十三條ノ罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタルトキ亦同シ但シ選舉事務長カ刑ニ處セラレタル場合ニ於テ當選人カ選舉事務長ノ選任及監督ニ付相當ノ注意ヲ爲シタルトキ又ハ選舉事務長ニ非ズ

シテ事實上選舉運動ヲ總括主宰シタル者カ刑ニ處セラレタル場合ニ於テ當選人カ選舉事務長ニ非ズシテ事實上選舉運動ヲ總括主宰シタル者ナルコトヲ知ラザリシトキ若ハ其ノ者カ當選人ノ制止ニ拘ラズ事實上選舉運動ヲ總括主宰シタル者ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

○事實

第二審ハ被告人關内勇外一名ニ對スル衆議院議員選舉法違反市會議員選舉則違反被告事件ニ附帶スル當選無効附帶訴訟ニ於テ左記ノ事實ニ對シ昭和十二年四月三十日宮城縣第一區ニ於テ施行セラレタル衆議院議員選舉ニ於ケル被告ノ當選ハ之ヲ無効トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

原告ハ主文同旨ノ判決ヲ求ムル旨申立テ其ノ請求原因トシテ被告ハ昭和十二年四月三十日施行セラレタル衆議院議員選舉ニ際シ同月三日宮城縣第一區ヨリ立候補シ同月五日公訴被告人門屋直哉ヲ其ノ選舉事務長ニ選任シ選舉運動ヲ爲シタル結果落選シタルモ偶々當選人菅原傳ノ死亡ニ因リ同年五月二十四日選舉會ノ決定ニ基ク其ノ當選人トナリタルモノナルトコロ右門屋直哉ハ選舉事務長トシテ被告ノ爲選舉運動中衆議院議員選舉法第十二條第一項ニ該當スル罪ヲ犯シタル爲同年五月三十日該事實ニ付仙臺地方裁判所ニ公訴ヲ提起セラレ(同年六月一日追訴豫審請求)豫審ニ於ケル審理ノ結果同年七月二十四日同裁判所ノ公判ニ付セラレタルヲ以テ衆議院議員選舉法第八十四條第二項第三百三十六條ニ依リ本訴ニ及ヒタリ然ルトコロ右公訴被告人門屋直哉ハ仙臺地方裁判所ニ於ケル審理ノ結果依然右選舉法第十二條第一項第一號ニ該ル罪ヲ犯シタルモノトシテ昭和十二年十二月十六日有罪判決ノ言渡ヲ受ケ之ニ對シ同被告人ヨリ控訴ヲ申立タルモ昭和十三年二月十日該控訴ヲ取下ケタルヲ以テ右判決ハ既ニ確定シタルモノナリト陳述シ被告

衆議院議員選舉法第三百三十六條ニ規定セル當選無効ノ性質、右第三百三十六條ニ「選任及監督」ノ意義、右選任又ハ監督ニ付相當ノ注意ヲ爲シタリヤ否ヲ定ムル標準

人ノ抗辯事實中右門屋直哉ノ經歷ニ關スル事實及同人カ昭和七年及同十一年ノ衆議院議員選舉ニ際シ被告ノ選舉事務長ニ就任シタル事實ハ之ヲ認ムルモ右門屋直哉ノ選任及監督ニ付相當ノ注意ヲ爲シタリトノ點ハ之ヲ否認スト述ヘ立證トシテ公訴被告人門屋直哉ニ關スル本件併合記録全部ヲ援用シ乙第一號證ノ成立ヲ認メタリ

被告訴訟代理人ハ原告ノ請求ヲ棄却ストノ判決ヲ求メ答辯トシテ原告ノ主張事實中被告カ昭和十二年四月三十日施行ノ衆議院議員選舉ニ際シ同年四月三日宮城縣第一區ヨリ立候補シ同年四月五日自カラ門屋直哉ヲ自己ノ選舉事務長ニ選任シ選舉運動ヲ爲シタル結果落選シタルモ當選人菅原傳ノ死亡ニ因リ同年五月二十四日選舉會ノ決定ニ基キ其ノ當選人ト爲リタル事實及右門屋直哉カ原告主張ノ如キ罪ヲ犯シタリトシテ同年五月三十日仙臺地方裁判所ニ公訴セラレ同年七月二十四日同裁判所ノ公判ニ付スル豫審決定アリ同裁判所ノ審理ノ結果同年十二月十六日原告主張ノ如キ有罪判決ヲ受ケ控訴シタルモ昭和十三年二月十日右控訴ヲ取下ケ該判決カ確定シタル事實ハ之ヲ認ムルモ其ノ他ノ事實ハ之ヲ否認ス

假リニ門屋直哉カ被告ノ選舉事務長トシテ就任中原告主張ノ如キ罪ヲ犯シタリトスルモ被告ハ右選舉事務長ノ選任及監督ニ付相當ノ注意ヲ爲シタルモノナルヲ以テ原告ノ本訴請求ハ失當ナリ即門屋直哉ハ明治二十九年中央大學ノ前身法學院ヲ卒業シ明治三十年辯護士試驗ニ及シ明治三十一年ヨリ同三十三年迄東京市ニ於テ辯護士事務ニ従事シ其ノ後同年五月ヨリ仙臺市ニ轉シ爾來今日ニ至ル迄三十九年間ノ久シキニ互リ在野法曹トシテ辯護士事務ニ従事シ來リタルモノニシテ同人ハ資性極メテ嚴正ナル一面温情ニ富ミ會テハ推サレテ仙臺市辯護士會會長ニ就任シタルコトモアリテ仙臺辯護士會内外ニ於テモ其ノ人格ヲ敬慕セラレ居ルモノナリ又同人ハ被告カ昭和七年及同十一年ノ兩度ノ衆議院議員選舉ニ立候補シタル際ニモ被告ノ爲メ選舉事務長ニ就任シタル經驗ヲ有シ而モ其ノ都度何等選舉法規ニ違反スルコトナク選舉事務長ノ大任ヲ果シタル次第ナルヲ以テ被告カ昭和十二年四月三十日施行ノ衆議院議員選舉ニ際リ同人

ヲ選舉事務長ニ選任シタルハ極メテ當然且適切ノ處置ニシテ其ノ選任ニ付相當ノ注意ヲ爲シタルモノト謂ハサルヘカラス然リ而シテ被告ハ門屋直哉ヲシテ其ノ選舉事務所ニ支出簿評價委員簿等ヲ備附ケシメ常ニ選舉費用ヲ明確ナラシメタル外政友會黨務部發行ニ係ル改正衆議院議員選舉法並關係法令註解ナル小冊誌ヲ交付シ置キ違反行爲ナキ様嚴重ニ注意ヲ與ヘタリ更ニ被告ハ候補者トシテ演說等ノ爲極メテ多忙ナリシニ拘ラス寸暇ヲ割キ演說會場ニ赴ク前後必ス事務所ニ立寄り違反行爲ヲ爲ササル様門屋事務長ニ對シ繰返シ注意ヲ與ヘ居リタルモノナルヲ以テ其ノ監督ニ付キテモ相當ノ注意ヲ爲シタルモノト謂ハサルヘカラス仍テ原告ノ本訴請求ハ失當トシテ棄却スヘキモノナリト陳述シ立證トシテ乙第一號證ヲ提出シ原審ニ於ケル證人身崎勇藏同加藤照夫ノ各證言及當審ニ於ケル證人門屋直哉ノ證言並本件公訴記録ヲ援用シタリ

尙第一審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人門屋直哉ヲ罰金五百圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金五圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ昭和十二年四月三十日施行セラレタル衆議院議員選舉ニ際シ宮城縣第一區ヨリ立候補シ落選シタルモ當選人菅原傳ノ死亡ニヨリ同年五月二十四日選舉會ノ決定ニ基キ其ノ當選人トナリタル宮澤清作ノ爲右選舉ニ付選舉事務長トナリタルモノナルトコロ

第一 選舉委員關内勇ト共謀ノ上同候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ

一 同年四月十三日頃仙臺市東二番丁百十五番地ナル同候補者ノ選舉事務所ニ於テ選舉委員荒井一ニ對シ同候補者ノ爲ニスル選舉運動ノ報酬等トシテ金五十圓

衆議院議員選舉法第百三十六條ニ規定セル當選無効ノ性質 右第百三十六條ニ「選任及監督」ノ意義 右選任又ハ監督ニ付相當ノ注意ヲ爲シタリト否チ決定ムル標準

- 二 同月十三、四日頃仙臺市袋町二十番地伊藤三秋方ニ於テ選舉人高階房吉ニ對シ同候補者ノ爲選舉運動ヲ爲シタルコトノ報酬トシテ金十圓
 - 三 同月十四日頃右選舉事務所ニ於テ選舉人齋藤廣治ニ對シ同候補者ノ爲選舉運動方ヲ依頼シ其ノ報酬等トシテ金三十圓
 - 四 同月十四日頃及三十日頃ノ二回ニ互リ前同所ニ於テ豫テ關内勇ヨリ同候補者ノ爲選舉運動方ヲ依頼セラレ居リ且同月二十六日選舉委員トナリタル山本金吾ニ對シ同候補者ノ爲ニスル選舉運動ノ報酬トシテ合計金二十五圓
 - 五 同月十四日頃及三十日頃ノ二回ニ互リ仙臺市東二番丁百五番地ナル右候補者方其ノ他ニ於テ選舉委員鈴木藤次郎ニ對シ前同趣旨ノ下ニ合計金三十圓
 - 六 同月十四日頃及三十日頃ノ二回ニ互リ右選舉事務所ニ於テ選舉委員身崎勇藏ニ對シ前同趣旨ノ下ニ合計金三十圓
 - 七 同月十九日頃前同所ニ於テ豫テ同候補者ノ爲選舉運動方ヲ依頼セラレ居リタル選舉人畑中清四郎ニ對シ前同趣旨ノ下ニ金二十圓
- ヲ各供與シ
- 第二 同候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ同月十九日頃右選舉事務所ニ於テ豫テ同候補者ノ爲選舉運動方ヲ依頼セラレ居リタル選舉人松尾力治ニ對シ右選舉運動ノ報酬トシテ金二十圓ヲ供與シタルモノニシテ被告人ノ右所爲ハ犯意繼續ニ係ルモノナリ

○主 文

本件公訴及附帶訴訟ノ上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○理 由

附帶訴訟被告宮澤清作訴訟代理人辯護士佐藤長成同佐藤政治郎同袴田重司上告趣意書第一點原判決ハ法律ヲ誤解シタル違法アリト思料ス原判決ハ「先ツ其ノ監督ノ點ニ付審核スルニ成立ニ爭ヒナキ乙第一號證及原審證人身崎勇藏、加藤照夫當審證人門屋直哉ノ各證言ヲ綜合スレハ被告カ選舉事務長タル門屋直哉ニ對シ支出簿評價簿等ノ法定帳簿ヲ選舉事務所ニ備付ケシメ且同所ニ政友會黨務部發行ニ係ル改正衆議院議員選舉法及其ノ關係法令註解ナル小冊子ヲ用意シ置キタルコト被告カ選舉運動中屢々右事務所ニ出入シタルコト及右門屋直哉ニ對シ其ノ選舉事務長選任當初又ハ其ノ後ニ於テ口頭ヲ以テ違反行爲ナキ様一應ノ注意ヲ爲シタルコトハ孰レモ之ヲ認メ得サルニ非サルモ未タ之ノミヲ以テ其ノ監督上相當ノ注意ヲ爲シタルモノトハ謂ヒ難ク其ノ他本件記録ニ徵スルモ被告カ門屋事務長ノ取扱ニ係ル選舉運動費ノ使途及方法ニ付違反ナカラシムヘク之ヲ實地ニ調査シ當時其ノ監視ヲ爲ス等監督上相當ノ注意ヲ爲シタル事實ヲ肯認スルニ足ルヘキ證左ナシ」ト判示セラレタリ然レトモ右判示ハ選舉運動ノ實情ヲ全然無視シ候補者ニ對シ何人ト雖實行不可能ナルコトヲ強制スルモノニシテ若シモ右判示是ナリトセンカ結局候補者ハ選舉中選舉事務所ニ立籠リテ選舉事務長ノ一舉手一投足ノ悉クヲ監視セサルヘカラサルコトトナリ從ツテ候補者自身ハ法ニ許サレタル演說等ノ選舉運動ヲ爲シ能ハサル結果トナルヘシ現時選舉運動ノ實情ヨリスレハ候補者カ自カラ陣頭ニ立テテ選舉運動ヲ爲シ殊ニ政見發

衆議院議員選舉法第三十六條ニ規定セル當選無効ノ性質 右第三十六條ニ「選任及監督」ノ意義 右選任又ハ監督ニ付相當ノ注意ヲ爲シタリヤ否ヲ定ムル標準

表ノ爲連日連夜演說會場ニ出場スルコトハ絶對的ニ必要ニシテ若モ之ヲ爲シ能ハサルモノトセハ到底當選ノ榮冠ヲ得難キモノト謂ハサルヘカラス而シテ本件ノ選舉事務長タル門屋直哉氏ハ第一審以來被告主張ノ如ク明治二十九年中央大學ノ前身法學院ヲ卒業シ同三十年辯護士試験ニ及第シ同三十一年ヨリ同三十三年迄東京市ニ於テ辯護士事務ニ從事シ其ノ後同年五月ヨリ仙臺市ニ轉シ今日ニ至リ實ニ三十九年ノ久シキ間在野法曹トシテ司法事務ニ關與シ來タリタルモノナリ同氏ハ資性極メテ嚴正ナル一面温情ニ富ミ嘗テハ推サレテ仙臺辯護士會長ニ就任シタルコトモアリテ仙臺辯護士會内ハ勿論會外ニ於テモ其ノ人格ヲ敬慕セラレ居ルモノナリ又同氏ハ被告カ昭和七年及同十一年ノ衆議院議員總選舉ニ立候補シタル際ニモ被告ノ爲選舉事務長ニ就任シタルコトアリタルモ兩度共何等選舉法規ニ違反スルトコロナク無事選舉事務長ノ大任ヲ果シタリ尙同氏ノ第二審ニ於ケル證言ニ依レハ同氏ハ以前ニモ衆議院議員候補者齋藤次郎氏ノ爲四回野副重一氏ノ爲二回合計六回今日ニ謂フ所ノ選舉事務長ヲ引受ケ選舉運動ニ從事シタルコトアリタルモ元ヨリ何等ノ過誤ナカリシナリ從ツテ斯ノ如キ人格ト經歷ヲ有スル門屋事務長ニ對シ候補者タル被告カ原判示ノ如ク「常時其ノ監視ヲ」爲スヘキモノトスルハ甚シク社會生活ノ實情ニ悖ルナリ殊ニ原判示「門屋事務長ノ取扱ニ係ル選舉運動費ノ使途及方法ニ付違反ナカラシムヘク之ヲ實地ニ調査」スヘキモノト爲スカキハ一般選舉ノ實際ノ狀況ニ鑑ミ甚タ妥當ヲ缺ク見解ト論セサルヲ得ス即チ原判決ハ衆議院議員選舉法第三十六條ノ解釋ヲ誤リタルモノニシ

テ斯ノ如キ法律ノ重大ナル誤解ノ下ニ被告ノ主張ヲ排斥シ原告ノ請求ヲ認容シタル原判決ハ當然破毀セラルヘキモノト信スト云ヒ」第二點原判決ハ理由不備若クハ證據ニ依ラスシテ事實ヲ獨斷シタル違法アリト思料ス原判決ハ「却ツテ豫審ニ於ケル右門屋直哉ノ相被告人トシテノ被告ニ對スル訊問調書(記録六二一三丁以下)中被告自カラモ前示公訴被告人門屋直哉ニ對スル確定判決摘示ノ犯罪行爲ト同種犯行ヲ敢テ爲シタルカ如キ供述記載アルト前顯當審證人門屋直哉ノ證言ノ一部トヲ綜合スレハ寧ロ被告カ門屋事務長ニ於テ斯ル犯行ヲ爲スニ付故意ニ之ヲ看過セサル迄モ少クトモ之ヲ防止スルニ足ルヘキ監督上相當ノ注意ヲ爲ササリシモノナルコトヲ窺知スルニ十分ナリ」ト判示セラレタリ然ルニ原判決援用ニ係ル第一審證人身崎勇藏、加藤照夫及原審證人門屋直哉ノ各證言ニ依レハ候補者タル被告ハ選舉中演說等ノ爲極メテ繁忙ナリシニ拘ラス寸暇ヲ割キ演說會場ニ出發前及歸途(早クテ午後十一時多クハ十二時過キ)必ラス選舉事務所ニ立寄り絶對違反行爲ヲ爲ササル様事務長及委員勞務者等ニ對シ繰返シ注意警告ヲ與ヘタル事實アルノミナラス時ニハ乗合自動車賃、電車賃、應援辯士ニ供スル菓子代等ニ至ル迄干渉シ爲ニ運動者等ノ不滿ヲ買ヒタルカ如キ事實ヲモ十分窺知シ得ラルルニ拘ラス原院カ前判示ニ出テタルハ要スルニ候補者ノ違反行爲ト事務長ノ違反行爲ヲ彼是混淆シ更ニ進ミテ兩者間意思共通ノ事實アリト認ムヘキ證據ナキニ拘ラス之有ルモノノ如ク速斷シタル結果ナリト謂フヘシ即チ原判決中ノ右判示ハ此ノ速斷ヨリ出發シタル結論ニシテ甚タ失當ナリ從ツテ此ノ點ヨリ觀ル

衆議院議員選舉法第三十六條ニ規定セル當選無効ノ性質、右第三十六條ニ「選任及監督」ノ意義、右選任又ハ監督ニ付相當ノ注意ヲ爲シタリヤ否ヲ定ムル標準

モ原判決ハ破毀ヲ免レサルモノト信スト云ヒ」附帶訴訟被告宮澤清作訴訟代理人辯護士牧野賤男上告趣旨書上告人ハ原院ニ於テ「然リ而シテ被告ハ門屋直哉ヲシテ其ノ選舉事務所ニ支出簿、評價簿、委員簿等ヲ備付ケシメ常ニ選舉費用ヲ明確ナラシメタル外政友會黨務部發行ニ係ル改正衆議院議員選舉法及關係法令註解ナル小冊子ヲ交付シ置キ違反行爲ナキ様嚴重ニ注意ヲ與ヘタリ更ニ被告ハ候補者トシテ演說等ノ爲極メテ多忙ナリシニ拘ラス寸暇ヲ割キ演說會場ニ赴ク前後必ス事務所ニ立寄り違反行爲ヲ爲ササル様門屋事務長ニ對シ繰返シ注意ヲ與ヘタルモノナルヲ以テ其ノ監督ニ付テモ相當ノ注意ヲ爲シタルモノト謂ハサルヘカラス」ト主張シタルコトハ原判決ノ事實記載ニ明瞭ナリ而シテ原院ハ其ノ判決理由ニ於テ「被告ハ右選舉事務所ノ選任監督ニ付相當ノ注意ヲ爲シタル旨主張スルニ依リ先ツ其ノ監督ノ點ニ付審按スルニ……被告カ選舉事務所發行ニ係ル改正衆議院議員選舉法及其ノ關係法令簿ヲ選舉事務所ニ備付ケシメ且同所ニ政友會黨務部發行ニ係ル改正衆議院議員選舉法及其ノ關係法令註解ナル小冊子ヲ用意シ置キタルコトト被告カ選舉運動中屢々右事務所ニ出入シタルコト及門屋直哉ニ對シ其ノ選舉事務所長選任當初又ハ其ノ後ニ於テ口頭ヲ以テ違反行爲ナキ様一應ノ注意ヲ爲シタルコトハ孰レモ之ヲ認メ得サルニ非サルモ未タ之ノミヲ以テ其ノ監督上相當ノ注意ヲ爲シタルモノトハ謂ヒ難ク其ノ他本件記録ニ徵スルモ被告カ門屋事務長ノ取扱ニ係ル選舉運動費ノ使途及方法ニ付違反ナカラシムヘク之ヲ實地ニ調査シ當時其ノ監視ヲ爲ス等監督上相當ノ注意ヲ爲シタル事實ヲ肯認スルニ

足ルヘキ證左ナシ」ト説示セラレタリト雖此ノ原院ノ說明ハ全ク選舉ノ實際ヲ解セス從テ法律ヲ誤解セルノ甚シキモノナリ(一)選舉事務所長ハ老練ナル先輩辯護士ニシテ德望高ク而モ屢々上告人ノ選舉事務所長タリシコトアルハ原判決ノ事實記載ニ明ナリ(二)從テ選舉ノ實際ヲ知リ法律ヲ知ル事務所長ニ對シ法定帳簿ノ備付ヲ完カラシメ(三)改正選舉法及關係法令註解書ヲ交付シ(四)選舉運動中屢々事務所ニ出入シ(五)事務所長選任當初又ハ其ノ後ニ於テ口頭ヲ以テ違反行爲ナキ様一應ノ注意ヲ爲シタルコトヲ以テ未タ之ノミヲ以テ其ノ監督上相當ノ注意ヲ爲シタルトハ謂ヒ難シトセハ候補者ハ選舉運動ノ大部分ヲ廢シ選舉事務所長ノ監督ニ從事セサルヘカラス是レ選舉ノ實際ニ於テ行ハレ得ヘキ所ニアラスシテ亦法律ノ要求スル所ニモアラサルナリ候補者ハ選舉ノ利害ヲ一身ニ集メ演說ニ文案ニ應接ニ金策ニ情報ノ蒐集ニ而シテ選舉事務所長以下選舉委員勞務者ノ行動監視、演說會場ノ適否、ボスターノ巧拙、演說會告知ノ爲ノ文書ノ發送竝ニ其ノ範圍而モ最モ經濟的ナル考案等候補者ノ身體精神ハ晝夜ヲ分タス頗ル多忙ヲ極ムルモノナルコトハ少シク選舉ノ實際ヲ知ル者ノ首肯スル所ナリ故ニ法律ハ候補者ノ選舉事務所長監督ノ責任ヲ「相當ノ注意」ト定メ何人モ選舉場裡ニ於テ通常爲シ得ヘキ程度ヲ以テ足レリトセリ而シテ如上原院説示ノ上告人ノ監督行爲ハ即チ法律上事實上相當ノ注意タルコト疑ナキニ拘ラヌ之ヲ以テ足レリトセサル原判決ハ不當ナルノミナラス更ニ進ンテ原院ハ「選舉事務所長ノ取扱ニ係ル選舉運動費ノ使途及方法ニ付違反ナカラシムヘク之ヲ實地ニ調査シ當時其ノ監視」ヲ爲ス

衆議院議員選舉法第百三十六條ニ規定セル當選無効ノ性質、右第百三十六條ニ規定セル「選任及監督」ノ意義、右選任又ハ監督ニ付相當ノ注意ヲ爲シタルヲ否テ定ム

コトヲ以テ監督上相當ノ注意ナリト爲スニ至リテハ候補者ハ會社ノ支配人カ使用人ヲ監督スルヨリモ尙過重ノ責任ヲ負フモノト爲スモノニシテ事實上不可能ヲ強ユルモノナルノミナラス全ク法律上ノ根據ナキ妄斷ト云ハサルヘカラス以上ノ理由ニヨリ原判決ハ速ニ破毀セラレヘキモノト確信スト云ヒ一附帶訴訟被告宮澤清作訴訟代理人辯護士名川侃市上告趣意書第一點原判決ハ上告人ノ選舉事務長門屋直哉ノ選任監督ニ付キ相當ノ注意ヲ爲シタリトノ主張竝ニ立證ニ對シ被告(上告人)カ選舉事務長タル門屋直哉ニ對シ支出簿、評價簿等ノ法定帳簿ヲ選舉事務所ニ備付ケシメ且同所ニ政友會黨務部發行ニ係ル改正衆議院議員選舉法及其ノ關係法令註解ナル小冊子ヲ用意シ置キタルコト被告(上告人)カ選舉運動中屢々右事務所ニ出入シタルコト及右門屋直哉ニ對シ其ノ選舉事務長選任當初又ハ其ノ後ニ於テ口頭ヲ以テ違反行爲ナキ様一應ノ注意ヲ爲シタルコトハ孰レモ之ヲ認メ得サルニ非サルモ未タ之ノミヲ以テ其ノ監督上相當ノ注意ヲ爲シタルモノトハ謂ヒ難ク其ノ他本件記録ニ徵スルモ被告カ門屋事務長ノ取扱ヒニ係ル選舉運動費ノ使途及方法ニ付キ違反ナカラシムヘク之ヲ實地ニ調査シ當時其ノ監視ヲ爲ス等監督上相當ノ注意ヲ爲シタル事實ハ肯認スルニ足ルヘキ證左ナシト認定シ其ノ事務長ノ監督ヲ爲ス爲ニハ當時其ノ監視ヲ爲スノ要アリト爲シタリ然レトモ選舉運動中候補者ハ其ノ選舉區全般ニ互リ演說ヲ爲シ選舉人ニ對シ其ノ政見發表ノ必要アルモノニシテ選舉人ハ其ノ演說ニ依リ發表スル政見ニ付キ投票スヘキ候補者ヲ決定スルコトカ選舉法ノ目的トスル處ニシテ選舉ノ實際ニ於テモ候

補者カ選舉事務所ニ常時詰切リテ選舉事務長ヲ監督スルト云フカ如キハ全然不能ノコトニ屬ス然レハ原判決ハ候補者タル上告人ニ對シ選舉事務長監督ノ責任ニ付キ不能ノ事實ヲ強ヒタルモノニシテ違法ナリト云ハサルヘカラスト云ヒ一第二點原判決ハ第一點記載ノ如ク候補者ノ選舉事務長監督ノ責任ハ運動費ノ使途及方法ニ付キ違反ナカラシムヘク之ヲ實地ニ調査スルニ非サレハ監督上相當ノ注意ヲ爲シタリト稱シ難シト認定セルモ選舉事務長ハ運動繼續中連日不眠不休之ニ當リ而モ報酬ヲ受クル能ハサルモノナルノミナラス其ノ人格、閱歷、識見、手腕、地位等ニ於テ選舉委員ヨリモ優レタルモノナルコトヲ要スルモノナルヲ以テ選舉ノ實際ニ於テ候補者ハ選舉事務長ニ對シ絕對ノ信賴ト敬意ヲ表スルニ非サレハ其ノ運動ヲ完ウスルコト能ハサルコト論ヲ俟タサル處ナリ殊ニ上告人ノ選舉事務長門屋直哉ハ仙臺市ニ於ケル在野法曹ノ重鎮ニシテ人格高潔能ク選舉法ニ通曉シ且選舉運動ニ練達堪能ノ士タルノミナラス上告人ノ先輩ニシテ深ク信賴セル人ナリ故ニ上告人ハ選舉事務長タル門屋直哉カ選舉違反ヲ敢行スト云フカ如キハ夢想タモセサル處ナリ從ツテ上告人ハ其ノ事務長ヲ監督スルニ付キ日々其ノ帳簿ヲ検査シ其ノ所持金額ヲ調査スルカ如キ全ク事務長ノ人格ヲ無視シタル行動ハ上告人ニ於テ事實ニ於テ爲シ得ヘキモノニ非ス強ヒテ之ヲ爲ストキハ却テ事務長ノ怒リヲ買ヒ圓滿明朗ナル選舉運動ノ遂行ヲ不能ナラシムルモノト云ハサルヘカラス衆議院議員選舉法第三十六條ニ規定スル候補者ノ選舉事務長監督ノ責任ハ斯ル實際ヲ無視シタルモノニ非スシテ要ハ事務長ヲシテ違反ナカラシムル

衆議院議員選舉法第三十六條ニ規定セル當選無効ノ性質、右第三十六條ニ規定セル「選任及監督」ノ意義、右選任又ハ監督ニ付相當ノ注意ヲ爲シタリヤ否ヲ定ムル標準

ニ必要ナル監督ヲ爲セハ足ルモノナリ然レハ其ノ監督行爲ハ事務長ノ人ト爲リ地位等ニヨリ其ノ内容程度ヲ異ニスヘキハ當然ノコトニシテ其ノ監督ノ方法トシテ一律ニ違反ナカラシムヘク實地ノ調査ヲ必要トスルモノニ非スト云ハサルヘカラス從ツテ監督ノ責任ノ程度ヲ決スルニハ其ノ事務長ノ經歷、人格、素行等即チ選任ノ點ニ付キ調査シタル後ニ於テ爲スヘキモノナルニ拘ラス漫然實地ニ就キ調査セサルコトカ監督上相當ノ注意ヲ爲ササルモノナリト斷定セルハ全ク法ノ解釋ヲ誤リタル違法アリト云ハサルヘカラスト云ヒ」第三點原判決ハ被告(上告人)ニ對スル豫審判事ノ訊問調査ニ上告人自ラモ選舉事務長ニ對スル確定判決指示ノ犯罪行爲ト同種犯行ヲ敢テ爲シタルカ如キ供述記載アルト原審證人門屋直哉ノ證言ノ一部トヲ綜合スレハ寧ロ被告(上告人)カ門屋事務長ニ於テ斯ル犯行ヲ爲スニ付キ故意ニ之ヲ看過セサル迄モ少クトモ之ヲ防止スルニ足ルヘキ監督上相當ノ注意ヲ爲ササリシモノナルコトヲ窺知スルニ十分ナリト認定セルモ上告人ニ對スル訊問調査ニ事務長ト同種犯行ヲ敢テシタルカ如キ供述アルノ事實ヲ以テ直チニ事務長ニ對スル監督ヲ怠リタルノ證據ト爲スニ足ラス要ハ適切ナル監督ヲ爲シタルカ否カヲ事實ニ基キ判斷セサルヘカラス然ルニ原判決ハ上告人カ病氣ノ爲十分ニ事ノ真相ヲ代理人ニ説明スルコト能ハサリシ際公判期日ヲ開キ代理人ヨリ本人ノ訊問並ニ多クノ證人ヲ申請シテ其ノ選任監督ニ付キ相當ノ注意ヲ爲シタルコトヲ證明セントシタルニ對シ原審ハ其ノ證據調ノ申出ヲ却下シテ之カ取調ヲ拒否シナカラ推定ニヨリ相當ノ注意ヲ爲ササリシモノナリト斷定シタルハ違法ナリト云フニ在リ

【要旨第一】

仍テ按ズルニ抑々衆議院議員選舉法第百三十六條ニ於テ選舉事務長ガ同法第百十二條乃至第百十三條ノ罪(世俗ニ所謂買収犯)ヲ犯シ刑ニ處セラレタルトキ其ノ當選ヲ無効ト爲ス所以ノモノハ、蓋シ此ノ如キ不正手段ニ依ル當選ハ瑕疵アルモノニシテ、其ノ無價値ナル點ニ於テ議員候補者自ラ其ノ行爲ニ出デテ刑ニ處セラレタルト何等擇ブ所ナク、議員候補者ノ選舉運動ノ全體ヲ不正化セシムルモノアルニ由ル。然レドモ其ノ當選ヲ無効ナラシムル法理的根據ニ至リテハ、或ハ之ヲ當選人ガ選舉事務長ノ選任及監督ノ注意義務ヲ怠リタル爲ノ連坐責任ニ求ムル者アリ、或ハ單ニ當選ノ原因ヲ爲シタル選任運動ノ不法性ノ點ニ在リト解スル者アリテ、歸一スル所ナシト雖、同條但書ニ當選人ガ選舉事務長ノ選任及監督ニ付相當ノ注意ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラズト規定セルヲ以テ觀レバ、當選人ニハ選舉事務長ヲ選任又ハ監督スルニ付相當ノ注意ヲ爲スノ義務アリテ、其ノ注意義務ヲ怠リタル場合ニ於テ始メテ茲ニ義務違反ノ制裁トシテノ當選無効ナル法律上ノ效果ヲ來スモノト解スルヲ相當トス。偶々議員候補者ノ承諾ヲ得ズシテ推薦届出人ガ自ラ選舉事務長ト爲リ又ハ之ヲ選任シタルトキノ如キニ在リテハ候補者ニ監督ノ責任ノミアリテ選任ノ責任ヲ生ズルコトナキ例外の場合アルノ故ヲ以テ、右原則ヲ否定スルハ當ラズ。法ニ所謂「選任及監督」トアルハ宜シク「選任又ハ監督」ト解スベキナリ。夫レ然リ而シテ選任又ハ監督ニ付相當ノ注意ヲ爲ストハ即チ選任又ハ監督ニ付過失ナキノ謂

【要旨第二】

衆議院議員選舉法第百三十六條ニ規定セル當選無効ノ性質、右第百三十六條ニ「選任及監督」ノ意義、右選任又ハ監督ニ付相當ノ注意ヲ爲シタルト否チ定ムル標準